平成 31（2019）年度持続可能な開発目標（SDGs）を活用した

地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業

（里山保全体験を通した障がい者雇用促進を目指すプログラム事業）
報告書

令和２（2020）年３月 19 日

里山ウェルネス研究会

目　　次

**1　業務の概要 ・・・

1 業務の概要

ア　業務の目的

平成 27（2015）年９月 25 日に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」で中核をなすのが、世界が達成すべき 17 ゴール・169 ターゲットからなる SDGs(「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals)である。SDGs は、先進国、途上国の二元論ではなく、全ての国に適用される普遍性を持ち、環境・経済・社会の３側面に関する課題を統合的に解決することを目指すもので、パートナーシップの下で、あらゆるステークホルダーが力を合わせて取り組むことが求められている。

日本においても、政府一体となって SDGs に取り組むため、平成 28 年５月閣議決定により「SDGs 推進本部」を設置して、「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」を策定し、その取組を推進しているところである。しかしながら、国内では SDGs についての理解や具体的な取組等が十分に進展しているとはいえない状況にある。こうした背景を踏まえて、地域における環境課題への取組を、SDGs を活用し他の社会課題の取組と統合的に進めることで、それぞれの課題との関係の深化、ステークホルダーの拡大、課題解決の加速化等を進めるとともに SDGs への理解を促すことを目的とした。

なお、本事業においては、地域の担い手不足の課題が里山保全と木材利用にも大きく影響しており、自然あふれるこの地に、林家及び林業従事者と障がい者の取組（作業）をあわせることで、以下の課題を同時に解決することが持続可能な地域づくりにつながることを目的とした。

イ　事業の実施期間

- 事業全体の実施期間は平成 30（2018）年度～31（2019）年度までの２カ年とする。
- 平成 31 年度について、契約締結日～令和２年（2020 年）３月 19 日まで。

ウ　業務の内容

本事業では持続的な地域木材の活用、林業における雇用創出を目指し、間伐材を活用した製品づくりによる障がい者雇用を通した持続可能な地域づくりのための地域資源循環プランの作成、実践を行った。

（１）協議会の設置・開催
（２）平成 31 年度の事業計画の作成
（３）事業計画に基づく事業の実施
ア　実証事業及びプログラムの確立
　イ　林業家、林業関係者を中心としたログファイヤーの製作講座の実施
　ウ　市民向けの交流会及び報告会、セミナーの開催
　エ　活動のＰＲ等
（４）月次報告書及び進捗管理表の提出
（５）連絡会、成果共有会への参加
（６）支援事務局等との連携
（７）報告書の提出

エ　業務の実施体制

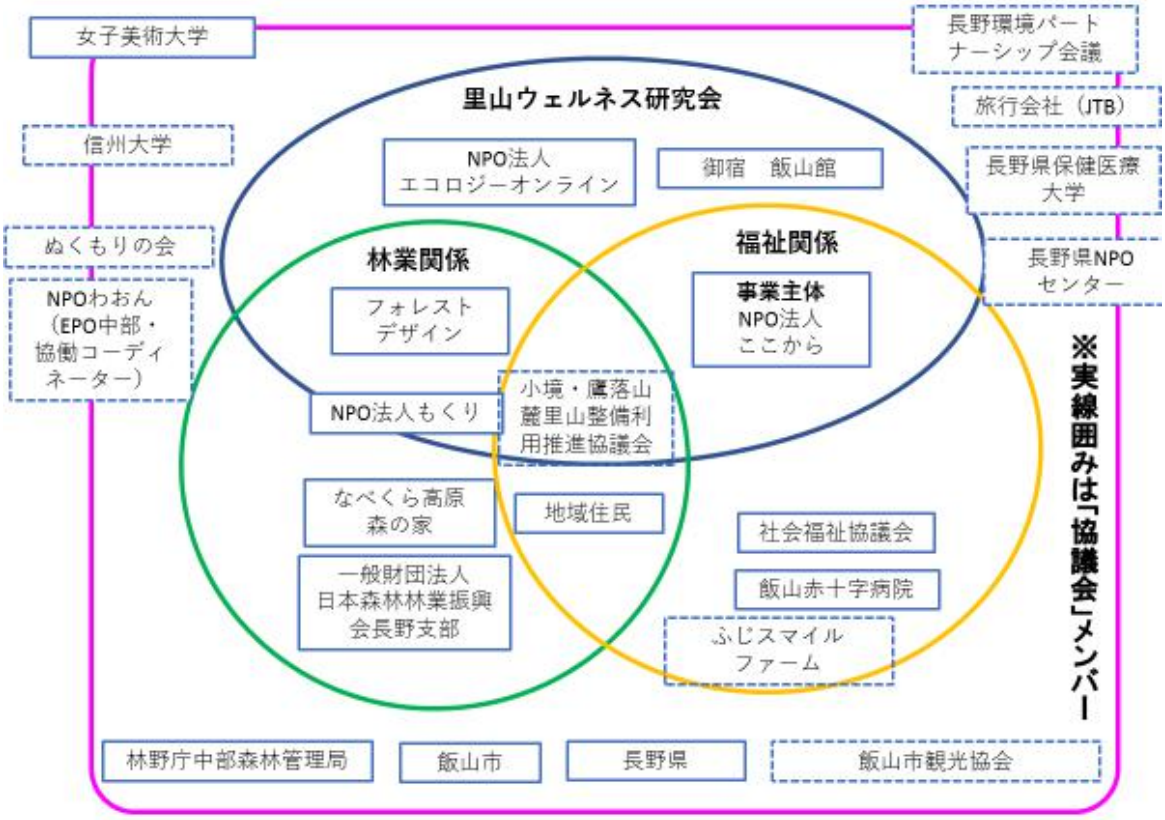
2018 年７月、栃木で SDGs 事業を手がける「NPO 法人エコロジーオンライン」が中心となり、長野県飯山市で里山保全事業を展開する「フォレストデザイン」、森林セラピーを手がける「御宿飯山館」、障がい者の自立支援を行う「NPO 法人ここから」とともに、「里山ウェルネス研究会」を設立した。この団体の設立の目的は、長野県の豊かな自然をベースに、里山体験や森づくりに関わる事業を展開していくものである。

本事業では主に、事務局業務（事業管理）・広報を「NPO 法人エコロジーオンライン」「御宿飯山館」、実証等事業の現場作業を「フォレストデザイン」「NPO 法人ここから」が中心として展開する実施体制となっている。

2 協議会の設置・開催

(1) 協議会（協働取組関係者）の構成

ステークホルダーとの関係図



各団体の主な役割

組織名	セクター	役割
NPO 法人エコロジーオンライン	民間団体	広報・事業管理
フォレストデザイン	企業	作業・プログラム安全管理
御宿　飯山館	企業	広報
NPO 法人ここから	民間団体	障がい者支援
なべくら高原森の家	民間団体	フィールド提供
日本森林林業振興会長野支部	民間団体	林業専門家派遣・情報提供
飯山市社会福祉協議会	民間団体	施設使用提供・サポート
飯山赤十字病院	民間団体	障がい者サポート
飯山市	行政	オブザーバー・活動支援
長野県	行政	オブザーバー・活動支援
中部森林管理局	行政	活動支援

(2) 開催した協議会

本事業の目的及び目標の共有を行うため、本事業に関わる協働取組関係者の役割を明確にするとともに、取組の具体的実施方法の協議等を行った。協議会には、協働関係者に加えて、オブザーバーとし、社会福祉協議会、長野県、飯山市、中部森林管理局等を参画し、協議会は４回開催した。

ア　第１回協議会

日時：令和元年５月 22 日（水）
場所：なべくら高原　森の家
内容：
・昨年度の報告、本年度の事業計画及びスケジュールについて
・同時解決事業についての説明
・ワークショップ
・ログファイヤーの普及企画会議（ログファイヤーのワークショップ）
・その他　意見交換

【ディスカッションで出てきたアイデア】

同時解決事業（中部）飯山林福連携事業 2019 年度・第 1 回協議会 WG

○これからの取組のアイデア等

目指す将来／SH や活動・事業の拡がり

・森カフェ（NPO わおん）でログファイヤー活用　恒例イベント化
・販売について、ログファイヤーを全国に販売。当振興会で販売窓口となる
・木材のエネルギー利用
・事業を軌道に乗せることが必要であるため、活用いただける企業との連携
・地域通貨の創設
・雇用促進。安定した収入。働く場、居場所（やりがいのある）
・若い学生との協働
・大学祭への出品
・災害時等でのログファイヤー使用の可能性
・長野市内でのデモンストレーション（街角広場等）

ログファイヤーの地域資材化／地域での活用展開

・ふるさと納税返礼品←障害者の方が加工…アピールポイント！

・バックアップ評価項目３から地域を考えると、ログファイヤーの名前を「ログファイヤーIIYAMA」にしてはどうか

・飯山市主催イベントへの出品

・森の中に入り、森の中で間伐されたログファイヤーの材を運ぶ→里山に下ろして、皮をむく→達成感を与える→体験型 AC→アクショントラブルの実行

・学校行事としてのキャンプへの PR

・地元での PR（ログファイヤーの使用の可能性）

・キャンプ場等のレクリエーション施設での販売による認知

・広葉樹でのログファイヤー

・地酒のカンをログファイヤーでつけながら、地元食材と酒を楽しむ

・資源を大切に使う、ボーイスカウト　ガールスカウトの野外活動やセレモニーに活用する→調理、照明、キャンプファイヤー　雪中キャンプ活用実演

・ふるさと体験セット（山生活）、飯山の産品（アスパラ等）とログファイヤーをセットにして通販

・ログファイヤーの活用事例を広く知らせる

・他のイベント等のだき合わせ提案。認知症＋ログファイヤー（森林セラピー）

・キャラクターの有効活用

・ログファイヤー着火コンテスト、ログファイヤー長時間もやすコンテスト

イ　第２回協議会

日時：令和元年７月４日（木）

場所：いいやま里の家

内容：

・障がい者施設利用者の作業見学

・施設職員による利用者の様子等のお話

・作業におけるワークショップ

・第１回協議会の振り返り

・その他　意見交換　等

【ディスカッションで出てきたアイデア】

191704 飯山林福連携協議会②ワーキングの結果

今後の事業展開の可能性についてのアイデア

	2019年度末(同時解決事業終了)までに	2022年度末までに	さらに長期目標として
生産関連	・ 福祉企業センターに仕事がない→作ってもらう ・ ログファイヤーの規格の設定 ・ ログファイヤー製作・使用マニュアル／ログファイヤー製作のマニュアルづくり	・ 廃材→間伐利用→ログファイヤー販売化へとつなげる ・ 県内の他の障がい者施設への広がり	・ 障がいのある方が通いやすい場所へ拠点施設の移動（駅周辺、空き家の活用） ・ 自立訓練協力事業所→就労継続支援施設 ・ 内職化できないか→引きこもり対策 ・ 障がい者以外への広がり
活用方法として	・ 県外市内の団体での活用展開 ・ 教育用プログラムの開発、展開（先生向けの研修）	・ 森カフェ定例イベント化 ・ 海外イベント in 飯山（姉妹都市経由） ・ BS・GS と連携し奉仕・福祉・野外活動につなげる。2020-13th（8/12-16、12,000人予定）福島県いなわしろ町日本シーナリーに協力・参加	・ 皮むき体験、障がい者交流つき ESD ツアー
商品展開／販売ルート関連	・ とにかく販売（PR）ログファイヤー ・ ふるさと納税、商品販売だけではなく体験・宿泊の観光パッケージ ・ 募集金が販売窓口になって全国へ販売	・ アウトドア用具店・ホームセンターに置けるようにしたい ・ ログファイヤー周辺キット ・ 手軽にログファイヤーを扱うことが出来る商品の販売（食卓に設置可能な大きさのもの）	・ 家の中で使えるログファイヤーミニ
PR戦略関連	・ ネーミング／スウェーデントーチ→イイヤマトーチ（愛称） ・ ここからとの協働 PR（野菜の販売とあわせて） ・ 市・県のイベントでの PR（展示を含む）	・ ログファイヤーのメジャー化→認知を広げる、誰もが知っているワードにする ・ 長野県や飯山市が推奨する商品になる ・ ログファイヤーを地域ブランドの一つに ・ 私が作っていますものがたりブックレットの作成	
プロジェクトとして		・ 自立した取組展開（里山ウェルネス）（詳細 ESD 事業）	・ SDGs プラットフォーム ・ 高付加価値の里山づくり ・ 里山公園

1

福祉施設の人たちによる作業の現場を見て得られたアイデア

	福祉施設の方たちによる作業を見て感じたこと	障がい者の雇用支援について	
		この事業で取り組めると良いと思ったこと	発信していくこと（発信内容・方法など）
安全性	■ 安全性（刃物を使うので十分な留意が必要） ■ 刃物の扱いに注意 ■ 見守る側の心構え ■ 2人がかりで固定している ■ 共同作業 ■ 刃物のあつかい方が見ていて安心して見れらた	■ 安全作業 ■ 作業性（作業治具等） ■ 使い方指南ガイド ■ 固定の方法を検討・確立 ■ 作業工程の明示（内容） ■ 作業の問題の見える化 ■ 治具をしっかり作って安全に効率的に ■ 安全に作業を行える教育・環境づくり	
生産体制		■ 作業のお手伝いにボランティアや高齢者にお願いできないかな ■ 他の事業所からも障がい者を受け入れたらどうかな ■ 看護学校の実習を受けてみては？ ■ 作業場、実習先の確保（不足） ■ 市民、行政等が理解し活用するなど支援する体制	
作業現場の付加価値	■ きれいに作業 ■ 作業がていねい ■ 成果が見せやすい（キレイになる） ■ まじめに取り組んでいる ■ いきいきしている ■ 楽しく真剣に作業を行っていた ■ 木の香りをかぎながらの作業変化 ■ 木に触れている姿がにこやか、おだやか ■ 木材を使った詩の心理、どんな気持ちで接しているか	■ 林業家と福祉作業施設が連携したケース ■ 普通の市民と障がい者がペアを組む交流 ■ 健常者とのペア作業 ■ 健常の人も穏やかになれる→ペアを組む ■ 障がい者の方との作業（教育）（高校生）SDGs ■ 楽しさを人に知らせる、体験観光に組み込む	■ 林福連携の可能性 ■ 手作業の良さ ■ 認知症予防の一つのスキル→木の香りをかぎながらの作業

2

	福祉施設の方たちによる作業を見て感じたこと	障がい者の雇用支援について	
		この事業で取り組めると良いと思ったこと	発信していくこと（発信内容・方法など）
やりがい	■ 達成感（やりがい等）	■ 目標は設定、ノルマは設定しない ■ やりがいの継続（継続性）	■ 作業者ひとり一人のサインがわりのマークーやりがい ■ 作った人のマークを入れる、誰が作っているか物語に ■ ログファイル（ログファイヤー？）を使った人の感想を届ける
			■ 障がいをもつ方が製作したという情報発信（障がいをもつ方への励み）
活用・販売		■ 活用が必要（コスト） ■ 皮をむいたログファイヤーの使い道の洗い出し	■ 道の駅や飯山駅で販売できないかな ■ ログファイヤーの活用 ■ ふるさと納税 ■ 災害時に使用ー灯り、薪に　ボーイスカウトの隊員に広めたい

3

ウ　第３回協議会

日時：令和元年 12 月 16 日（月）

場所：　飯山市社会福祉センター会議室

内容：

・第２回協議会アイデアに対する取組状況報告

・協議会メンバーに協力いただきたいことの抽出・確認

・PR ツールのアイデア抽出等

・事務局からのログファイヤーの事業展開に関する報告

・その他意見交換

【ディスカッションで出てきたアイデア】

1．今後の事業展開の可能性についてのアイデア 1/2

	7/4第2回協議会WG	11/1第3回連絡会でヒアリング	12/16第3回協議会WG	
	2019年度末（同時解決終了）までに	【事務局報告】⇒11月末現在の状況	付箋	補足ディスカッション
生産関連	・ログファイヤー製作・使用マニュアル／ログファイヤー製作のマニュアルづくり ・福祉企業センターに仕事がない→作ってもらう ・ログファイヤーの規格の設定	➢ 既にあり→充実化 ➢ 「福祉企業センター」を要確認 ➢ 含水率別の燃焼試験実施済み。規格サイズも明示	・飯山ログファイヤー規格の見える化 ・ログファイヤーのマニュアル化（製作・使用） ・特に製作マニュアルの福祉の方のかかわり方部分の整理 ・実はまた新しい形状を考えました	・福祉企業センター：職業訓練の実施施設。貿易戦争の影響で仕事が少なくなっている。（しかし「請負」となり、煩雑な手続ありで、本業務向きではない。） ・ログファイヤーは含水率20%以下がよく燃焼。出荷前に要確認。 ・よくある切り出し間伐材のサイズでおおよその規格を明示。
活用方法として	・県・市の団体での活用展開 ・教育用プログラムの開発、展開（先生向けの研修）	➢ 斑尾高原にサンプル提供中（モニター調査） ➢ 信州大学と間伐材を活用した環境学習プログラムづくりの連携の話あり（→コンタクトで停止状態）	・ログファイヤー製作講座の位置付けの明確化（例：マイスター認定） ・飯山ログファイヤーとしての差別化 ・活用事例の紹介 ・森カフェ養成講座との連携 ・地域の祭礼利用・催事 ・宿泊施設でプランを作りモニターを実施する ・ボーイスカウト・ガールスカウトと連携を計る	・信州大の建築学科学生と飯山の古民家建築屋が間伐材（学生が伐採）、古材を活用して建屋を建築するプロジェクトが進行中。 ・信州大のコーヒーサークルにログファイヤーを提供。喜んでいた。 ・11/23EPO主催フォーラムの森カフェ主宰NPOとログファイヤー活用を検討中。
商品展開／販売ルート関連	・振興会が販売窓口になって全国へ販売 ・とにかく販売（PR） ・ふるさと納税、商品販売だけではなく体験・宿泊の観光パッケージ	➢ 様子見？ ➢ ふるさと納税：書類作成中 ➢ JTBに登録予定、パッケージツアーの商談進行中	・間伐材の活用→環境保全の取組としての部分をもっと打ち出す ・数多くの利用・PR（見てもらう）	・森林林業振興会と販売窓口に関する打合せを1月に実施予定。 ・ふるさと納税：書類作ります。進めます。 ・パッケージツアー：森林セラピー＋認知症予防の展開も。

2

1．今後の事業展開の可能性についてのアイデア 2/2

	7/4第2回協議会WG	11/1第3回連絡会でヒアリング	12/16第3回協議会WG	
	2019年度末（同時解決終了）までに	【事務局報告】⇒11月末現在の状況	付箋	補足ディスカッション
PR戦略関連	・ネーミング／スウェーデントーチ→イイヤマトーチ（愛称） ・ここからとの協働PR（野菜の販売とあわせて） ・市・県のイベントでのPR（展示を含む）	➢ 11/23EPOフォーラムでは「飯山ログファイヤー」の呼称で広報。 ➢ 未定（今は既存作業のみで） ➢ 県産業フェアに出展 ➢ オリパラ活用を探り中	・オリパラ活用については障がいを持たれた方でも作成できることをPRしては? ・ログファイヤーを灯りでPR?（調理もできる?） ・説明用コンテンツパッケージづくり：パネル←ストーリー、PR、使い方、実物、関係備品 ・障がい者とログファイヤーの連携したイメージ図（PRデザイン） ・＋（プラス）コーヒー（学生サークル、森カフェと連携） ・身近なタレントに再度アプローチ ・出前授業に行きデモンストレーション ・障碍クラブにログファイヤーを出展	・飯山市の雪まつりから正式オファーあり（昨年はゲリラ的にログファイヤーを点火していた）。2/8-9かまくらペイントの横で点火のオファー⇒PRのチャンス。 ・昨年、二年参りで特大ログファイヤーの奉納を行った方から、好評だった（話題になった）ため今年も奉納してほしいと奉納先からの寄付依頼があり、今年も大型ログファイヤーを奉納することに。 ・オリパラでの活用：ホストタウンとの連携を検討中。 ・森林管理局もホストタウンとの連携に協力可能。
プロジェクトとして		➢ 国有林を活用したログファイヤーを検討		・国有林活用のログファイヤー等をレクリエーションの森（戸隠等）で活用の可能性を検討中。 ・「国有林プロジェクト」として次年度から取組予定。

3

2．福祉施設の人たちによる作業の現場を見て得られたアイデア 1/2

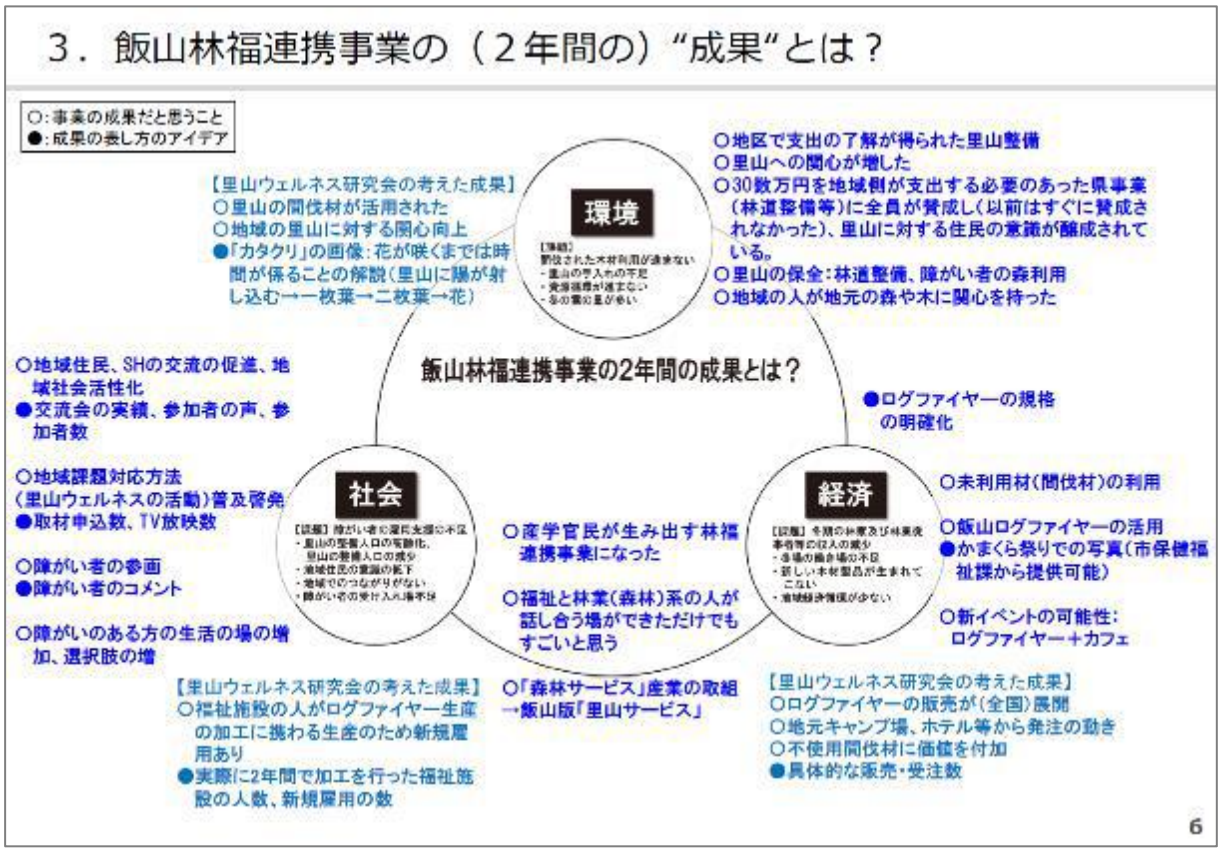
	7/4第2回協議会WG			11/1第3回連絡会でヒアリング	12/16第3回協議会WG
	福祉施設の方たちによる作業を見て感じたこと	障がい者の雇用支援として この事業で取り組めると良いと思ったこと	発信していくこと（発信内容・方法など）	【事務局報告】 今後の展開の可能性	付箋
安全性	■ 安全性（刃物を使うので十分な留意が必要） ■ 刃物の扱いに注意 ■ 見守る側の心構え ■ 2人がかりで固定している ■ 共同作業 ■ 刃物のあつかい方が見ていて安心して見られた	■ 安全作業 ■ 作業性(作業治具等) ■ 使い方指南ガイド ■ 固定の方法を検討・確立 ■ 作業工程の明示(内容) ■ 作業の種類の見える化 ■ 治具をしっかり作って安全に効率的に ■ 安全に作業を行える教育・環境づくり		➢ 「治具」の工夫を進めている。	➢ 安全作業・軽減作業で負担とならない作業の検討 ➢ 製作を簡易にする治具をつくりました ➢ 回転（作業しやすい）⇔固定（安全性）で悩ましい。 ➢ 使用道具別の治具についても研究中。
生産体制		■ 作業のお手伝いにボランティアや高齢者にお願いできないかな ■ 他の事業所からも障がい者を受け入れたらどうかな ■ 養護学校の実習を受けてみては？ ■ 作業場、実習先の確保(不足) ■ 市民、行政等が理解し活用するなど支援する体制		➢ 他事業所等との連携…現状ここからの受入のみで生産が間に合っている。 ➢ 学校等との連携…学校の授業での活用展開などに可能性あり。	➢ ひきこもりの方にも来てもらえると良い ➢ 対象を明確に(雇用ではなく)自立支援向き ➢ 作成品の完成度の維持向上 ➢ 養護学校の生徒は刃物作業は難しい。 ➢ 本事業は障がい者の「雇用・職場の確保」でなく「自立支援」と位置付けた方が良い。 ➢ 課題：「NPOここから」以外の団体による実証⇒「高水福祉会」が協力可能(市保健福祉課)
やりがい	■ 達成感（やりがい等）	■ 目標は設定、ノルマは設定しない ■ やりがいの維持（継続性）	■ 作業者ひとり一人のサインがわりのマーク→やりがい ■ 作った人のマークを入れる、誰が作っているか物語に ■ ログファイヤーを使った人の感想を届ける	➢ 今は作業で手一杯の現状。将来的に考えたい。	➢ 楽しみで来てくれるような工夫をする ➢ 購入者へのメッセージカード（コピーでも） ➢ 作業者コメントカードはやりましょう

4

2．福祉施設の人たちによる作業の現場を見て得られたアイデア 2/2

	7/4第2回協議会WG			11/1第3回連絡会でヒアリング	12/16第3回協議会WG
	福祉施設の方たちによる作業を見て感じたこと	障がい者の雇用支援について この事業で取り組めると良いと思ったこと	発信していくこと（発信内容・方法など）	【事務局報告】 今後の展開の可能性	付箋
作業現場の付加価値	■ きれいに作業 ■ 作業がていねい ■ 成果が見せやすい（キレイになる） ■ まじめに取り組んでいる ■ いきいきしている ■ 楽しく真剣に作業を行っていた ■ 木の香りをかぎながらの作業変化 ■ 木に触れている姿がにこやか、おだやか ■ 木材を使った時の心理どんな気持ちで接しているか	■ 林業家と福祉作業施設が連携したケース ■ 普通の市民と障がい者がペアを組む交流 ■ 健常者とのペア作業 ■ 健常の人も穏やかになれる→ペアを組む ■ 障がい者の方との作業（教育）（高校生）SDGs ■ 楽しさを人に知らせる、体験観光に組み込む	■ 林福連携の可能性 ■ 手作業の良さ ■ 認知症予防の一つのスキル→木の香りをかぎながらの作業	作業プロセスで障がい者＋一般市民の交流創出の可能性について ➢ 現状の実績・予定はない。 ➢ キコリと障がい者が一緒に生産→そのことが付加価値。 ➢ 環境学習等でフォレストデザインへ来た学生と一緒に皮むきなど、今後の可能性あり。	➢ 林業と福祉、環境保全についての"付加価値"をPRで明示・しっかり発信 ➢ 飯山ログファイヤー規格化←福祉連携のものが「飯山ログファイヤー」と位置付ける？ ➢ 健常者と一緒に作業：精神障がいの方は知らない人が苦手なため難しいであろう。
活用・販売		■ 活用が必要（コスト） ■ 皮をむいたログファイヤーの使い道の洗い出し	■ 障がいをもつ方が製作したという情報発信（障がいをもつ方への励み） ■ 道の駅や飯山駅で販売できないかな ■ ログファイヤーの活用 ■ ふるさと納税 ■ 災害時に使用→灯り暖に　ボーイスカウトの隊員に広めたい	販売ルート拡大のために ➢ 事業展開アイデアの実施などを検討。	➢ 障がい者の関わりを強調すべき ➢ 経済効果の創出（価格設定）も明示できるように

5



エ　第４回協議会

日時：令和２年１月 24 日（金）

場所：　飯山市文化交流会館なちゅら

内容：

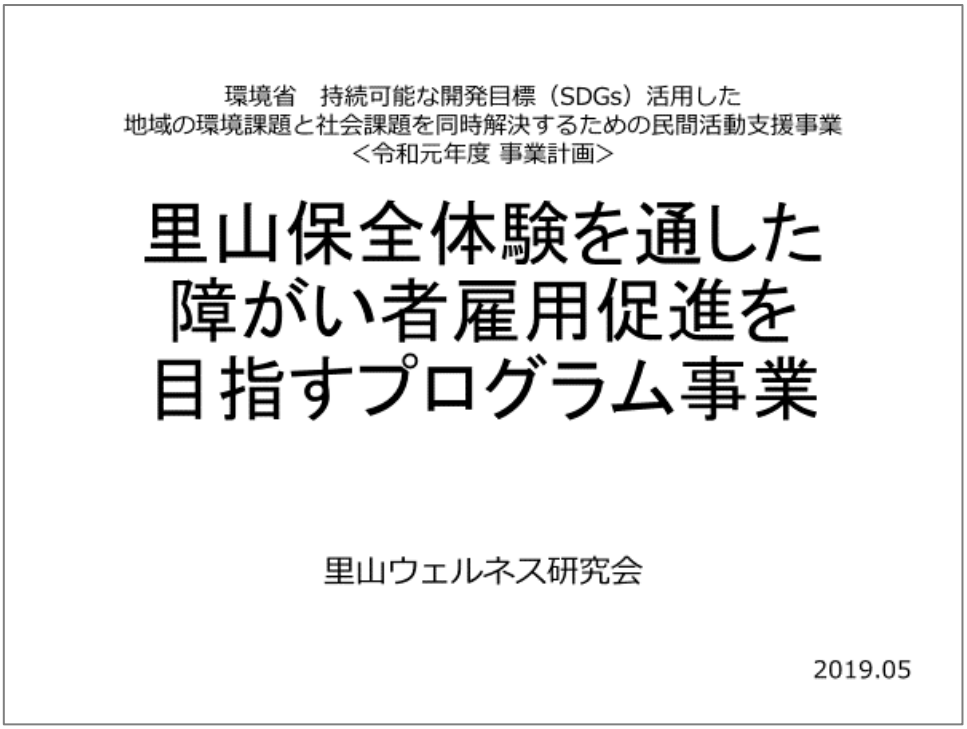
・本事業の振り返り

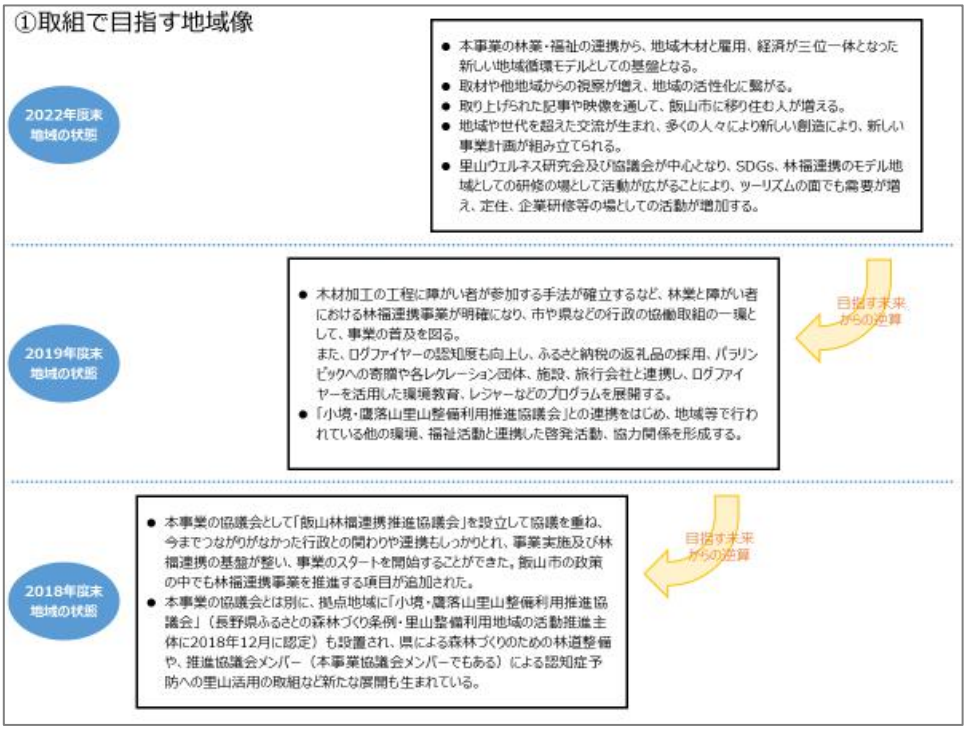
・今後の林福連携事業及び里山ウェルネス研究会の活動について

・意見交換

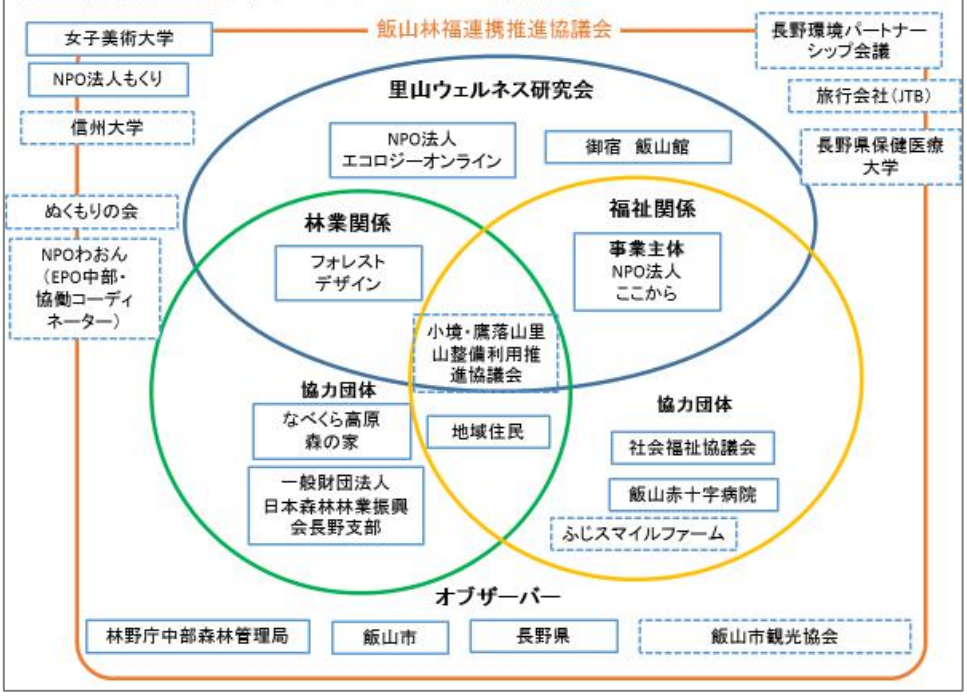
3 平成 31 年度の事業計画の作成

各ステークホルダーと、地域課題の明確化、事業の目的、目標、行動計画を共有するために２カ年の事業計画を作成した。





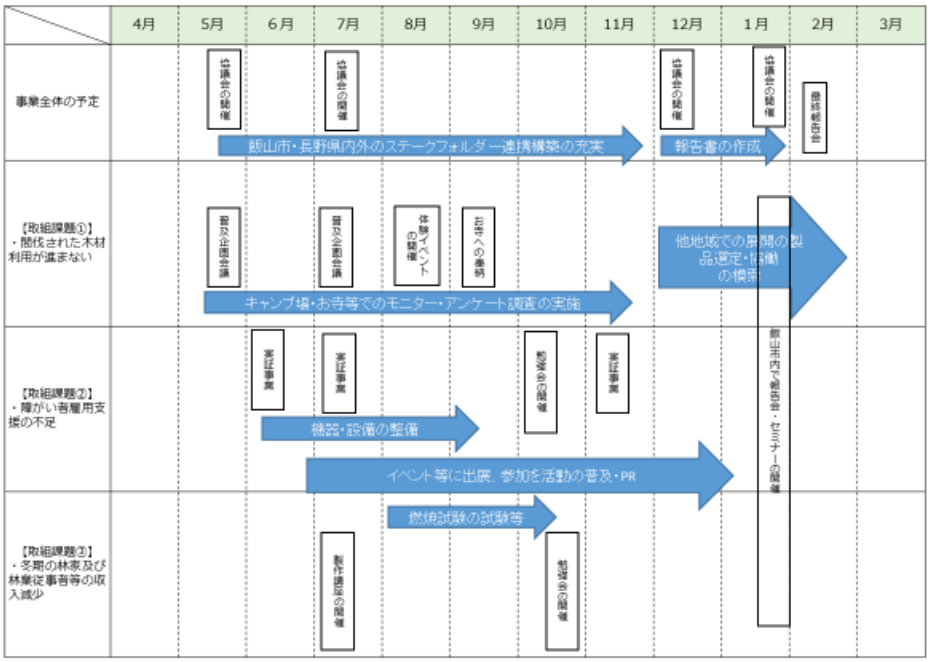
② 運営体制の整理（ステークホルダーとの関係性）



③ 2019年度末までの到達目標

項目	目標 （課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか）
【取組課題①】 ＜環境課題＞ ・間伐された木材利用が進まない	・間伐材を活用した地域の新しい木材加工品の普及に取り組み、地域や関係者が里山の価値を再認識し、里山の維持管理に対する地域の意識を向上させる。 ・木材加工品の生産を進めることにより、里山における資源循環としての間伐材利用を促進する。 ・地域の未利用間伐材の年間の使用見込み量が数値化する。
【取組課題②】 ＜福祉課題＞ ・障がい者雇用支援の不足	・地域の新しい木材加工品の製作における役割分担（必要人数）や稼動スケジュールを明確にする。 ・地域（市・県）の林業と福祉が連携した林福連携事業のモデル事業の構築に取り組む。 ・障がい者だけではなく、他の福祉事業と連携も模索する。
【取組課題③】 ＜経済課題＞ ・冬期の林家及び林業従事者等の収入減少	＜地域の新しい木材加工品の生産＞ ・市民や市内をはじめとする林業家の方がログファイヤーを製作できる展開を図る。 ・多くの場所で普及拠点ができ、3年後には林業従事者や関係者の人たちの収入の見込みが立てられるようにする。 ＜生産した木材加の活用方法の確保＞ ・ログファイヤーがパラリンピック等の大きなイベント及び旅行会社等での活用・採用が決まる。 ・キャンプ場、ボーイスカウト、お寺等で毎年の使用が3件確定させる。

④課題解決に向けたスケジュール（令和元年度）



⑤ 2ヵ年事業計画（H30.8）からの変更点

計画の変更点（項目）	変更した理由
・平成31年度の到達目標の変更	・本事業では、「里山と障がい者雇用の促進」というテーマの中で林業と福祉の連携において、林福連携としてきたが、異なる様々な分野のステークホルダーを巻き込んだ「協議会」で事業を進めていく上で、障がい者に加えて「里山と高齢者福祉」も事業の中でつなぐこととした。また、キャンプ場や宿泊施設と連携したツアー（観光）において、ログファイヤーの活用を図る追加の目標設定を行った。
・取組のアイディアの変更	・キーアイテムであるログファイヤーを地域経済の資源としていくため、林業家や市民に対するログファイヤーの製作講座の開催、協議会の中で地域資源として活用していくための方策等を検討する。
・取組のアイディアの変更	キーアイテムであるログファイヤーを多くの人に普及する上で、ログファイヤー使用に関するモニター事業の実施。これにより生まれたフィードバックを反映し、多くの人が製作でき、さらによりよいログファイヤーが完成でき普及することが期待できる。
・取組のアイディアの変更	・本事業の共同体性や巻き込み状況に関して、当初はツーリズム（観光）関係との連携は記載をしていなかったが、ツーリズム関係と連携した方が面白いという意見も多々頂き、企業研修等をひとつの候補としたツーリズムとの連携を追加した。

⑥ その他補足事項

■事業を進める上での課題やリスクとその対策

・協働主体をはじめ、複数の県をまたぎ、各ステークホルダーがそれぞれの仕事や他の活動等を抱えていることから、効率的・効果的な会議の運営必要である。そのため、役割分担を明確にし、適宜、事業主任者と各担当者のミーティング（電話ミーティング含む）等を図っていく。

・ログファイヤーを普及することで障がい者の作業促進や地域の未利用木材の利用促進につなげるという事業ではあるが、1つの製品の普及（販売促進）にならないよう多くの方を巻き込みつつ、目標達成に向け努力していく。

・いろんな方々からアドバイスを頂くが、各アドバイザリー及び審査の先生によりご意見に相違があり、困惑してしまうことが多々ある。都度、中部地方環境事務所、EPO中部と相談の上、事業を進めていく。

■その他、留意事項などがあればお書きください

・

4 事業計画に基づく事業の実施

(1) 実証事業及びプログラムの確立

ア NPO 所属者・利用者等を対象に一定期間を通した実証事業を実施

１年目に構築した進め方を中心に、「NPO 法人ここから」等の障がい者支援施設に所属する者及び施設利用者を対象に一定期間を通した実証事業を実施した。

本年度の事業においては、以下が実施日である。

実施日	出席者数		主な実証内容
	施設利用者	支援員	
5月 22 日	5名	1名	皮むき作業・やすりがけ作業
7月 4 日	2名	2名	皮むき作業・やすりがけ作業
9月 12 日	3名	1名	皮むき作業・やすりがけ作業
10 月 21 日	4名	1名	皮むき作業・やすりがけ作業
12 月 19 日	4名	1名	皮むき作業・やすりがけ作業

イ 実証事業後に参加者へのアンケート・ヒアリング等の実施

事業実施後、利用者(実証事業参加者)と施設の支援員に対して、アンケート（ヒアリング）を実施し、以下のようなコメントが得られた。

＜利用者の感想＞

- とてもやりがいがあった。こんな仕事をしてみたい。（１回参加）
- 楽しかった。始めは難しかったけど、やりやすい道具も作ってくれて良かった。(全参加)
- 腰が痛かったけど、楽しかった。夢中になって作業できた。だんだんと仕上がっていく数が増えていって、やりがいがあった。(全参加)
- 始めは緊張したけど、少しずつ慣れていった。まだ、緊張はするけど、楽しかった。（３回参加）
- 難しかったけど、少ししたら慣れた。また、やりたい。（１回参加）
- 疲れたけど、楽しかった。（２回参加）

＜支援員の感想＞

- 去年、皮むき作業の体験と道具の選定ということで活動することができ、利用者の　中で作業に対する心構えができたのは良かった。
- 施設から出て、皮むき作業をするという雰囲気の場所で作業できたことは、利用者のモチベーションが上がったように感じた。また、毎回、丁寧に指導していただけて良かった。
- 皮むきの作業に関して、始めは体験の続きの気持ちだったようだが、余頃さんからの用途別の利用方法などを聞いていくうちに、仕事としての活動という気持ちが芽生えていったように感じた。
- 緊張しやすいという特性の方たちが、作業を通じて他の人と関わり、指導を受けていくにつれて、少しずつご本人が自信をもって活動していく様子が見られました。すぐに緊張は解けなくても、「作業をする」「仕事をする」ということがご本人達に大きな変化をもたらしたと思います。
- 自立訓練施設は２年間あるいは３年間での受け入れ施設なので、ずっと同じ利用者がいることはないが、グリーンシーズンに１か月に１～２度くらいのスパンでこのような活動があると気分転換にもなるのでありがたい。

(2) 林業関係者等を中心としたログファイヤーの製作講座の実施

林業に携わる方への周知や本事業への賛同・協力を得られるように、「いいやま里の家」や「なべくら高原・森の家」等の近隣施設を活用し、林業家、林業関係者及び市民に向けたログファイヤー製作のための講座を開催した。

日時：令和元年７月 28 日（日）
場所：いいやま里の家
参加者：一般参加者９名　EP0２名
内容：
◎ デモンストレーション
　◎ 参加者による製作練習
　◎ 大きさ
　　小　直径 18 センチ～22 センチ　長さ 25 センチ～30 センチ
　　大　直径 25 センチ～30 センチ　長さ 35 センチ～40 センチ
　◎ 着火実習（★燃焼実験を同時実施）

ログファイヤー製作体験会
ご案内

■開催日時　2019年7月28日（日）13:30～16:00

■開催場所　いいやま里の家（フォレストデザイン事務所）
長野県飯山市大字豊田1105

■講習内容　ログファイヤーを、チェーンソーを使って製作します。
着火の方法も講習します。

■参加費　無料

■募集人数　10名程度

■申込み期限　7月24日（水）

■持ち物　作業のできる服装、軍手、タオル、作業用靴（長靴等）、雨具上下、筆記用具、飲みもの、保険証または保険証のコピー
※ヘルメット、防護メガネ、フォレストレガース（防護ズボン）、チェーンソーは事務局で準備いたしますが、ご自身でお持ちの方はご持参ください。

■お申込み・お問い合わせ：フォレストデザイン ・里山ウェルネス研究会

E-mail：info@forestdesigner.jp
Tel：0269-65-4653　　Fax：0269-65-4655

参加ご希望の方は以下の項目をメールまたはＦＡＸでお送りください。
※7月25日（木）が申込み期限です。

・氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

・電話番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

・メールアドレス＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(3) 交流会及び報告会、セミナーの開催

ア　地域住民を対象にクラフトづくりやログファイヤーの交流会

製作講座終了後に、参加者と地域住民との交流会を、製作したログファイヤーを活用して開催した。また、交流会の中で、SDGs の説明と同時解決事業の紹介を行った。

日時：令和元年７月 28 日（日）
場所：いいやま里の家
内容：SDGs の説明、交流会

イ　報告会と専門家によるセミナーの開催

市民団体、県民、行政職員、学校等幅広い方々を対象とし、地域の SDGs の取組の構築と本事業の２ヵ年事業の報告を目的とした、報告会及びセミナーを開催した。

日　時：令和２年１月 24 日（金）
場　所：文化交流会館なちゅら多目的ルーム１
参加者：25 名
＜内容＞

- SDGs の基礎
  SDGs・地域の向こうに地球が見える
  EPO 中部　原　理史
- 基調講演
  長野県内でのパートナーシップによる SDGs の取組から
  長野市市民協働サポートセンター　センター長　阿部今日子
  NPO 法人長野県 NPO センター　事務局次長　小林達矢
- 報告会
  飯山林福連携事業の報告会
  ①飯山市林福連携事業（SDGs 同時解決事業）の 2 ヵ年の成果
  里山ウェルネス研究会　事務局長　大和田正勝
  ②飯山市での林福連携事業についてとこれから
  里山ウェルネス研究会（フォレストデザイン）余頃友康

作成した開催案内チラシ

2019年度
環境省SDGs同時解決事業

飯山林福連携事業　セミナー・報告会
～SDGsとNPO～

平成27年9月25日に国連サミットにて「持続可能な開発のための2030アジェンダ」、世界が達成すべき17ゴール・169ターゲットからなるSDGs（「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals)が採択された。。SDGsは、全ての国に適用される普遍性を持ち、環境・経済・社会の３側面に関する課題を統合的に解決することを目指すもので、日本においても、政府一体となってSDGsに取り組むため、平成28年5月に閣議決定により「SDGs推進本部」を設置して、「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」を策定し、その取組を推進しているところである。

飯山市では、里山保全を手がける「林業家」のスタッフ不足、地域では精神障がい者のため「働く場」の不足などの多くの課題があげられており、こうした中、環境、経済、福祉をつなぐ「林福連携」の事業を環境省からの委託を受け開始しました。飯山市林福連携事業2ヵ年の活動報告会と長野県内のSDGsについて共有するセミナーを開催します。

日　時：令和2年1月24日（金）
時　間：13：30～16：00
場　所：文化交流会館なちゅら多目的ルーム1
（飯山市大字飯山1370-1）
参　加：無　料
定　員：３０名程度
主　催：里山ウェルネス研究会
後　援：飯山市（予定）
協　力：中部環境パートナーシップオフィス

【内容】
1.SDGｓの基礎
SDGs・地域の向こうに地球が見える
環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）
中部地方ESD活動支援センター　原　理史

2．基調講演
長野県内におけるSDGｓとNPOの取組・協働の役割とは（仮）
市民協働サポートセンターまんまる　阿部今日子

3.報告会
飯山林福連携事業の報告会
①飯山市林福連携事業（SDGs同時解決事業）の2ヵ年の成果
里山ウェルネス研究会　事務局長　大和田正勝
②飯山市での林福連携事業についてとこれから
里山ウェルネス研究会（フォレストデザイン）余頃　友康

<申込・問い合わせ>
里山ウェルネス研究会
飯山市大字豊田1105　フォレストデザイン内
TEL：0283-23-9758　FAX：0283-27-7217
メール：Info@eco-online.org　担当：大和田

里山ウェルネス研究会

(4) 活動のＰＲ

ア　活動のＰＲや製品化に向けた企画会議の実施

各協議会の WG 内で活動の PR や木材製品（ログファイヤー）の PR 方法を協議した。その中で出た意見を元に簡易説明書と使い方の動画を作成、制作した。

（ア）簡易説明書

ログファイヤーの使い方

●着火前に

・ログファイヤーは、雨のあたらない風通しの良い場所で保管し、乾燥したものをお使いください。日当たりが良いところですとなお良いです。

・火のトゲや火がらを破棄するため、軍手などを着用して使用してください。

・安定した場所にログファイヤーを設置してください。長いログファイヤーは、間に幅の広い板をビス留めするなどして、安定させてください。

・安全確保のため、バケツ等に十分な水を準備してください。

・割れ防止および除湿確保のため、切り込みに板や板を挟んである場合があります。取り除いてお使いください。取り除いた板や板は焚きつけとしてお使いいただけます。
ただし、板や板を取り除くことによって切り込みが閉じるようでしたら除湿確保のため、そのまま挟んでおいてください。

●着火

・ログファイヤーの上面のくぼみに、火のついた炭を置くか、着火剤の着火剤または小枝や割り箸に新聞紙などの紙を巻きつけにしてライター等で火をつけてください。うちわ等で扇ぐと、ログファイヤー本体への着火が早まります。

・着火剤を使用する場合は、ゼリー状のものや着火後溶けてしまうものは避けて、固形のものを使用してください。通常は１時間半程度燃えていますが、溶けやすい着火剤をお使いになり、火がくぼみの表面に早く届いてしまいますと、早く燃え終わります。

・一度ログファイヤー本体に着火すると、あとは自然に切り込みに沿って火が下がりながら燃えていきます。

●燃焼中

・ログファイヤーに完全に火がついた後、ログファイヤーの上部にリカンや鍋などをのせると、お湯を沸かしたり調理したりすることができますが、燃焼するに従い上部が薄くなっていきます。さらに燃焼させると、重量に耐えられず折れますので、適当なタイミングで上部にのせた物を下ろしてください。

・風がまともに当たっている場合は、燃焼に偏りが生じます（側面の燃え方に差が生じます）ので、回転させながら使用してください。

・火が強すぎる場合は、水をかけて火力を落としてください。完全に消火しなければ再度火力が調整できます。
逆に火が弱まりましたら、ウチワ等で煽いでください。ただし、ログファイヤーは上部から燃えていき、切り込みの下部にいくほど、火が強まりますので、火が下部に届く辺りでは、煽いでも炎は出ません（赤き火の状態で燃えています）。

●消火・終了

・切り込みの下端まで火が届いたら、自然に火が弱まり消えていきます。
ログファイヤーの端部と底面の一部は燃え残ります。

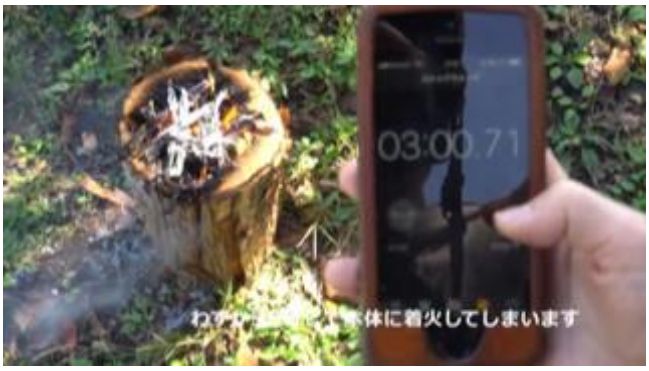
・確実に鎮火させるため、水をかけて煙が出なくなるのを確認してください。また、温度が下がったことを確認してください。

・残り残った部分は、行政区のルールに従って適切に処分しましょう。

●免責事項

・本製品によって生じるいかなる損害や損害等についてもーが責任を負いません。

（イ）使い方動画（一部掲載）



動画の URL：　https://www.youtube.com/watch?v=0R0U3FoDDu8&feature=share

イ　イベント等での実際の活用

飯山市内で開催されたイベントにてログファイヤーを提供した。

提供したイベントは令和元年９月 14 日開催の小境地区祭りと令和２年２月８日開催のかまくら祭り

（左：地区の夏祭りで奉納として使用した写真　右：かまくら祭りに提供した際の写真）

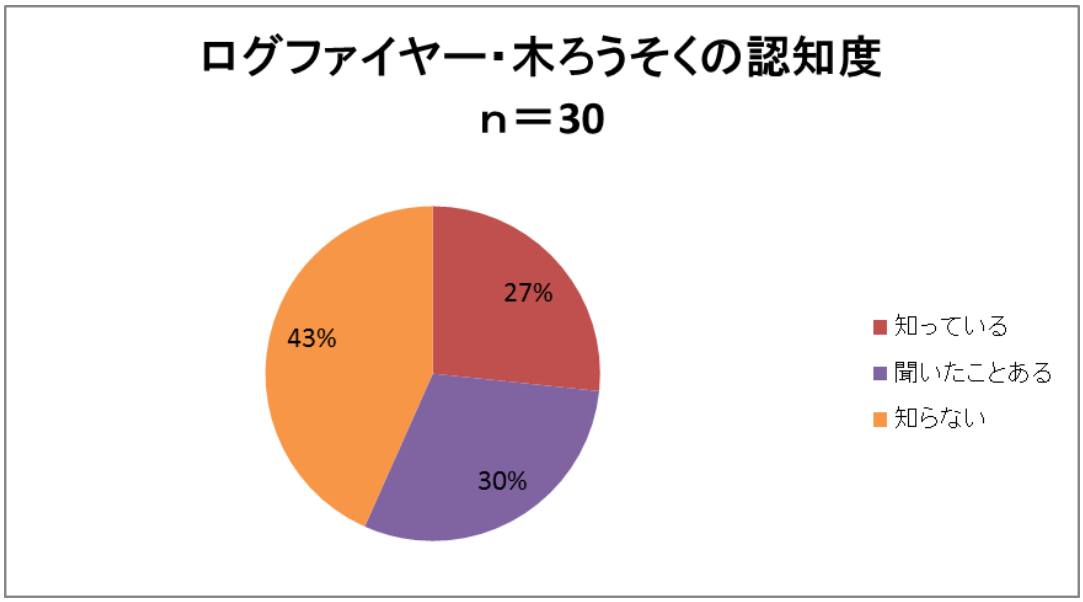
ウ　使用におけるモニター・アンケート調査の実施

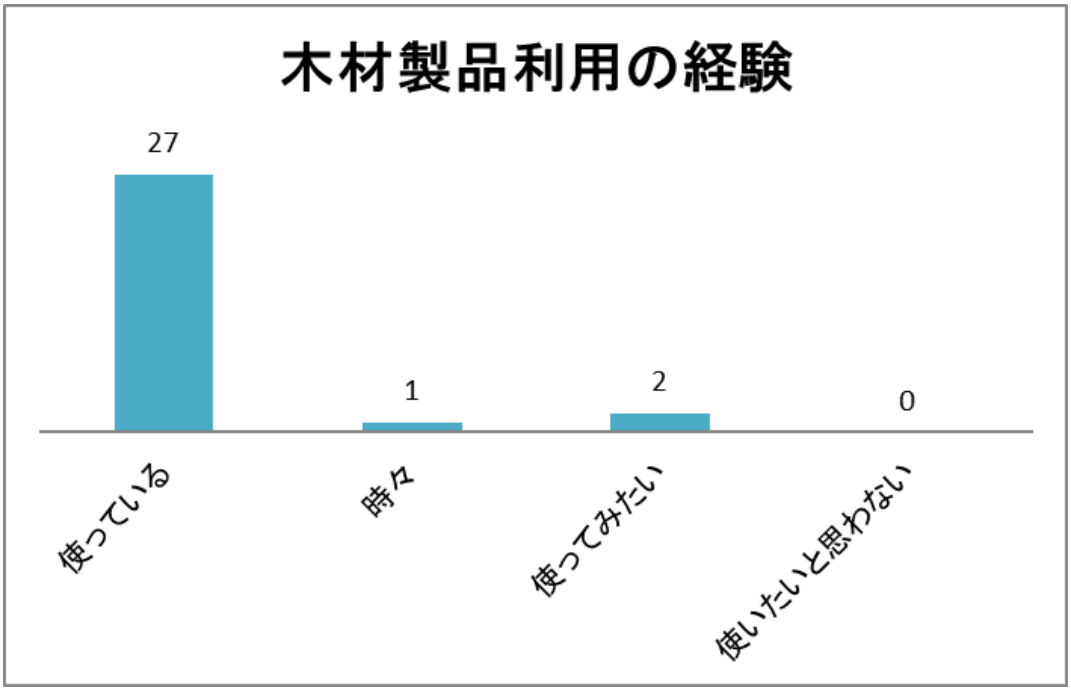
ログファイヤーの事業展開を構築、拡大するために、モニターとして活用してくれた方やイベントに参加した方に対し、ログファイヤーに関する選択式のアンケートを実施した。

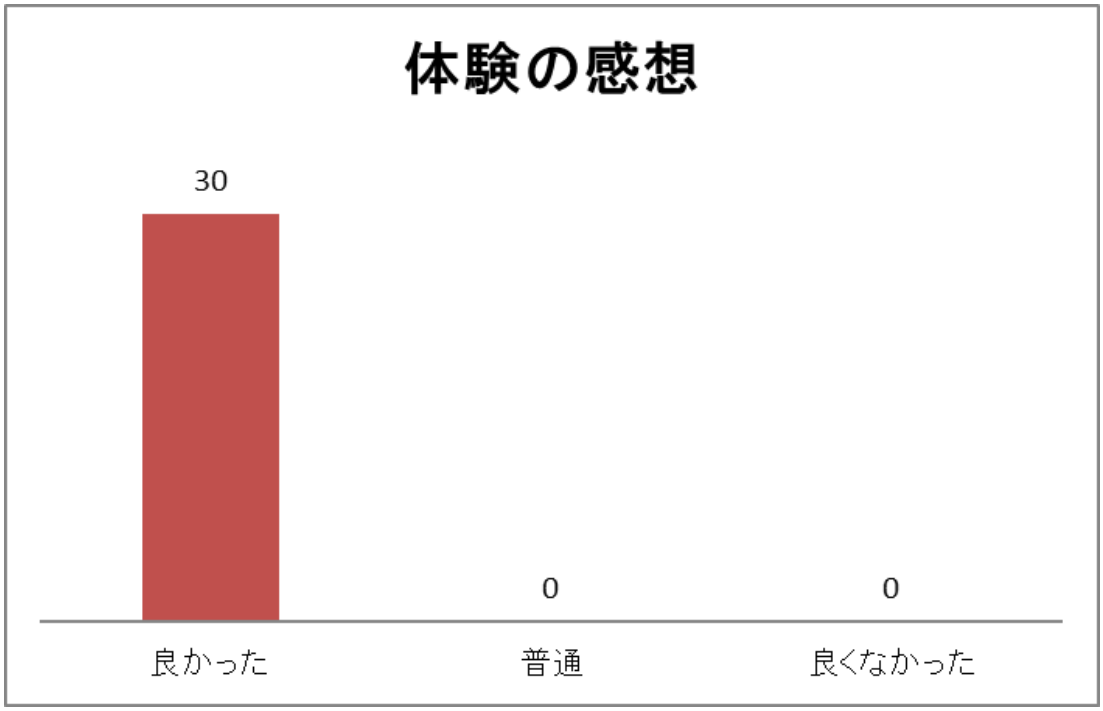
地区の人に提供した際の写真（対岸の花火を見る際に集まっているとき（８月３日））

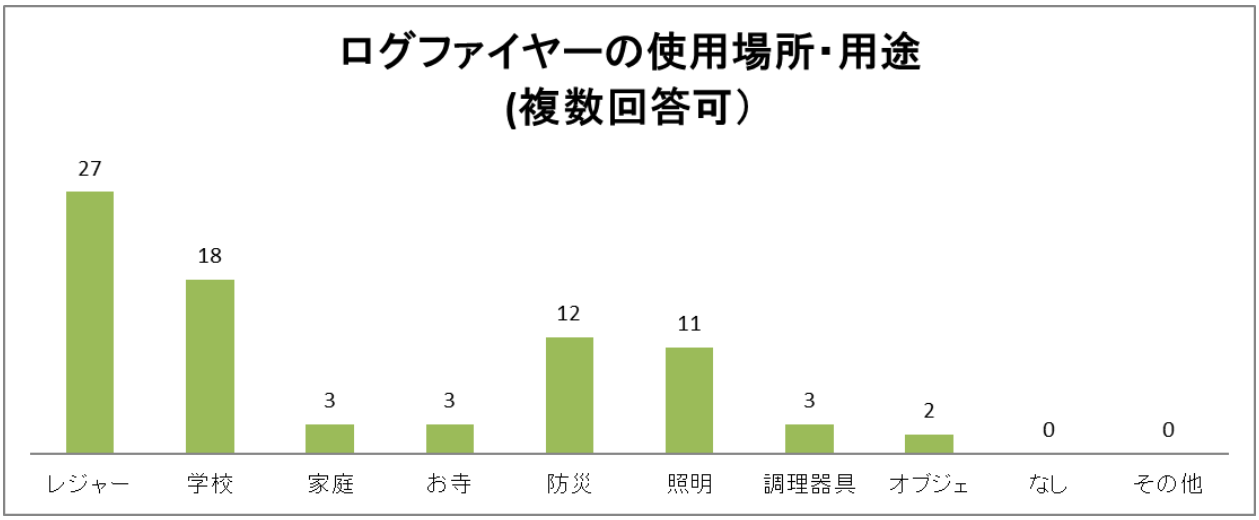
また、アンケートの主な項目と主項目のアンケート結果は以下の通りである。

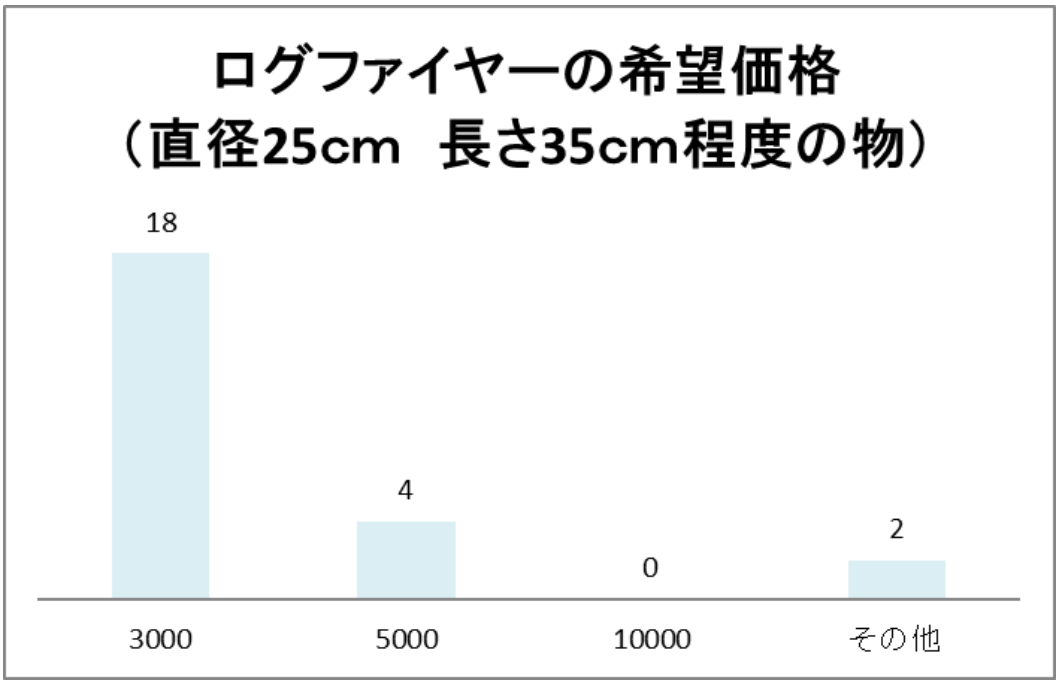
A. 性別
B. 年代
C. ログファイヤーの認知度
D. ログファイヤーを知った経緯
E. 木材製品の使用経験
F. 体験してみての感想
G. ログファイヤーの使用用途
H. ログファイヤーの希望価格
I. ご意見・ご感想






体験の感想
30
0
0
良かった
普通
良くなかった


ログファイヤーの使用場所・用途
(複数回答可)
27
18
3
3
12
11
3
2
0
0
レジャー
学校
家庭
お寺
防災
照明
調理器具
オブジェ
なし
その他


ログファイヤーの希望価格
（直径25cm　長さ35cm程度の物）
18
4
0
2
3000
5000
10000
その他

エ　ＰＲツールの作成

活動の内容を取りまとめたＰＲツールを作成した。

環境省　SDG s 同時解決事業とは？

持続可能な開発目標（SDGs）活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業

- 地域において複雑に絡み合う環境課題と社会課題に対して、協働の手法やSDGsを活用し、それら課題を統合的に進める事業
- 各採択事業では、それぞれの課題との関係の深化、ステークホルダーの拡大、課題解決の加速化等を進めるとともに、SDGsへの理解を促していく
- 採択事業を、SDGsを活用した地域での取組モデルとして整理し、社会に広く発信していくことを予定している。

里山ウェルネス研究会（2018年3月設立）

所在地：飯山市大字豊田1105 「いいやま里の家」

目　的：本会は、里山体験や森林に関わる事業を通して健康生活を提案し、高齢者支援、障がい者支援等を行うための団体である。里山に関わるライフスタイルから、エネルギー、循環型社会を考慮した地域づくり・街づくりを応援するために行政や企業と連携、意見交換、支援、政策提言を行います。

事　業

（1）森林セラピー等による認知症予防促進事業

（2）里山体験を通した障がい者雇用促進事業（林福連携事業）

（3）里山体験を通した環境教育事業

（4）行政、企業等への政策提言事業

（5）人材育成及び雇用促進サポート事業

（6）地域住民への体験活動やセミナーの企画・開催

里山ウェルネス研究会の林福連携事業

森林(もり)づくり（里山保全・林業）と福祉の同時解決

課題①　里山整備等で出た間伐木材の利用が進まない。

課題②　障がい者等の就労就労支援においては、実習先の確保等が課題。

課題③　冬の期間（積雪期）における林家や林業従事者の収入減少

↓

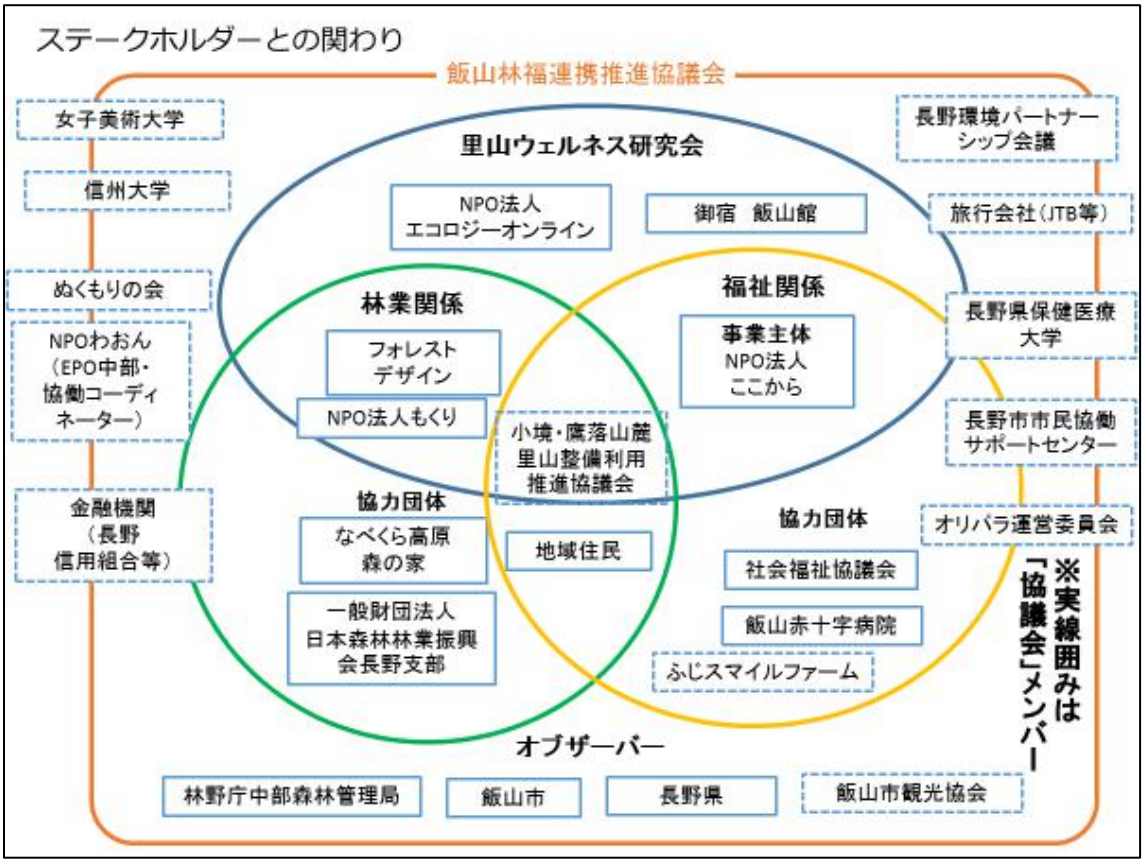
林業家と障がい者の自立支援NPOが連携した取組

↓

間伐材の未利用木材商品の付加価値と障がい者支援

↓

①未利用木材の新しい活用方法、林業家の新たな収入源の確保
②福祉施設入所者等の新しい支援先、支援方法の開発
③里山への地域の関心向上、里山保全へ



サイズ	直径	長さ（高さ）	価格（円：税込）	
			皮付き	皮なし
小	12cm以上18cm未満	20cm～30cm程度	1,500	1,900
中	18cm以上24cm未満	30cm～40cm程度	2,700	3,400
大	24cm以上30cm未満	40cm～50cm程度	4,500	5,400
特大	24cm以上	50cm以上	要相談	要相談

2年間の主な活動

協議会と報告会の開催

平成30年7月にNPO、市民、企業、行政等で飯山林福連携協議会を発足させ、平成30年、31年度ともに年間4回協議会を開催。

各年最後には事業の報告会とセミナーを開催。

飯山市内のイベントで活用

小境地区の夏まつり
いいやま雪まつり
いいやまかまくらまつり
などで活用

地域住民等へ製作講座の開催

地域における本事業の活動への理解と新たなログファイヤー製作の担い手の育成を目指した製作講座と交流会を開催

交流会の開催

いいやま里の家にて、地域の人とログファイヤーを囲んだ交流会を開催

＜ログファイヤー製作工程の障がい者(精神障害)の作業実証事業＞

作業者や支援施設担当者と相談しながら使用する
工具や安全具の使用などを模索

◎使用した主な道具

・曲面カンナ・ナタ・皮はぎ鎌

・ベルトサンダー・両手皮剥

＜利用者の感想＞

・とてもやりがいがあった。こんな仕事をしてみたい。

・やりやすい道具も作ってくれて良かった。

・腰が痛かったけど、楽しかった。・やりがいがあった。

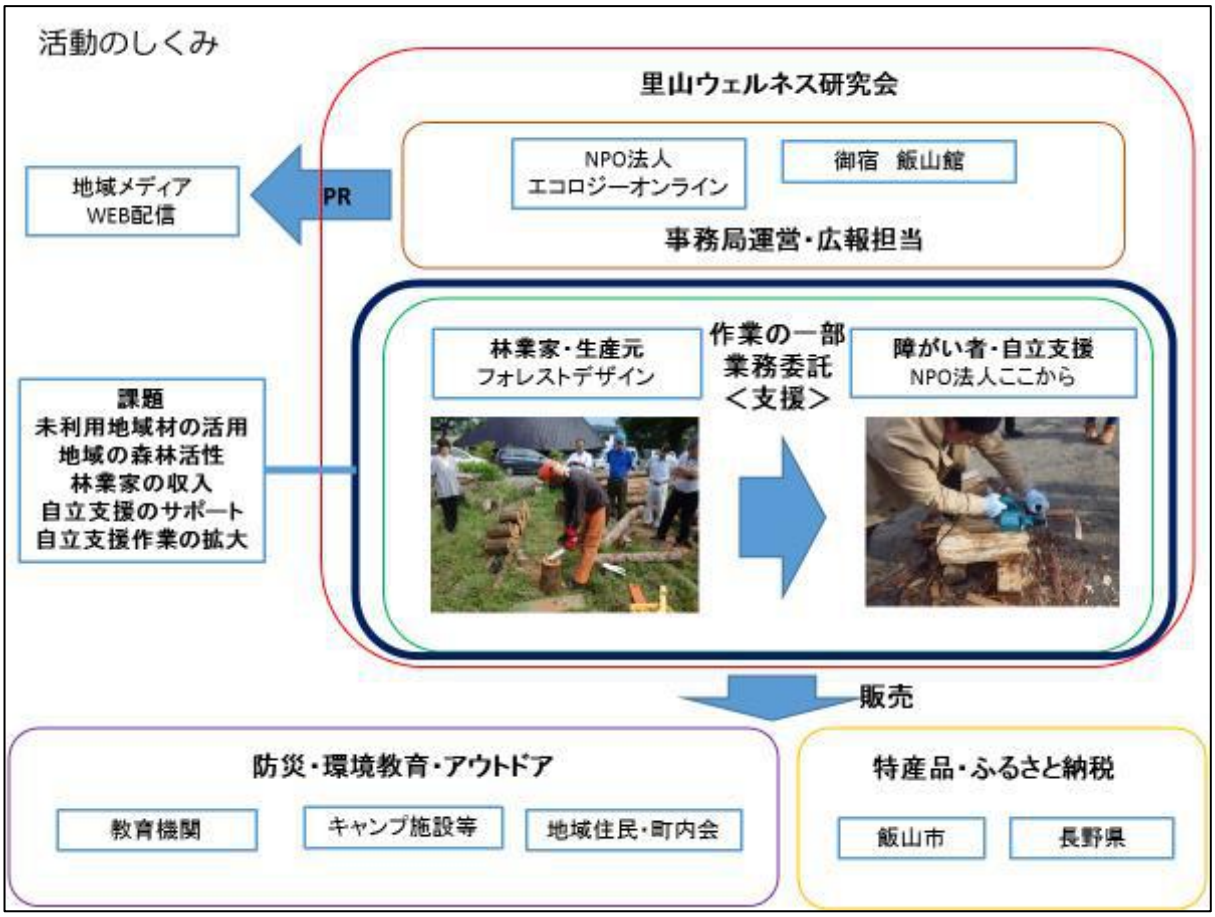
・始めは緊張したけど、少しずつ慣れていった。

まだ、緊張はするけど、楽しかった。(3回参加)

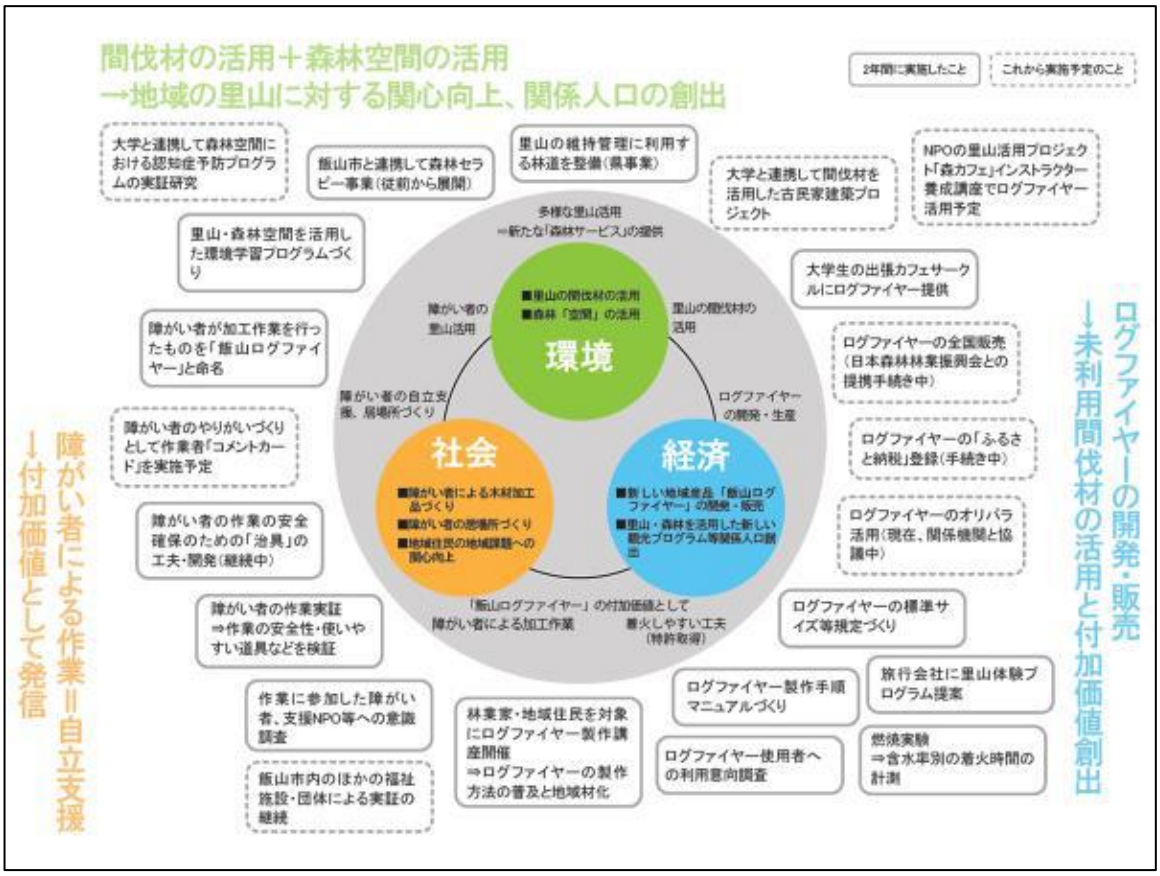
＜支援員の感想＞

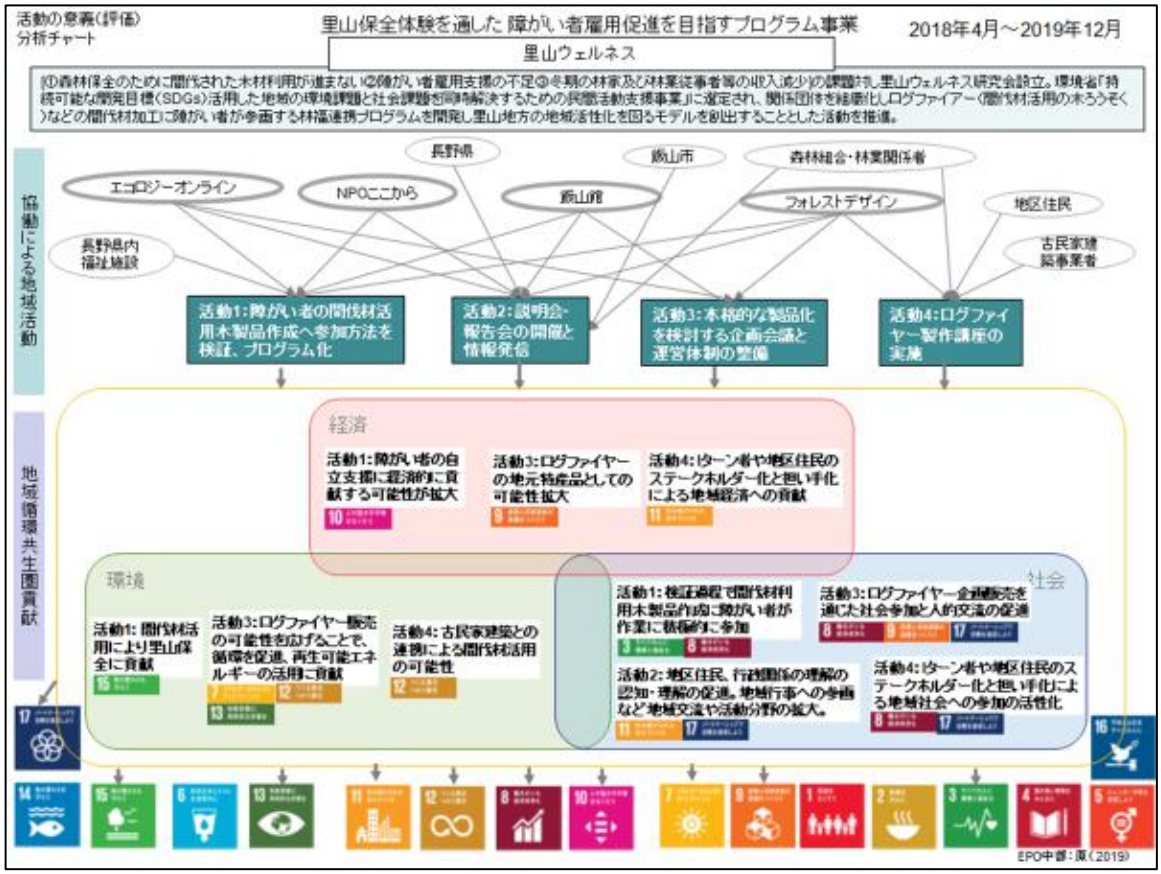
皮むき作業の体験と道具の選定ということで活動することができ、利用者の中で作業に対する心構えができたのは良かった

・緊張しやすいという特性の方たちが、作業を通じて他の人と関わり、指導を受けていくにつれて、少しずつご本人が自信をもって活動していく様子が見られた。


活動のしくみ
里山ウェルネス研究会
NPO法人
エコロジーオンライン
御宿　飯山館
事務局運営・広報担当
地域メディア
WEB配信
PR
林業家・生産元
フォレストデザイン
作業の一部
業務委託
＜支援＞
障がい者・自立支援
NPO法人ここから
課題
未利用地域材の活用
地域の森林活性
林業家の収入
自立支援のサポート
自立支援作業の拡大
販売
防災・環境教育・アウトドア
教育機関
キャンプ施設等
地域住民・町内会
特産品・ふるさと納税
飯山市
長野県

飯山林福連携事業の（2年間の）
成果とは …2019.12.16 協議会でディスカッション
本事業での位置づけ
「飯山ログファイヤー」
障がい者が加工・生産作業を行ったログファイヤーと位置づけ
「飯山ログファイヤー」の付加価値として発信していこと
火付けやすい、保存に適しているなどの機能面に加えて、障がい者の方たちが加工・生産作業を行っていること
■障がい者の「森の利用」につながっている
■地域の人が地元の里山・森・木に関心をもつように；里山の水道整備等地域利用、雑草業責任担ありにも地域住民の育成で促進へ
■里山の間伐した場所にカタクリが生育しはじめた
【課題】間伐された木材利用が進まない
・里山の手入れの不足
・搬出環境が進まない
・冬の雪の量が多い
環境
■ログファイヤー販売（全国）展開
■地元キャンプ場、ホテル等から発注の問合せ
■未利用間伐材に価値を付加
■コグファイヤー製作体験会で地域の林業家や住民にログファイヤーの製作方法を普及（計13人が参加）
■ログファイヤーの規格を明確化
■飯山ログファイヤーの地域イベントでの活用
■福祉施設の人がログファイヤー生産の加工に携わる仕組のため1人を新規雇用
■福祉施設の人が2年間でのべ約25人が加工作業を行い、飯山ログファイヤー約50本を生産・加工
■障がいのある方の生活の場の増加、選択肢の増加
■農学校民が生み出す林福連携事業になった
■福祉と林業（森林）系の人が話し合う場ができた
■「森林サービス」産業の取組
社会
【課題】障がい者の雇用支援の不足
・里山の高齢人口の増加、里山の定住人口の減少
・地域住民の意識の低下
・地域のつながりがない
・障がい者の受け入れ場不足
経済
【課題】多額の林業及び林業従事者等の収入の減少
・現場の担い手の不足
・新しい木材製品がうまれてこない
・地域経済循環が少ない
＜作業した障がい者・施設スタッフの声（作業検証アンケート結果より）＞
■楽しかった。始めは難しかったけど、やりやすい道具も作ってくれて良かった。■はじめは緊張したけど、少しずつ慣れていった。まだ、緊張はするけど、楽しかった。■施設から出ての作業は利用者のモチベーションが上がったように感じた。■作業を通じて他の人（林業家）と関わり、指導を受けていくにつれて、少しずつご本人が自信をもって活動していく様子が見られた。


間伐材の活用＋森林空間の活用
→地域の里山に対する関心向上、関係人口の創出
2年間に実施したこと
これから実施予定のこと
大学と連携して森林空間における認知症予防プログラムの実証研究
飯山市と連携して森林セラピー事業（従前から展開）
里山の維持管理に利用する林道を整備（県事業）
大学と連携して間伐材を活用した古民家建築プロジェクト
NPOの里山活用プロジェクト「森カフェ」インストラクター養成講座でログファイヤー活用予定
里山・森林空間を活用した環境学習プログラムづくり
大学生の出張カフェサークルにログファイヤー提供
障がい者が加工作業を行ったものを「飯山ログファイヤー」と命名
ログファイヤーの全国販売（日本森林林業振興会との提携手続き中）
障がい者のやりがいづくりとして作業者「コメントカード」を実施予定
ログファイヤーの「ふるさと納税」登録（手続き中）
障がい者の作業の安全確保のための「治具」の工夫・開発（継続中）
ログファイヤーのオリパラ活用（現在、関係機関と協議中）
障がい者の作業実証
⇒作業の安全性・使いやすい道具などを検証
ログファイヤーの標準サイズ等規定づくり
作業に参加した障がい者、支援NPO等への意識調査
林業家・地域住民を対象にログファイヤー製作講座開催
⇒ログファイヤーの製作方法の普及と地域材化
ログファイヤー製作手順マニュアルづくり
旅行会社に里山体験プログラム提案
ログファイヤー使用者への利用意向調査
燃焼実験
⇒含水率別の着火時間の計測
飯山市内のほかの福祉施設・団体による実証の継続
多様な里山活用
⇒新たな「森林サービス」の提供
環境
■里山の間伐材の活用
■森林「空間」の活用
障がい者の里山活用
里山の間伐材の活用
障がい者の自立支援、居場所づくり
ログファイヤーの開発・生産
社会
■障がい者による木材加工品づくり
■障がい者の居場所づくり
■地域住民の地域課題への関心向上
経済
■新しい地域産品「飯山ログファイヤー」の開発・販売
■里山・森林を活用した新しい観光プログラム等関係人口創出
「飯山ログファイヤー」の付加価値として
障がい者による加工作業
着火しやすい工夫（特許取得）
障がい者による作業＝自立支援
→付加価値として発信
ログファイヤーの開発・販売
→未利用間伐材の活用と付加価値創出


活動の意義（評価）
分析チャート
里山保全体験を通した 障がい者雇用促進を目指すプログラム事業
2018年4月～2019年12月
里山ウェルネス
①①森林保全のために間伐された木材利用が進まない②障がい者雇用支援の不足③冬期の林家及び林業従事者等の収入減少）の課題に対し、里山ウェルネス研究会設立。環境省「持続可能な開発目標（SDGs）活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に認定され、関係団体を結成し、ログファイアー（間伐材活用のホろうそく）などの間伐材加工に障がい者が参画する林福連携プログラムを開発し、里山地方の地域活性化を図るモデルを創出することとした活動を推進。
協働による地域活動
長野県
飯山市
森林組合・林業関係者
エコロジーオンライン
NPOここから
飯山館
フォレストデザイン
地区住民
長野県内福祉施設
古民家建築業者
活動1：障がい者の間伐材活用木製品作成へ参加方法を検証、プログラム化
活動2：説明会・報告会の開催と情報発信
活動3：本格的な製品化を検討する企画会議と運営体制の整備
活動4：ログファイヤー製作講座の実施
地域循環共生圏貢献
経済
活動1：障がい者の自立支援に経済的に貢献する可能性が拡大
活動3：ログファイヤーの地元特産品としての可能性拡大
活動4：ターン者や地区住民のステークホルダー化と担い手化による地域経済への貢献
環境
活動1：間伐材活用により里山保全に貢献
活動3：ログファイヤー販売の可能性を広げることで、循環を促進、再生可能エネルギーの活用に貢献
活動4：古民家建築との連携による間伐材活用の可能性
社会
活動1：検証過程で間伐材利用木製品作成に障がい者が作業に積極的に参加
活動3：ログファイヤー企画販売を通じた社会参加と人的交流の促進
活動2：地区住民、行政関係の理解の認知・理解の促進。地域行事への参画など地域交流や活動分野の拡大。
活動4：ターン者や地区住民のステークホルダー化と担い手化による地域社会への参加の活性化
EPO中部：原（2019）

今後の活動にむけて

①ログファイヤーの活用

今後の展開	内容
「森カフェ」講座等での飯山ログファイヤー活用	里山空間活用プロジェクト「森カフェ」主宰団体NPOわおんとの連携による森カフェでのログファイヤー活用の定着・ツール化
地域イベント等での飯山ログファイヤーの活用・PR	地域の祭りでの奉納、かまくらまつり等イベントでの定番化、出張カフェ学生サークルとの提携展開など
がい者スポーツの場での活用	まず、2020パラリンピックにおけるログファイヤー活用へ
福祉事業研修の場への発展	障がい者だけではなく、引きこもり者や高齢者などのほかの福祉における研修の場への発展。

②新たな森林活用・地域活性化に向けて

大学等と連携した森林活用プロジェクトの継続と新たな展開	信州大学建築学科学生との間伐材を活用した古民家づくりのプロジェクト、そのほか環境学習プログラムづくり
森林環境を活用した認知症予防の取組の中心拠点づくり	東北医科薬科大と連携した認知症予防における非薬学療法の可能性を探る研究の実施体制作りを開始（今春から開始予定）
SDGs、環境教育等の研修の場づくり	旅行会社（JTB）販売員向けサイトや教員向けサイト等へのプログラム登録
里山と地域を結ぶの新しいプラットフォームづくり	里山ウェルネス研究会による森林と地域（人）を結ぶソーシャルビジネスプラットフォームへの進化
干し柿を使ったお菓子を開発	地区内にたくさんの柿の木が植えられており、アウトドア等の旅行で来られた方へのカロリー補給やお土産として提供。

→ 山づくりの取組でも一番を目指す組織へ
（飯（米）でも一番、山（森林）でも一番を実現する飯山プラットフォームへ）

オ　ログファイヤーの規格設定と燃焼試験等

本事業で活用するログファイヤーは、多くの地域での製作、展開を目指していることからログファイヤーの性能や安全性を確認するための燃焼試験等を実施した。

＜燃焼試験の実施内容＞

材料	大きさ（mm）		含水率（%）	着火の結果
	直径	長さ		
A	220	340	12.1	○
B	260	450	10.9	○
C	250	400	50.4	×

＊着火したものはいずれも３分以内に着火

＜設定した規格＞

直径：20～25cm 程度・長さ：35～45cm 程度・

含水率：20%以下

カ　その他

（ア）市民協働サポートセンターまんまる「機関紙 2019 春号」に掲載

里山ウェルネス研究会

協働でいくつもの課題を同時に解決

里山ウェルネス研究会は、昨年3月に立ち上がりました。飯山市を拠点に森づくりや里山体験と福祉の連携によって、地域の暮らしと健康を守る活動をしようというものです。

昨年秋から、地域の間伐材を活用した「ログファイヤー」作りに取り組んでいます。丸太の皮をむき、切れ目を入れたもので、薪火して暖を取ったり、料理をしたりと使い方はいろいろ。その工程の一部

子ども食堂の様子

一般家庭から集められた食品をフードドライブに寄せ

に子ども連携しながら、食べ物がない人（団体）に提供するだけでなく、子ども食堂などでフードロスについての啓発活動もしています。

SDGsを意識するようになったのは昨年から。「これは、私たちのミッションと重なっていると思った」とのこと。

「日本の食糧自給率はどれくらいか知っていますか？」と笑顔さん。答えは、39%。今ある食糧を大切にしないと持続可能な社会にはならない状況です。今後は、飯山全域にこの取り組みが運動として広がっていくことを期待しています。

この事業は、県連盟の「平成30年度地域福祉推進事業」を活用させていただいて行っています。

まんまる 2019 春号 2

（イ）大分県日田市議会の視察協力

大分県日田市の市議会グループより飯山市の方に本事業に関する問い合わせがあった。その結果、令和元年７月 28 日に視察があり、その協力を行った。

◎7月31日大分県日田市議会の産業建設常任委員会の皆様が「林福連携事業について」視察に来飯されました。

「林福連携事業（農福を含む）の取り組みについて」農林課、保健福祉課より説明をしました

広報飯山（令和元年８月号）より

5 「月次報告書」及び進捗管理表の提出

(1) 作成・提出した「月次報告書」

ア 2019 年４月分

関係者限り

同時解決支援事業 月次報告(団体用)

報告日	2019/6/5
報告者	人和田正勝

※団体が記入し、毎月末までに支援事務局に提出してください。

事業名	生山社会体験を通した障がい者雇用促進を目指すプログラム事業
団体名	生山ウェルネス研究会

【前月の会議・打合せ等を含むイベントなど関係者の報告】

実施日	テーマ	実施内容(概要)	結果(できた・できなかったこと など)	参加者人数等	課題の解決
5月10日	本年度における市民向け説明	流上市役所の担当の方が昨年度から続けている方もいらっしゃるが、今回、改めて説明会を実施。	多数参加、モデル・パートとして協力会に参加していただけることになった。	延べ	■改善課題① □改善課題② □改善課題③
5月21日	流山での交流事業	NPO法人ことちゃの施設利用者にプログラムの試行を実施	利用者はもちろん人事担当者にも好評だった。	利用者・担当者	□改善課題① ■改善課題② □改善課題③
6月7日	株式会社ヤスに訪問した協力要請	地域の優良企業であるとともに障がい者雇用に実績を上げている。事業の説明と事業への参画・協力を要請した。	応諾の意思があるが、委員会、イベントへの参加やモニター事業へ参加していただくことになった。	担当・人和田	■改善課題① □改善課題② ■改善課題③
6月27日	流山市役所の訪問	2019年度事業の説明を実施。障がい者の雇入れ状況について、市長による表彰が決まっていたレセプションにはファイザーの方がレセプションを実施。	来賓に民間企業のパートナーとしてファイザーを推薦してもらい、少数だが国内を代表していただけている人がいて、関係性がフォローアップでき、個々の思いがある団体の方向性もつかめ、より具体的な次年度事業に発展していくことを確認できた。	担当・市役所・人和田・流山市社会福祉協議会・NPO法人多摩園	■改善課題① ■改善課題② ■改善課題③

計画の修正 (事業の進捗状況、変更後の予定など具体的に記入してください)	7/22の民間企業にNPOの事業説明会を開催。月末報告の訪問が入った。
今後の予定 (打合せの委員会、イベントなどの予定を具体的に記入してください)	8月1日に流山市役所の担当者が見学会後、次回委員会を7月に実施。
進捗で分かったこと(事業推進上の問題点、新たな課題、事業内容の修正など具体的に記入してください)	本事業を進めるにあたり、林業、製材業もそれぞれ大切なことはわかっているものの、林業とも連携して事業をすることでSDGsの事業になれば、と思います。進められた事業説明をする必要があったかなと。 実際、業界の中の仕事をみてみたいという意見があり、次回の委員会は流山市の林業、木材しらがの委員会開催を考えていたが、実際、多くの人に知られると利用者に影響がでるなど、配慮が必要なことがわかり、調整を実施している。
課題解決に向けた進捗 (実施されている事業は、SDGsの達成に向けた方向性の確認など具体的に記入してください)	本年度、1年間の活動実績と方向性がはっきりしてきたこと、民間企業の中小企業がSDGsに対して動きをはじめてきたことで、企業の参画というのが入り込める可能性が出てきた。
メディア掲載 (新聞、雑誌等の名称、発行日、内容を記入してください)	□新聞・雑誌・広報紙
	□ラジオ・テレビ
	□インターネットなど
本部事務局への要望 (事業推進上でのコンサル情報の提供、その他要望など)	

イ　2019 年５月分

関係者限り

同時解決支援事業　月次報告（団体用）

報告日	2019/5/7
報告者	入和田正勝

※団体が記入し、翌月5日までに支援事業局に提出してください。

事業名	里山保全体験を通した障がい者雇用促進を目指すプログラム事業
団体名	里山ウェルネス研究会

（前月の会議（打合せを含む）やイベントなど取組内容の報告）

実施日	目的	実施内容（概要）	結果（できなかったことなど）	参加者人数等	課題の検討
4月26日	事務局会議	SDGs全体の事業計画の確認と事務局内の役割分担、役割分担についてと翌月の集合にむけての今後のことを考えての最終打ち合わせ	本年度の事業の実施体制や役割分担や個人の担当プロジェクトなど人数が明確できたことで、無理のない体制でより良い事業にすることをその場で話し合えた。	事務局会議・入和田	■今後検討の ■今後検討の ■取組課題の
4月24日	上記中間法人（仮称）（仮称）人材育成事業中手作り商品企画中	最終的に作成する上記中間法人設立事業の説明とプライベーターを巻き込むための意見交換を実施。	プライベーターや里山ウェルネスが他の事業で実施した事業を参考に、体験を組み立て、試行錯誤しながら、全体・個人向けのプログラムにしていただくよう向け検討してもらえることのヒント、実際の地域支援推進を紹介いただけることになった。	事務局会議・入和田	■取組課題の □取組課題の □取組課題の
4月24日	第1回運営会	・社会事業に対した実践人材育成プログラムの説明 ・現在までの情報交換 ・事業方針の確認	・1年間の活動内容からプログラムの事業プログラム、必要な人材育成プログラム、事業運営の運営のためのスケジュールが入ったが発表できた。 ・やらなくてはいけないことがある程度明確になった。	運営会議・入和田・[illegible]（[illegible]）・[illegible]（[illegible]）	■取組課題の ■取組課題の ■取組課題の
					□取組課題の □取組課題の □取組課題の

前回の変更点（変更の理由や変更後の予定など具体的に記入してください）	
今後の予定（打合せや事業会、イベントなどの予定を具体的に記入してください）	5/22日に第2回の長議会を実施。ロクジライターの参加のための考えもふまえて、長議会メンバーにロクジライターを参加してもらいたいとアポイントを取り合うことになった。
活動で分かったことや課題等（現状の分析等を行い、新たな課題、計画への事項などを具体的に記入してください）	一応説明してもらって、SDGsの説明ができますが、欲しいというだけで、事業の説明ばかりでなく、SDGsの説明も事務局全員ができるようになる必要があることがわかった。
課題解決に向けた提案（対策としての案件など、SDGsで見た場合の人材育成の課題など具体的に記入してください）	1にのSDGsのターゲットより強調のターゲットを決定して絞ったほうが、SDGsを知らない人または理解しかねない人にとっても事業の説明がしやすく、また、利害関係がない人たちは理解がすすめられるとしかわかった。
メディア掲載（掲載日、掲載誌の名称、見出しなどを記入してください）	□新聞・雑誌・広報誌
	□テレビ・ラジオ
	□Webメディア・その他
支援事業への意見（情報提供やマネジメント情報の活用、その他意見など）	

ウ　2019 年６月分

関係者限り

同時解決支援事業　月次報告（団体用）

報告日	2019/7/5
報告者	大和田正勝

事業名	里山保全体験を通した障がい者雇用促進を目指すプログラム事業
団体名	里山ウェルネス研究会

【前月の会議（打合せ含む）やイベントなど取組内容の報告】

実施日	目的	実施内容（概要）	結果（できたこと できなかったことなど）	参加者人数・氏名	課題の整理
6月14日	ロゲファイターの普及や活用事例について	JTBLabが実施の商品開発に当たり、ゲームとロゲファイターのいやす里の成功例の両方を活用したプログラムの構築や企業向けパッケージに活用できないかなどを意見交換した。	今までというのに難しいが、いやす里に来て受けられる20名程度の就業・自立プログラムをつくり、SDGs型に移行し学校向けに販売した。簡単パッケージとして販売・活用とも可能ということもあった。	斉藤・青木・大和田	■取組課題① □取組課題② □取組課題③
6月14日	事務局会議	今年度の進捗状況や今後のテーマなどについてお合わせを行った。	きっかけとなった事ではあるが今後の予定のやらなければいけないことが明確になった。	大和田・青木・斉藤	□取組課題① ■取組課題② ■取組課題③
6月20日	実証作業についての打ち合わせ	7/4に開催される第2回作業区分見学会に向けた事前打ち合わせを実施した	場所はいやす里の畑では狭すぎるから作業を開始して、説明会参加者に分けていただくことになった。	斉藤・山口	□取組課題① ■取組課題② □取組課題③
					□取組課題① □取組課題② □取組課題③

計画の公表等（変えた理由や変えた後の予定など具体的に記入してください）	実証事業を実施しているが他の事業等の関係で、実証事業を行う期間、施設を変える可能性がある。ただし、実証事業のトータルの区分に変更はない。
今後の予定（打合せや講演会、イベント等の予定を具体的に記入してください）	7/4：第2回実証会　7/4：第2回説明会　7/23：ロゲファイター販売開始
取組で分かったこと（課題、問題点の発見や分析、新たな提案、計画外の事柄などを自由に記入してください）	ロゲファイターをすぐに利用者が全員が教育機関で活用を行なえるとは思っていなかった。他の環境教育や個別プログラムなどとアイデアはロゲファイター単体で活用したプログラムを構築することが、普及のポイントになるということがわかった。
課題解決に向けた連携（代表としての貴団体がSDGsとみなした場合の方向性の確認など具体的に記入してください）	本事業はSDGsを支援枠わかりやすく説明するひとつとなっているので、うまくある方面で見えるようにすることでしっかりとアピールができたため、今後ともうまく活用していくようにしていきたい。
メディア掲載（掲載日、掲載紙のタイトル、見出しなどを記入してください）	□新聞・雑誌・広報誌
	□テレビ・ラジオ
	□Webメディア・その他
支援者（専門家）への要望（専門的な知識やマネジメント機能の強化、その他要望など）	

エ　2019 年７月分

関係者限り

同時解決支援事業　月次報告（団体用）

報告日	2019/8/5
報告者	大和田正勝

※団体が記入し、毎月5日までに事務局に提出してください。

事業名	里山保全体験を通した障がい者雇用促進を目指すプログラム事業
団体名	里山ウェルネス研究会

【前月の会議（打合せ含む）やイベントなど取組内容の報告】

実施日	目的	実施内容（概要）	結果（成果だけでなくうまくいかなかったことなど）	参加者人数等	課題の整理
7月6日	イベントとの合わせ	11月2日に開催予定の上田の手形市で飯山にて開催されるイベントの打合わせを実施。その上で里山ウェルネス研究会の取組やログファイターの活用についても議論を行った。	イベントの内容、プログラムでの事業の紹介やログファイターの体験を行うことになった。	当場・余頃・大和田・上田の計・就労者・親の会	■取組課題① □取組課題② ■取組課題③
7月11日	連絡会	3回目の参加者募集、第2回の連絡会（7月19日）に向けて飯山市の支援プログラムの内容について調整。今までの活動の進捗状況と今後のスケジュールについて事務局共有。	現在、できていることと今後やらなくてはいけない事に対して、仕事量に基づき、確認ができたなかで日程などを明確にすべきだった。	当場・余頃・大和田・上田の計・就労者・CEOC	■取組課題① ■取組課題② ■取組課題③
7月4日	協議会の開催	障がい者の雇用の仕方や支援機関メンバーで協議、それに基づき、協議会内のワークショップで意見交換を実施した。	実際の作業をおこない、企業側の意見聞き、安全性やかかる内容など良い面、改善が必要なことなどがわかった。改善点についてはこれから修正していく。	当場・余頃・大和田・上田の計・就労者・飯山市・地域	■取組課題① ■取組課題② ■取組課題③
7月18日	ログファイター、条件提案会での説明	いいやま巡りのなかでログファイター事業説明会・懇親会開催、交流会を開催した。参加者による研修内容の説明、質疑応答。その後、各参加者によるログファイターを囲むグループの交流会を実施した。	参加者が交流しやすくなってみて、今までにないログファイターが紹介されたなか、普及に向けた実践事業が生まれた。また、懇親会、交流会を通して、広域の絆を深めることが出来た。	当場・CEOC・各一名参加者多名	■取組課題① □取組課題② ■取組課題③
7月31日	就業受入	飯山市の事業により大学1日生市長会の就業の受入を実施した。里山ウェルネスの活動の体験研修、実際の活動現場等についての説明及び意見交換を実施した。	今回は研修ということもあり、すべてを伝えることはできなかったが、今後連携事業の事例として、他の行政に説明できたことはよい成果となるであろう。	当場・余頃・飯山市	■取組課題① ■取組課題② ■取組課題③

人員の変更点（役員の理事や役員候補の予定など事務局に記入してください）	なし
今後の予定（打合せや協議会、イベント等の予定を記入してください）	9月の飯山市のイベントでログファイター事業予定、11月第2回連絡会、11月28日に手形市協議フォーラムに参加。
取組で分かったこと（問題点等（体制の変更、体制の見直し、新たな課題、計画外の事柄など具体的に記入してください）	今回、2回の交流会を通して参加者の意見、活用についての課題の意見を通じたワークショップを実施したことにより、前向きなお声が出なかった。協議会参加者の意見が増えや共有することができていることは、全体としてわかりやすい方向になっていることが実感できている。
課題解決に向けた取り組み（実施内容、その結果、SDGsを入れた場合の方向性の変化など具体的に記入していただきたい）	本事業が進んでいくなかで、地域内の市場会の視察受入が実施された。これらも本事業を実施した効果のひとつになるのではないかと考えられる。
メディア掲載（掲載日、掲載紙の名称、見出しなどを記入してください）	□新聞・雑誌・広報誌 □テレビ・ラジオ □webメディア・その他
支援事務局への要望（情報共有のツールの利用の活性化、その他要望など）	

オ　2019年８月分

関係者限り

同時解決支援事業　月次報告（団体用）

報告日	9月5日
報告者	大和田正勝

※国様が記入し、毎月5日までに事務局に提出してください。

事業名	里山保全体験を通した障がい者雇用促進を目指すプログラム事業
団体名	里山ウェルネス研究会

【前月の会議（打合せ含む）やイベントなど取組内容の報告】

実施日	目的	実施内容（概要）	結果（成果だけでなくうまくいかなかったことなど）	参加者人数等	課題の整理
9月5日	プレゼンテーション	7月の本講座で使わなくなった機材を使ったロゴファイターを、地域内で閉じこもった形で見る交流会にてロゴファイターを使用し盛況による本プレゼンテーションを行った。	広報に使って動画されていたため、すぐに使え、また、とても評価が良くなった。	参加	■取組課題① □取組課題② ■取組課題③
8月21日	打ち合わせ	四万十市内各関係者と里山ウェルネス研究会の、活動・事業計画の進捗を図るため、現状の報告、今後について打ち合わせを実施	各事業、現状進捗を共有し、今後の進捗について具体的な検討を加えていくことになった。	宮澤・藤山・大和田・上田・山内	■取組課題① ■取組課題② ■取組課題③
8月21日	打ち合わせ	ロゴファイターの改修のため、設置のケーブルテレビネット四万十様訪問	古本屋商品をみるすぐ入口でつりが出ている通路でロゴ形式で料金をいただけることになった。	宮澤	■取組課題① □取組課題② □取組課題③
					□取組課題① □取組課題② □取組課題③

上記の公開可否（支援の進捗や支援後の予定など具体的に記入してください）	ないなし
今後の予定（打合せや会議、イベント等の予定を具体的に記入してください）	9/14　小滝地区の祭りにてロゴファイターを参加予定。9/22　里山ウールネス事務局会議
取組で分かったことや課題等（団体の運営状況や、新たな課題、計画外の事柄などご自由に記入してください）	四万十市のケーブルテレビネット四万十が休止している事業に、ロゴファイターを世の方々に広める事が目的にした事業で紹介が可能となった。この事業は古本屋商品を見ながら楽しみます楽しんでつりが出ている事業で、検討は、コロナ、ウ[illegible]のどちらかで設置を検討している。 このSDGsの取組きっかけとして、研修事業キャンプ場からロゴファイターの提案があった。
課題解決に向けた進捗（実施としての費用が、SDGsである場合の方向性の確認など具体的に記入してください）	SDGs＝都市でも安心長寿県という方向をもっと強くして、SDGsと結びつけるための方法が必要であると感じている。事務局や支援事務局及び四万十市役所事務局と協力しあい、市でこれからやっているSDGsと別にPR方法を探っていきたい。
メディア掲載（掲載日、掲載紙のほか、見出しなどを記入してください）	□新聞・雑誌・広報誌 □テレビ・ラジオ □Webメディア・その他
支援事務局への要望（事務局体制やマネジメント機能の強化、その他要望など）	現在、設置会場で本事業でのSDGsが見える化を実施していただいているが、他のNPOや企業、行政等がSDGsを活用したSDGsでのコミュニティがどのようなものかあるか（存在しているか）を参考資料として、次回の連絡会までに教えて欲しい。

カ　2019 年９月分

関係者限り

同時解決支援事業　月次報告（団体用）

報告日	10月5日
報告者	大和田正勝

※団体が記入し、毎月5日までに定住事務局に提出してください。

事業名	里山保全体験を通した障がい者雇用促進を目指すプログラム事業
団体名	里山ウェルネス研究会

【面談の実施（打合せを含む）やイベントなど取組内容の報告】

実施日	目的	実施内容（概要）	結果（できたことなど）	参加者人数等	課題の整理
9月2日	定例 事務	NPO法人による地域利用者にプログラムの良さを実感	計画者がそのことを認識することで作業進捗に大きく寄与されているようで、その様子も考慮した計画を練っていきたい。	余澤・山口	■取組課題① ■取組課題② □取組課題③
9月14日	デモンストレーション	小規模区で実施される地区の祭りにて、ツリーに良さを実感した大型コンシェイパーを本参加した。	決定活用する作業りということで、大型（プラスチック）のものは手間以上なものが、キャンプ・ブランチャー等での活用は1分可能と考える様子。地域住民から作ってみたいや活用したいという声まで聞くことは今回はできなかった。	余澤	■取組課題① □取組課題② □取組課題③
9月27日	打ち合わせ	本事業の進捗状況や今後の事業の充実等を中心に11月の連絡会に向けて事務局会議を実施。	コンシェイパーをどう活用して展開していくかは、販売先の種類に併せ、三山に関のるメ等他の用途をどう考え込んでいくか事業という観点議論できた。日本森林林業振興会長野支部との連携については、所長が変わったこともあり、なかなか話が進められなくなってしまっている。	余澤・余澤・大和田	■取組課題① ■取組課題② ■取組課題③
9月30日	企業訪問	宿泊予約サイトの運営・ネット事業する株式会社ホールディングスを訪問し、地域活性化プロジェクトに関する企業プランについて意見交換を行った。	コンシェイパーの実物をみたいということもあり、1個サンプルとして出発前に渡すことになった。また、活用の展開として観光面としていくのような観光プランの中で取組ができるか検討していき、提案していくことになった。	余澤	■取組課題① □取組課題② □取組課題③

前回の宿題に（改善の提上や改善後の予定など）対応した内容	
今後の予定（打合せや協議会、イベント等の予定を事務局に記入してください）	12/21 展開予定事業ファイルに出展　　その他のイベントでの利用し現在11月の収録で調整中。
取組で分かったことや課題等（団体の取組やノウハウ、新たな課題、計画外の事柄など）を記入してください	利用に当たり感じたことは、コンシェイパーをどう活用して展開していくかは、販売先の種類に併せ、三山に関のる人や他の用途をどう考えこんでいくか事業という観点議論できた。そのうえで、活用方法の提案など、実際に販売先等様子に相手に提案するツールも必要と認識した。そのためには、写真の上手な活用、動画の活用等も重要になると考えている。
課題解決に向けた連携（実施としての費用は、SDGsをみる場合の方向性の確認など具体的に記入してください）	林業関係者、森林関係者、環境関係者、地域住民などさまざまのひとびとのネットワークが繋がってきたとしたら、何かできるかもしれないと思います。こうした連携のようなものを地域で共有できれば、具体的な活動を中心としたSDGsのネットワークが構築できるかと考えている。 コンシェイパーの活用を進めるため、また、ニーズとして情報収集を目的として、販売先でキャンプ場の他、飯山市小滝地区のお祭りに関係した。
メディア掲載（掲載日、掲載紙の名称、見出しなどを記入してください）	□新聞・雑誌・広報紙
	□テレビ・ラジオ
	□Webメディア・その他
支援事務局への要望（運営体制やマネジメント機能の強化、その他要望など）	

キ　2019 年 10 月分

関係者限り

同時解決支援事業　月次報告（団体用）

報告日	11月5日
報告者	大和田正勝

※団体名記入し、毎月5日までに支援事務局に提出してください。

事業名	里山保全体験を通した障がい者雇用促進を目指すプログラム事業
団体名	里山ウェルネス研究会

【前月の会議（打合せ含む）やイベントなど取組内容の報告】

実施日	目的	実施内容（概要）	結果（できたこと、できなかったことなど）	参加者人数等	課題の整理
10月1日	イベントの運営に伴って事業PR	11/23日に飯山市の青の家でEDO十郎工房で開催される収穫フォーラムの広報のため、ロビの関係者とチラシの配布を実施し、あわせて事業のお知PRをした。	実施・参加者数については飯山市役所、飯山市保健福祉センター（社会福祉協議会）、北信新聞、北信毎日新聞、北信ロータリー、信濃毎日新聞	7人	■取組課題① □取組課題② □取組課題③
10月21日	ロジファイヤーの事業の説明会	ロジファイヤーのPRのために、説明書や使用している道具を視聴カメラで撮影した。	今後、撮影した動画や写真等を併せて、ロジファイヤーのPR用ページ動画を作成し、ホームページやYouTubeの登録が実施する予定	全体・HP	■取組課題① ■取組課題② □取組課題③
10月21日	ロジファイヤー事業における障がい者雇用プログラムの確立のための打ち合わせ	障がい者や就労経験を有するNPOからの経験豊富な講師（障がい者の方）による、ロジファイヤーの使用法を実施した。	作業を実施する就労者、本者がはじめて固定化されてきたこともあり、作業効率が上がっていると判断される。	全体・HP	□取組課題① ■取組課題② □取組課題③
10月25日	事業とロジファイヤーのPRのためのある事業フェアにUdw	毎年に引き続き、長野市で開催された事業フェアに出展し、ロジファイヤーの広報や本事業の紹介をメインに実施した。	初事業に新しい形のフェアということもあり、商談という形には至らなかったものの、使用時間帯にロジファイヤーの使用頻度のヒントになるような意見などのコンタクトがあり、ロジファイヤーの日々の使用に向けた工夫づくりが期待できる。	全体	□取組課題① □取組課題② ■取組課題③

上記の全項目（変化や進捗や変化後の予定など具体的に記入してください）	なしなし
今後の予定（打合せや会議、イベント等の予定を具体的に記入してください）	11/28 EDO十郎工房、収穫フォーラム（飯山市役所）で展開し、事業とロジファイヤーの紹介。 12/9 第3回運営会議。 1/24 信濃毎日新聞社主催の会議（2/23）の開催（飯山市交流会館なちゅら）
取組で分かったことや課題事項（問題の発生状況や対応、新たな課題、計画外の事柄などご自由に記入してください）	例えばSDGsやESGといった概念から、ロジファイヤーの本事業のお客様に説明をする中で、企業や団体の方々は当事業からの問い合わせや活動紹介であるにいらっしゃるものの、今後の設置への検討が少しずつ進んでいるように思われる。また、現状の活用方法の具体的な提案にはいたっていない。今、設置されている活用事例に関しても、資料や実績の提供等を積極的に行い、利用、活用の拡大を目指して上げたい。
課題解決に向けた進捗（実施としての費用対効果、SDGsなどの観点の方向性の確認なども具体的に記入してください）	令和2年2月に長野市主催のSDGsキャンペーンに参加して以降、SDGsというキーワードから里山ウェルネス研究会のメンバーでもあるフェスティバルランド事業の事例を参考にして、学校や施設の背景が推測できました。また、同じく長野県内のいろいろ、ここ、ここムラ事業がメインとなる飯山市内でもトイレットペーパーを活用した障がい者支援事業がおこなわれており、ネットワークの構築へと発展しつつある。
メディア掲載（掲載日、掲載紙の名称、見出しなどを記入してください）	□新聞・雑誌・広報誌
	□テレビ・ラジオ
	□Webメディア・その他
支援者・関係者への参画（運営体制やマネジメント機能の強化、その推進策など）	

ク　2019 年 11 月分

関係者限り

同時解決支援事業　月次報告（団体用）

報告日	2019/12/5
報告者	大和田正勝

※国様が記入し、毎月5日までに支援事務局に提出してください。

事業名	里山保全体験を通した障がい者雇用促進を目指すプログラム事業
団体名	里山ウェルネス研究会

【前月に会議（打合せ含む）やイベントなど取組内容の報告】

実施日	目的	実施内容（概要）	結果（成果だけでなくうまくいかなかったことなど）	参加者人数等	課題の整理
11月11日	新任されたキ部長林信秀局長への二度目の意見交換	10月から発生されている労働時間短縮の問題に本事業の説明と今後の事業にかかる協力（ロジファイアーの活用）について意見交換を実施した。	林部長が管轄する「レンブレーション」の中において、就労支援のPROやキャンプファイアー等で活用を検討していただけることになった。あわせて、本会として、国有林地を活用したロジファイアーの立案も検討していく。	大和田	■取組継続中 □取組終了 ■取組課題
11月1日	本事業の進捗状況の報告や今後のスケジュールの確認について、支援事務局との共有（第3回連絡会）	第3回協議会の振り返しとその後のPRとの協議結果報告についてPRの上映、PRシート作成（第1ウェルネス研究会作成素材）の配置、1/24開催予定のセミナー（教育会）の合同説明会の確認を行った。	市との協議については、相談進捗について、担当者ではあるが前向きに検討できていないとの報告。PRシートについては、報告書の最終バージョンのものを作成、マスターについては、受注する方の内容を共有する方向になった。	金城・大和田・ECO 十部	■取組継続中 ■取組継続中 ■取組課題中
11月15日	ロジファイアー展開のためのエリアパラ事務局及び伝等社会材利用法の意見交換	協議会から提案していたエリアパラ、ロジファイアーの活用について、林部長から本部内にエリアパラ事務局の申出等の理由説明が伝達された旨、本事業の説明と意見交換を実施した。	現在にも協議会内で検討されたホームページとの連携が一番よいということで、ホームページの活用やロジファイアーの活用検討を進め、一番最上市に相談していくことになり、日程を調整し。	上田・大和田	■取組継続中 ■取組継続中 □取組終了
11月23日	PPP中部主催の交流フォーラムへの参加	この中部地方の交流フォーラムに参加、本会としての簡単な事業紹介を交流フォーラム内で実施された。「あり方」に関して、ロジファイアーの紹介を実施した。	上に関係ドーテンマーターの先生方にロジファイアーについてPRできたと思う。今後は県内のNPO団体との連携や「あり方」検討会議との連携なども検討していくことが分かった。	荒井・金城・大和田	■取組継続中 □取組課題中 ■取組課題中

計画の変更 （変更の理由や変更後の予定など具体的に記入してください）	なし
今後の予定 （打合せの協議会、イベント等の予定を具体的に記入してください）	12/3　第3回協議会　1/24　報告会・セミナー
取組で分かったこと（課題、問題点の発掘や分析、新たな課題、計画外の事柄などを具体的に記入してください）	協議会では上手くいったが、実際にロジファイアーは本利用者の現場だけではなく、しっかりとした生きる力にもできる。これからも生きる力にもできる。これからも用いられると思われた。今後は国等で市の見解まで詰めていくためのプログラムとして検討していくことが重要になっていくと思う。
課題解決に向けた進捗（方策としての費用が SDGs とみなされる場合の方向性の確認など具体的に記入してください）	ロジファイアーや本事業の取組が国有林やイノベーションと連携することで、行政、市民、企業が関心をもつことが期待でき、国有林を活用した新たな取り組みが進められることから、今後可能なキャリア構築の一助となることが考える。
メディア掲載 （掲載日、掲載紙の名称、見出しなどを記入してください）	■ 新聞・雑誌・広報紙 □ テレビ・ラジオ □ Web メディア・その他
支援事務局への要望 （情報提供やマネジメント機能の強化、その他要望など）	なし

ケ　2019 年 12 月分

関係者限り

同時解決支援事業　月次報告（団体用）

報告日	2020/1/5
報告者	大和田正勝

※団体が記入し、毎月5日までに応援事務局に提出してください。

事業名	里山保全体験を通した障がい者雇用促進を目指すプログラム事業
団体名	里山ウェルネス研究会

【前月の会議（打合せ含む）やイベントなど取組内容の報告】

実施日	目的	実施内容（概要）	結果（できたこと・できなかったことなど）	参加者人数等	課題の進捗
12月7日	第2回林業振興協議会の開催	支援事務局であるNPOが計画作成のツールを活用し、今までの協議会で出た意見に対して、現状の進捗状況の確認や協議会に向けたアリバイ事務局や他の団体との打ち合わせ結果の報告を実施。	山未だ残る項目とサイト上に作成可能な項目、さらに今後目指すところが明確になり、かつ協議会メンバーであるNPOが共有できたこと。そのことにより、今後の協議に向けた課題が少しずつみえてきた。	関係：委員、事務局、NPO中島、大和田	■取組課題① ■取組課題② ■取組課題③
12月16日	ロクファイヤー参加における障がい者が「ロクフェスの成功のための事前打合せ	障がい者が参加しやすくするためにどんなことが必要か（作業内容の工夫、参加しやすい方法）をロクファイヤーの皆さまと実施した。	前回同様、作業実施者が固定されてきたことから、作業内容が工夫されている。一方、初参加の方へ、スムーズに作業できるよう、引き続きお互いみんながらやれるよう工夫していただけていると思われた。	参加者：11人	□取組課題① ■取組課題② □取組課題③
					□取組課題① □取組課題② □取組課題③
					□取組課題① □取組課題② □取組課題③

計画の変更等（変更の理由や変更後の予定など具体的に記入してください）	
今後の予定（打合せや協議会、イベントなどの予定を具体的に記入してください）	1月下旬にロクファイヤー参加のため、日本森林林業振興会長野支部の担当者と打ち合わせを実施。 1/24 SDGsのNPOを交えて、地域づくりと森林活動の連携会議実施
取組で分かったことや課題（問題の発生状況や対応、新たな課題、計画外の事柄などご自由に記入してください）	上記結果報告にも記載する予定となるが、障がい者が参加しやすくするための工夫は実践できて来ており、作業内容の固定化がなくなってきている。今後はNPO法人さんからは外の他の事業者との連携を模索していきたいと考えている。今回は「ロクファイヤー」の現場で実践にしたい。国有林やオ、バケツなどの組織との連携、現在の成果とこれからの活動について、市民が行政、企業、団体等に対してどうPRをしていくかが重要となってくる。
課題解決に向けた進捗（市民としての責任は、SDGsである場合の方向性の確認なども具体的に記入してください）	現在のステークホルダーとの関係の構築がスムーズであり、かつ新しいステークホルダーの連携会社が増えてきていることから、新たに「SDGs」が「農業」という共通するキーワードとしての繋がりがみえてきたと思われる。
メディア掲載（掲載日、掲載紙の名称、見出しなどを記入してください）	■新聞・雑誌・広報誌　　「地域見まんまる」2019春号 □テレビ・ラジオ ■Webメディア・その他　　1/24開催予定シンポジウム告知記事のHPトップ
支援事務局への要望（運営体制やマネジメント機能の強化、その他要望など）	

コ　2020年1月分

関係者限り

同時解決支援事業　月次報告（団体用）

報告日	2月5日
報告者	大和田正勝

※団体が記入し、毎月5日までに支援事務局に提出してください。

事業名	里山保全体験を通した障がい者雇用促進を目指すプログラム事業
団体名	里山ウェルネス研究会

【前月の会議（打合せ含む）やイベントなど取組内容の報告】

実施日	目的	実施内容（概要）	結果（できたこと、できなかったことなど）	参加者人数等	課題の整理
1月10日	木村義昌理事長が代表に打ち合わせ（千葉県庁にて）した際の報告	先方の人事異動があった影響により、協会となっている日本林業環境協会でのロゴファイター販売について、新しい担当者を交えて打ち合わせを実施した。	手数料を完了後、すぐに事務局が販売開始となり、ロゴファイター販売する体制を整えることができた。	事務局	□取組課題① □取組課題② ■取組課題③
1月24日	本事業の1年の活動を報告するための報告会及びセミナーの開催	里山ウェルネス支援のための報告会として、1年の活動報告会と、千葉NPOセンターにて中小企業と連携した社会貢献に関するセミナーを開催	協賛会員企業を中心とした22名の参加となった。長野県NPOセンターにて「長野県内での パートナーシップによるSDGsの取組から」を講演していただき、地域づくりのヒントをもらうことができた。全体でしっかりとまとまりのある報告会、セミナーになったと感じた。	当事者、事務局、大和田、取締役、上市、トヤの中部、長野県、環境省、林野庁など	■取組課題① ■取組課題② ■取組課題③
1月24日	第4回林業振興協議会の開催	1月中旬に初の実績報告のまとめとして、メンバーによる振り返りとつぎの問題の全国大会に向けて、本事業の活動に関する意見交換を実施	協議会のメンバーの心はとんでからは、事業開始当初はプロジェクトということもあり、何をしたいのかがわからなかったが、今年は楽しみ、自分ごとにしたいという意見が多く寄せられた。	当事者、事務局、大和田、取締役、上市、トヤの中部、長野県、環境省、林野庁など	■取組課題① ■取組課題② ■取組課題③
1月27日	ロゴファイターニュータイプ販売	アウトドア若人である千葉県林業技術センターに対し、ロゴファイターを解決、ニュータイプとして販売後のフィードバックを図る予定。	2月2日に販売開始を開始することが決定。販売実績を実施することになった。	当事者、事務局	■取組課題① □取組課題② ■取組課題③

計画の全体像（実施中または実施後の予定など具体的に記入してください）	協議会の場において、本事業で目指す社会課題の解決「障がい者の雇用支援」について、障害者雇用促進法・自立支援法に関わる就労支援や農林業事業の新たな事業本事業で展開するために実践しやすい、就労場所の環境をになう「障がい者の自立支援の場」機会の提供を目指した展開が進められることが確認された。
今後の予定（打合せや協議会、イベント等の予定を具体的に記入してください）	2/5 実績のいっせい報告つ出してロゴファイターを販売することが決定 2月中旬にオレンジ利用者会と打ち合わせ（千葉） 2/22アウトドア若人である千葉県林業技術センターと面談 2/28 全国大会に参加
取組で分かったこと（課題、工夫、問題点、新たな課題、計画外の事柄など具体的に記入してください）	今年の事業スタートは、当初はロゴファイターを販売してみたいと思ったが、今年は実行委員会からの正式事業として事務が多忙。また、これの販売を展開していくことで得られた結果と考える。
課題解決に向けた連携（実施としての費用は、SDGsである場合の方向性の確認など具体的に記入してください）	協議会の中で、県土木の保全環境課の課長さんから、今回の取組を市として「就労支援の場がとれない」結果として、自立支援、就労支援の場所が点数が増えたりなどは市としてのある、というお話をいただいた。また、農林水産のなかには「SDGsについて聞いたことがないが、今年の事業、今回のセミナー、報告会を聞いて、SDGsというものをもっと長期的に考えていかないといけないと感じた」というお話もあった。「ウルトラ」とから、本事業自身がSDGsというキーワードで活動をしていなくてもこれから当団体としては里山におけるSDGsを活用した取組が中小企業へ展開することが期待されていると感じた。
メディア掲載（掲載日、掲載紙の名称、見出しなどを記入してください）	□ 新聞・雑誌・広報誌 □ テレビ・ラジオ □ Webメディア・その他
支援事務局への要望（運営体制やマネジメント機能の強化、その他要望など）	

サ　2020 年２月分

関係者限り

同時解決支援事業　月次報告（団体用）

報告日	3月5日
報告者	大和田正勝

※団体が記入し、毎月5日までに応援事務局に提出してください。

事業名	里山保全体験を通した障がい者雇用促進を目指すプログラム事業
団体名	里山ウェルネス研究会

【前月の会議（打合せ含む）やイベントなど取組内容の報告】

実施日	目的	実施内容（概要）	結果（できたこと、できなかったことなど）	参加者人数等	課題の進捗
2月6日	ヒアリング・ヒアリング	2月に横山市内で実施されたいしやま雪まつり及び「小さくらまつり」について、PDCAの考え方のテキストレッスンを実施した。なお、「いしやま雪まつり」については雪まつり事務局からのヒアリングでの実施。	今回、はじめて「いしやま雪まつり」運営事務局からのヒアリングが実施でき、雪まつりのインストラクションが実施できた。今後も、今後継続的に実施されることを期待したい。	事務局	■取組課題① □取組課題② ■取組課題③
2月22日	意見交換	元月、モニター事業としてヒアリングを実施した荷台家「体験交流」の時間が終了し、同時解決事業の流れとヒアリングを活用していただけるよう意見交換を実施した。	現在、歩行により未活動したヒアリングは実施できていないとのことであったが、荷台協会アドバイザリー委員会部会長として、これからもヒアリングに関して、協力していただけることとなった。	事務局、荷台	■取組課題① □取組課題② ■取組課題③
2月28日	全国成果共有会への参加	同時解決事業における「見守解決」のプロセスの実践による社会への発信、さらに、同時解決事業にとっての「学びのパートナー」の一員として開催された第2回の全国成果共有会へ参加した。	本事業の今までの成果や今後の課題について、参加者に多くのことを伝えられたと思う。さらに、ポリノートからの事業に対する成果についても伝えたため、今後連携可能なパートナー団体が複数みつかった。	事務局、荷台、大和田、日本財団、他関係者	■取組課題① ■取組課題② ■取組課題③
					□取組課題① □取組課題② □取組課題③

今月の活動予定（変更や遅延や変更後の予定など具体的に記入してください）	2月中にヒアリング運営事務局と意見交換を実施する予定であったが、コロナウイルスの対応策のため延期となった。（時期は未定）
今後の予定（打合せや会議、イベント等の予定を具体的に記入してください）	なし
取組で分かったことや課題（団体の取り組みや、新たな課題、計画外の事柄などご自由に記入してください）	本年度に向けては、障がい者の自立支援の推進・機会の創出の活動をしっかりと構築できたと思っている。今後の継続としては、いかに生産性を高め、育成していくかが重要になる。そうしたなか、荷台様で下ドバイス頂いたように、就労支援やインターンなどを組み、新たな収益を早急に検討していく必要があると思った。
課題解決に向けた連携（団体としての質問は、SDGsをからめた場合の方向性の確認など具体的に記入してください）	今回、共有会に参加して、それができるかもPDCA的出会いと思った。ひとつのSDGsのゴールと我々が目指す事業のゴールが共有化でき、それによってたくさんの出会いのパートナーシップがもたらされと思っている。これは、日本としてはいろんなこと、参加した参加者の事業にも参考になると思った共有会であった。
メディア掲載（掲載日、掲載紙の名称、見出しなどを記入してください）	□新聞・雑誌・広報誌
	□テレビ・ラジオ
	□Webメディア・その他
支援者・関係者への参加（運営体制やマネジメント機能の強化、その他要望など）	

(2) 進捗管理表による工程確認

中部地方環境事務所担当者、EPO 中部、里山ウェルネス研究会の 3 者による連絡会において、事業の進捗状況について確認を行った。

ア　第１回連絡会時の進捗管理確認協議の結果

業務実施状況190424時点

仕様書項目			確認した実施予定内容			
(1)協議会の設置・開催		・関係者の役割の明確化、取組実施方法の協議等(4回程度開催)	第①回:5/22	第②回:7/4	第③回:12/8	第④回:1/24
		i)継続的体制の構築についての議論	協議会①で構成員の現状、新規加入の可能性等を確認・議論する予定。			
		ii)都市部からの関心・ニーズ等対外的窓口機能についての議論	協議会①でJTBとの4/24打合せ等を報告した上で、外部との受発信方法に関する検討を実施予定。			
(2)平成31年度事業計画の作成		事業計画の作成(別途様式あり)	初稿:4/24提出	完成:5/10締切	→→→以後も必要に応じて修正	
		公共性・公益性に結びつけた目標設定	協議会①でディスカッションして共有→事業計画に反映予定。			
		事業の過程の明確化:課題や当初目標と結果との差異の分析	事業計画、業務報告書等に盛り込む。			
		手法や留意事項等の明確化	事業計画、業務報告書等に盛り込む。			
(3)計画に基づく事業の実施	ア 実証事業及びプログラムの確立	NPO所属者・利用者等を対象に一定期間を通した実証事業を実施	5月以降に月2,3回×3か月実施予定。			
		実証事業後に参加した個人へのアンケート等の実施	実証実施後(毎回)、感想等のヒアリング。 ヒアリング項目(または調査票)を事前に作成準備する。			
		(※必要に応じて)安全性や作業効率向上を目指した環境整備	安全確保の準備や作業しやすい道具の準備等を行った場合は、その記録(概要)を報告書に盛り込む。			
	イ 林業関係者等を中心としたログファイヤーの製作講座の実施(近隣施設を活用)(講座1回開催)		開催予定日:6～7月頃に実施予定。			
	ウ 交流会及び報告会、セミナーの開催	地域住民を対象にクラフトづくりやログファイヤーの交流会を実施(1回)	開催予定日:	地域行事使用済みの竹の再利用を予定。 6月初旬に実施予定→9月事納。		
		幅広い対象に本事業の報告会と専門家によるセミナーを同時開催(1回／30人規模／半日)	開催予定日:	1/24実施予定(実施後、協議会④開催予定) ※協議会③で参加・広報協力依頼		
	エ 活動のPR	活動のPRや製品化に向けた企画会議を実施	協議会①②で着火・利用体験等を行った上で、アイデア出しを行う予定。			
		モニターを募集し、ログファイヤーの使用感、他製品の要望、林業連携に対する期待等のヒアリングを実施	【対象】キャンプ場で使ってもらえた人、ボーイスカウト、その他使用者を対象の予定。 ヒアリング項目(または調査票)を事前に作成準備する。			
		多くの人にストーリーを語れるように、活動内容をとりまとめたPRツールを作成	パワポで作成→スライドショー動画等への変換など。 年内完成を目指す。			
		ログファイヤーの性能・安全性を確認する燃焼試験等を実施	・誰でも簡単できるよう含水率等の基準・規格等の明確化、品質維持を目指す。→イ)製作講座時に実施予定。			
(4)月次報告書及び進捗管理表(本紙)の提出			月次報告:毎月5日提出	本紙:	予定を記入したものを5/初提出／その後は逐次提出	
(5)連絡会、成果共有会への参加			連絡会①:4/24	連絡会②:	連絡会③	成果共有会:
(6)支援事務局等との連携			適宜実施			
(7)報告書(業務完了報告書)の提出			初稿提出:3月初旬		完成・提出期限:3/19(木)	
(8)旅費、謝金等の支払			適宜実施			

イ　第２回連絡会時の進捗管理確認協議の結果

業務実施状況190704時点確認用

仕様書項目			確認した実施予定内容			
(1)協議会の設置・開催		・関係者の役割の明確化、取組実施方法の協議等(4回程度開催)	第①回:5/22	第②回:7/4	第③回:12/9	第④回:1/24
		Ⅰ)継続的体制の構築についての議論	協議会①で構成員の現状、新規加入の可能性等を確認・議論する予定。			
		Ⅱ)都市部からの関心・ニーズ等対外的窓口機能についての議論	協議会①でJTBとの4/24打合せ等を報告した上で、外部との受発信方法に関する検討を実施予定。			
(2)平成31年度事業計画の作成		事業計画の作成(別途様式あり)	初稿:4/24提出	完成:5/10締切	→→→以後も必要に応じて修正	
		公共性・公益性に結びつけた目標設定	協議会①でディスカッション→出てきたアイデアの中から実行可能なものを協議会②で検討			
		事業の過程の明確化 課題や当初目標と結果との差異の分析	事業計画、業務報告書等に盛り込む。			
		手法や留意事項等の明確化	事業計画、業務報告書等に盛り込む。			
(3)事業計画に基づく事業の実施	ア 実証事業及びプログラムの確立	NPO所属者・利用者等を対象に一定期間を通した実証事業を実施	5月以降に月2.3回×3か月実施予定。 7/4協議会②でNPOによる作業実施。			
		実証事業後に参加した個人へのアンケート等の実施	実証実施後(毎回)、感想等のヒアリング。 ヒアリング項目(または調査票)を事前に作成準備する。			
		(※必要に応じて)安全性や作業効率向上を目指した環境整備	安全確保の準備や作業しやすい道具の準備等を行った場合は、その記録(概要)を報告書に盛り込む。			
	イ 林業関係者等を中心としたログファイヤーの製作講座の実施(近隣施設を活用)(講座1回開催)		開催予定日:6～7月頃に実施予定。			
	ウ 交流会及び報告会、セミナーの開催	地域住民を対象にクラフトづくりやログファイヤーの交流会を実施(1回)	開催予定日:	地域行事使用済みの竹の再利用を予定。 8月初旬に実施予定→9月奉納。		
		幅広い対象に本事業の報告会と専門家によるセミナーを同時開催(1回／30人規模／半日)	開催予定日:	1/24実施予定(実施後、協議会④開催予定) ※協議会③で参加・広報協力依頼		
	エ 活動のPR	活動のPRや製品化に向けた企画会議を実施	協議会①で着火・利用体験等を行った上で、アイデア出し→出てきたアイデアのうち実行可能性を協議会②で検討			
		モニターを募集し、ログファイヤーの使用感、他製品の要望、林福連携に対する期待等のヒアリングを実施	【対象】キャンプ場で使ってもらえた人、ボーイスカウト、その他使用者を対象の予定。 ヒアリング項目(または調査票)を事前に作成準備する。			
		多くの人にストーリーを語れるように、活動内容をとりまとめたPRツールを作成	パワポで作成→スライドショー動画等への変換など。年内完成を目指す。 *※見える化プログラムとの連携あり?*			
		ログファイヤーの性能・安全性を確認する燃焼試験等を実施	・誰でも製造できるよう含水率等の基準・規格等の明確化、品質維持を目指す。→イ)製作講座時に実施予定。			
(4)月次報告書及び進捗管理表(本紙)の提出			月次報告:毎月5日提出	本紙:	予定を記入したものを5/初提出／その後は逐次提出	
(5)連絡会、成果共有会への参加			連絡会①:4/24	連絡会②:7/4	連絡会③:	連絡会④:12/8 協議会③前に
(6)支援事務局等との連携			適宜実施		成果共有会	連絡会⑤
(7)報告書(業務完了報告書)の提出			初稿提出:3月初旬		完成・提出期限:	3/19(木)
(8)旅費、謝金等の支払			適宜実施			

ウ　第３回連絡会時の進捗管理確認協議の結果

業務実施状況191101時点

仕様書項目			確認した実施予定内容			
(1)協議会の設置・開催		・関係者の役割の明確化、取組実施方法の協議等(4回程度開催)	第①回:5/22	第②回:7/4	第③回:12/9	第④回:1/24
		i)継続的体制の構築についての議論	協議会①で確認。NPOわおん(森カフェ)、地元銀行:チラシ配架協力。北信森林組合との連携可能性。※森林林業振興会を窓口にした全国販売が保留。※今後、民間との連携を増やしていきたい。			
		ii)都市部からの関心・ニーズ等対外的窓口機能についての議論	JTB名古屋と4/24、JTB長野と6/14打合せ。②協議会で情報発信方法等を検討。志賀高原のホテル6社が8/22に視察。県産業フェアへの出展。同じ出展者(鉄工系)との連携の可能性。中高生が部活で環境学習で作業の可能性。			
(2)平成31年度事業計画の作成		事業計画の作成(別途様式あり)	初稿:4/24提出	完成:5/10締切	→→→以後も必要に応じて修正	
		公共性・公益性に結びつけた目標設定	協議会①でディスカッション→出てきたアイデアの中から実行可能なものを協議会②で検討。PRツール:他地域自治体・関係機関に成果を宣伝するものとして位置付け。			
		事業の過程の明確化;課題や当初目標と結果との差異の分析	事業計画、業務報告書等に盛り込む。 事業以後の目標として:ソーシャルビジネスのための「プラットフォーム」づくり 2年間の「成果」を③協議会でワーキング抽出。			
		手法や留意事項等の明確化	事業計画、業務報告書等に盛り込む。			
(3)事業計画に基づく事業の実施	ア 実証事業及びプログラムの確立	NPO所属者・利用者等を対象に一定期間を通した実証事業を実施	5月下旬に1回、7/4協議会②で実施済み。毎月1-2回(夏場、台風被害時除く)、ここからによる作業実施。**→日時・人数・実施内容(製作本数等)の記録をとる。**			
		実証事業後に参加した個人へのアンケート等の実施	実証実施後(2回実施)、感想等のヒアリング。 **秋からの作業分についても実施予定。**			
		(※必要に応じて)安全性や作業効率向上を目指した環境整備	**治具の改善の記録(概要)を報告書に盛り込む。**			
	イ 林業関係者等を中心としたログファイヤーの製作講座の実施(近隣施設を活用)(講座1回開催)		7/28主に地区住民を対象に実施済み。祭りの旗竿活用。参加者のIターン人材や古民家建築事業者をステークホルダー等に位置付け。			
	ウ 交流会及び報告会、セミナーの開催	地域住民を対象にクラフトづくりやログファイヤーの交流会を実施(1回)	7/28上記イと同時開催済み。以後も機会があれば都度実施予定。			
		幅広い対象に本事業の報告会と専門家によるセミナーを同時開催(1回/30人規模/半日)	1/24会場:なちゅらで開催(実施後、協議会④開催)。③連絡会で協議→関係機関の参加を想定。SDGs、周辺動向を盛り込み。**→企画を修正。※③協議会で参加・広報協力依頼できるよう11月中に企画・登壇者等を確定。**			
	エ 活動のPR	活動のPRや製品化に向けた企画会議を実施	協議会①で着火・利用体験等を行った上で、アイデア出し→出てきたアイデアのうち実行可能性を協議会②で検討済み。→③協議会でアイデア実施状況の報告。未実施事項のその後			
		モニターを募集し、ログファイヤーの使用感、他製品の要望、林相連携に対する期待等のヒアリングを実施	【対象】上記イ製作講座参加者、キャンプ場(**要アンケ回収督促**)、ボーイスカウト(台風で保留)、**11/23EPOフォーラム参加者にも実施**など			
		多くの人にストーリーを語れるように、活動内容をとりまとめたPRツールを作成	**③連絡会の協議結果をうけて、パワポ等で成果を明示する構成・内容に修正。**他地域に本事業を普及するためのツールとする。「成果」は③協議会でもワーキング抽出する。→2/23全国報告会での活用			
		ログファイヤーの性能・安全性を確認する燃焼試験等を実施	含水率等の基準・規格等の明確化、品質維持→イ)製作講座時に燃焼実験を実施。**撮影画像、メモ等を確認。**			
(4)月次報告書及び進捗管理表(本紙)の提出			月次報告:毎月5日提出	本紙:予定を記入したものを5/初提出/その後は逐次提出		
(5)連絡会、成果共有会への参加			連絡会①:4/24	連絡会②:7/4	連絡会③:11/1	連絡会④:12/9協議会③後に1時間程度
(6)支援事務局等との連携			適宜実施		成果共有会:2/23	
(7)報告書(業務完了報告書)の提出			2/17構成案提出	2/28初稿提出	完成・提出期限: 3/19(木)	
(8)旅費、謝金等の支払			適宜実施			

エ　第４回連絡会時の進捗管理確認協議の結果

業務実施状況1912月末時点

仕様書項目			確認した実施予定内容			
(1)協議会の設置・開催		・関係者の役割の明確化、取組実施方法の協議等(4回程度開催)	第①回:5/22	第②回:7/4	第③回:12/9	第④回:1/24
		i)継続的体制の構築についての議論	協議会①で確認。NPOわおん(森カフェ)、地元銀行:チラシ配架協力。北信森林組合との連携可能性。※森林林業振興会を窓口にした全国販売が保留。※今後、民間との連携を増やしていきたい。			
		ii)都市部からの関心・ニーズ等対外的窓口機能についての議論	JTB名古屋と4/24、JTB長野と6/14打合せ。②協議会で情報発信方法等を検討。志賀高原のホテル8社が8/22に視察。景産業フェアへの出展。同じ出展者(鉄工系)との連携の可能性。中高生が部活で環境学習で作業の可能性。			
(2)平成31年度事業計画の作成		事業計画の作成(別途様式あり)	初稿:4/24提出	完成:5/10締切	→→→以後も必要に応じて修正	
		公共性・公益性に結びつけた目標設定	協議会①でディスカッション→出てきたアイデアの中から実行可能なものを協議会②で検討。PRツール:他地域自治体・関係機関に成果を宣伝するものとして位置付け。			
		事業の過程の明確化:課題や当初目標と結果との差異の分析	事業計画、業務報告書等に盛り込む。 事業以後の目標として:ソーシャルビジネスのための「プラットフォーム」づくり 2年間の「成果」を③協議会でワーキング抽出。			
		手法や留意事項等の明確化	事業計画、業務報告書等に盛り込む。			
(3)事業計画に基づく事業の実施	ア 実証事業及びプログラムの確立	NPO所属者・利用者等を対象に一定期間を通した実証事業を実施	5月下旬に1回、7/4協議会②で実施済み。毎月1-2回(夏場、台風被害時除く)、ここからによる作業実施。→日時・人数・実施内容(製作本数等)の記録をとる。			
		実証事業後に参加した個人へのアンケート等の実施	実証実施後(2回実施)、感想等のヒアリング。 秋からの作業分についても実施予定。			
		(※必要に応じて)安全性や作業効率向上を目指した環境整備	治具の改善の記録(概要)を報告書に盛り込む。			
	イ 林業関係者等を中心としたログファイヤーの製作講座の実施(近隣施設を活用)(講座1回開催)		7/20主に地区住民を対象に実施済み。祭りの旗竿活用。参加者のIターン人材や古民家建築事業者をステークホルダー等に位置付け。			
	ウ 交流会及び報告会、セミナーの開催	地域住民を対象にクラフトづくりやログファイヤーの交流会を実施(1回)	7/28上記イと同時開催済み。以後も機会があれば都度実施予定。			
		幅広い対象に本事業の報告会と専門家によるセミナーを同時開催(1回/30人規模/半日)	1/24会場:なちゅらで開催(実施後、協議会④開催)。③連絡会で協議→関係機関の参加を想定。SDGs、周辺動向を盛り込み。→企画を修正。※③協議会で参加・広報協力依頼できるよう11月中に企画・登壇者等を確定。			
	エ 活動のPR	活動のPRや製品化に向けた企画会議を実施	協議会①で着火・利用体験等を行った上で、アイデア出し→出てきたアイデアのうち実行可能性を協議会②で検討済み。→③協議会でアイデア実施状況の報告。未実施事項のその後			
		モニターを募集し、ログファイヤーの使用感、他製品の要望、林福連携に対する期待等のヒアリングを実施	【対象】上記イ製作講座参加者、キャンプ場(要アンケ回収督促)、ボーイスカウト(台風で保留)、11/23EPOフォーラム参加者にも実施など			
		多くの人にストーリーを語れるように、活動内容をとりまとめたPRツールを作成	③連絡会の協議結果をうけて、パワポ等で成果を明示する構成・内容に修正。他地域に本事業を普及するためのツールとする。「成果」は③協議会でもワーキング抽出する。⇒2/23全国報告会での活用			
		ログファイヤーの性能・安全性を確認する燃焼試験等を実施	含水率等の基準・規格等の明確化、品質維持→イ)製作講座時に燃焼実験を実施。撮影画像、メモ等を確認。			
(4)月次報告書及び進捗管理表(本紙)の提出			月次報告:毎月5日提出	本紙:予定を記入したものを5/初提出／その後は逐次提出		
(5)連絡会、成果共有会への参加			連絡会①:4/24	連絡会②:7/4	連絡会③:11/1	連絡会④:12/9協議会③後に1時間程度
(6)支援事務局等との連携			適宜実施		成果共有会:2/23	
(7)報告書(業務完了報告書)の提出			2/17構成案提出	2/28初稿提出	完成・提出期限:3/19(木)	
(8)旅費、謝金等の支払			適宜実施			

6 連絡会、成果共有会への参加

(1) 連絡会等

支援事務局が４回開催した連絡会に参加し、協議会事務局運営の進め方について協議、確認を行った。

ア　第１回連絡会

日　時：平成 31 年４月 24 日
場　所：EPO 中部
内　容：　　昨年度の事業についての課題
仕様書に対する進捗管理について
第１回の協議会についての確認
ログファイヤーの展開について

イ　第２回連絡会

日　時：令和元年７月４日
場　所：飯山市文化交流館なちゅら多目的ルーム１
内　容：　　業務の実施状況の確認
第１回（2019 年度）の協議会についての振り返り
第２回協議会の確認
その他取組の報告等について

ウ　第３回連絡会

日　時：令和元年 11 月１日
場　所：飯山市文化交流館なちゅら多目的ホール２
内　容：　　業務の実施状況の確認
第３回協議会の内容確認
前回協議会で出たアイデアのその後の報告
PR ツールの案の確認
1/24 セミナーの開催内容等についての確認

エ　第４回連絡会

日　時：令和元年 12 月 16 日
場　所：飯山市社会福祉センター会議室
内　容：　　業務の実施状況の確認
PR ツールの確認
1/24 セミナーの開催内容等についての確認

(2) 成果共有会

ア　成果共有会の開催概要と実施内容（成果発表）

全国事務局（環境省民間活動支援室が別途契約する地球環境パートナーシッププラザ）が令和２年２月 23 日に東京で開催した全国成果共有会に出席した。この成果共有会は全国８採択事業における「同時解決」のプロセスの可視化と社会への発信及び採択事業にとっての今後のパートナー探しを目指したものである。内容は主に指定された様式によった２ヵ年事業のプレゼンテーション（採択団体５分、EP0５分）、ポスター形式によるディスカッションなどである。ディスカッションにおいては、２ヵ年における事業展開の評価をいただき、地元食材や他の事業とコラボレーションした展開案などのアドバイスなど、様々なご意見を多くいただいた。

ローカルSDGsギャザリング開催概要

【ゴール】

・8採択事業における「同時解決」のプロセスの可視化と社会への発信
・採択事業にとっての今後のパートナー探し（事業開始当初、「セカンドキックオフ」と仮称）

【日時】

2020年2月23日（日）10：00-18：00

【場所】

国連大学 2階 レセプション・ホール
（東京都渋谷区神宮前5-53-70）
※東京メトロ 表参道駅から徒歩5分

【配布資料】

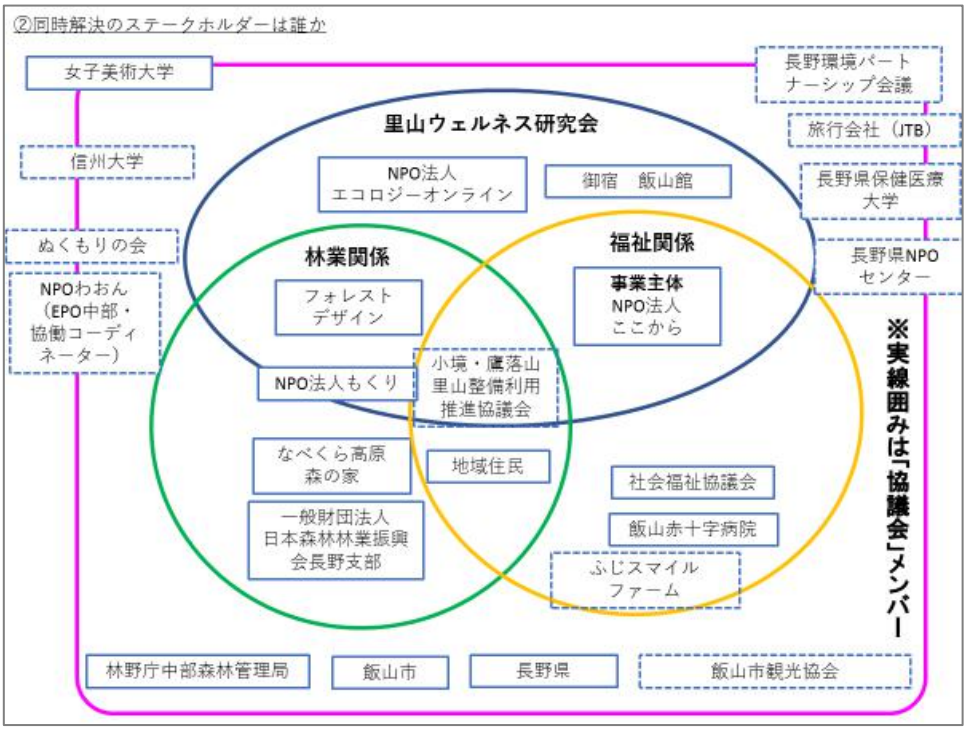
- パワポ資料（4枚/1事業）
- 2か年事業計画

【プログラム全体】

9:30-10:00	受付
10:00-10:15	開会挨拶＆司会アナウンス
10:15-10:25	同時解決事業の概要説明
10:25-10:55	UNUよりプレゼンテーション
11:00-12:30	企画①アピールタイム
12:30-13:45	≪昼食≫※各自
13:45-13:50	企画②コミュニケーションタイム導入
14:50-14:40	コミュニケーションタイム（ラウンド1）
14:40-14:50	≪休憩≫※発表団体入れ替え
14:50-15:40	コミュニケーションタイム（ラウンド2）
15:40-15:55	≪休憩≫※コーヒーブレイク
15:55-17:15	企画③全体ディスカッション
17:15-17:30	採択団体コメント
17:30-17:50	アドバイザリー委員コメント
17:50-18:00	閉会挨拶&記念撮影

イ　成果共有会に向けて作成・提出した資料

成果共有会のフォーマットに従い、全５ページを作成し、提出した。



③2年間に行ったアクション

ログファイヤー

明かり、コンロ、暖取り ひとつで3役

ForestGood2018間伐・間伐材利用コンクール審査委員長奨励賞受賞

燃焼実験等を実施して＜規格基準＞を設定
直径：20～25cm程度・長さ：35～45cm程度・
含水率：12％以下

・ログファイヤー製作工程の障がい者（精神障害）の作業実証事業

作業者や支援施設担当者と相談しながら使用する工具や安全具の使用などを模索

・地域住民等へ製作講座の開催

地域における本事業の活動への理解と新たなログファイヤー製作の担い手の育成を目指した製作講座と交流会を開催

＜その他の主なアクション＞
女子美術大学とのキャラクター開発・市のふるさと納税返礼品へのエントリー・市内のお祭りにてログファイヤーの提供など

ローカルSDGsギャザリング2020（2020.2.23）

④2年間を通じたアウトプットや学び

■森林（もり）づくり

【間伐材の活用；ログファイヤー】
- ログファイヤー：活用されることのなかった間伐材を商品化して付加価値をつけられた。
- 名称「飯山ログファイヤー」で地域のPRも。
- 林福連携、SDGs、同時解決等々をキーワード（ブランド）にして観光／環境学習用ツールとしての展開も。

【空間としての活用】
- 森林セラピーの展開や新たに認知症予防のプログラムの展開
- 環境学習、「森カフェ」講座等の展開（ログファイヤーも活用）

■ 新たな「森林サービス」として関係者が評価

■ 地域住民の里山への関心向上（＝地域住民による維持管理費支出等に対する賛同意識が向上）

今、里山では・・・
里山の維持管理のバロメーターであり、林業と共生して開花するといわれる「カタクリ」が生育しはじめている。

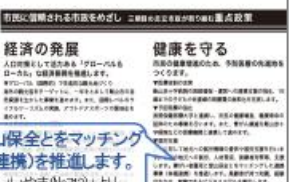
■福祉

【障がい者・施設スタッフの声（アンケート結果より）】
- 始めは難しかったけど、やりやすい道具も作ってくれて良かった。
- 施設から出ての作業は利用者のモチベーションが上がったように感じた
- 他の人と関わり、指導を受けていくにつれて、本人が自信をもって活動していく様子が見らた。

■ 治具の工夫、障がい者（作業者）のモチベーション向上、障がい者による加工＝付加価値として展開（私がつくりましたメッセージカード添付等）

■「働く場」づくり（A・B型事業所になること）は困難だが、障がい者の「居場所」「自立支援の場」の選択肢を増やしたことを地域（市）が評価。

■ 市の福祉における重要政策の一つに。



障がい者雇用と里山保全とをマッチングした連携事業（林福連携）を推進します。
2018年11月15日発行「市報いいやま（No.2713）」より

⑤3年後の展開とつながりたい人や機能

	3年後の展開	つながりたい人や機能
既に進行中	協議会の継続開催	次年度以降も開催予定であることを協議会メンバーは了承済み
	大学等と連携した森林活用プロジェクトの継続と新たな展開	信州大学建築学科学生との間伐材を活用した古民家づくりのプロジェクト、そのほか環境学習プログラムづくり
	「森カフェ」講座等での飯山ログファイヤー活用	里山空間活用プロジェクト「森カフェ」主宰団体NPOわおんとの連携による森カフェでのログファイヤー活用の定着・ツール化
	地域イベント等での飯山ログファイヤーの活用・PR	地域の祭りでの奉納、かまくらまつり等イベントでの定番化、出張カフェ学生サークルとの提携展開など
	森林環境を活用した認知症予防の取組の中心拠点づくり	東北医科薬科大と連携した認知症予防における非薬学療法の可能性を探る研究の実施体制作りを開始（今春から開始予定）
	パラリンピック等障がい者スポーツの場での活用	まず、2020パラリンピックにおけるログファイヤー活用へ
今後取組予定	福祉事業研修の場への発展	障がい者だけではなく、引きこもり者や高齢者などのほかの福祉における研修の場への発展。
	SDGs、環境教育、林福連携の研修の場づくり	旅行会社（JTB）販売員向けサイトや教員向けサイト等へのプログラム登録
	里山と地域を結ぶの新しいプラットフォームづくり	里山ウェルネス研究会による森林と地域（人）を結ぶソーシャルビジネスプラットフォームへの進化

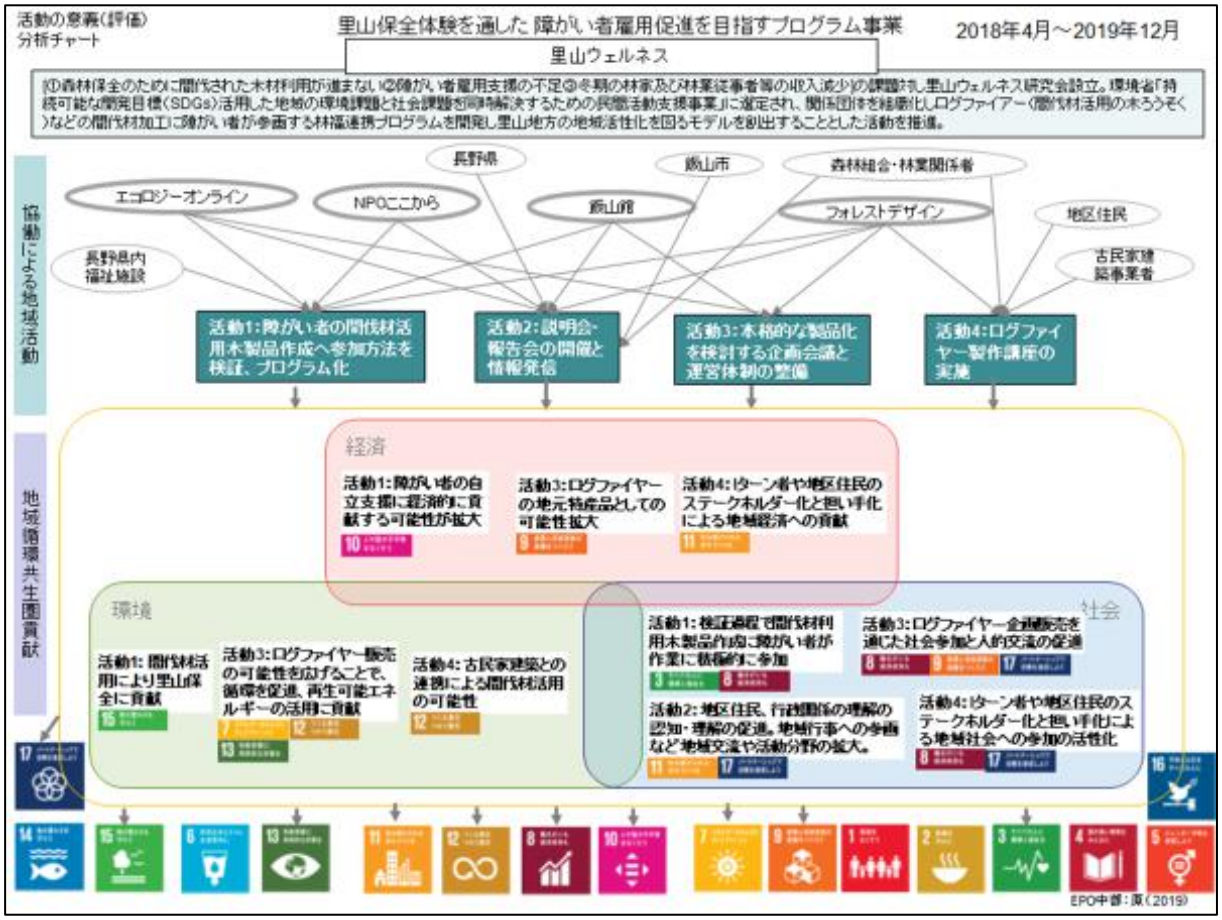
山づくりの取組でも一番を目指す組織へ
（飯（米）でも一番、山（森林）でも一番を実現する飯山プラットフォームへ）

7 支援事務局等との連携

(1) EPO 中部「活動見える化プログラム」の作成協力

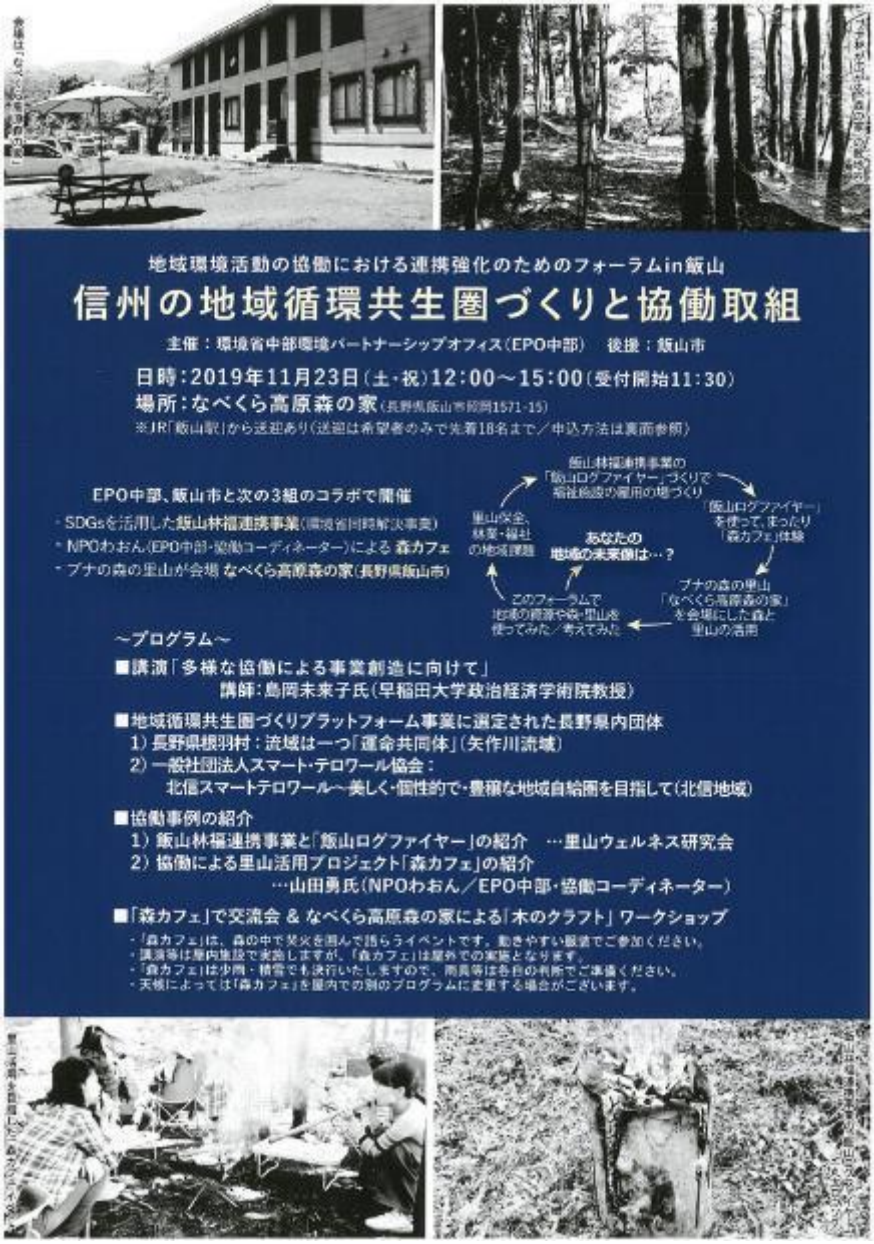
EPO 中部が構築する「活動見える化プログラム」のケーススタディに、本事業を取り上げ、分析チャート図等作成のためのヒアリングなどの支援を受けた。作成された分析チャートは下記の通りである。

【活動見える化プログラムのチャート図】



(2) EPO 中部主催フォーラムでの登壇とログファイヤー活用

ログファイヤーを多くの場所で展開をするため、取組のチラシ配布の協力や令和元年 11 月 23 日（土）に開催された EPO 中部主催の協働フォーラム（信州の地域循環共生圏づくりと協働取組）内で、取組発表やログファイヤーを活用したワークショップなどの場所を提供頂いた。


地域環境活動の協働における連携強化のためのフォーラムin飯山
信州の地域循環共生圏づくりと協働取組
主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）　後援：飯山市
日時：2019年11月23日（土・祝）12：00～15：00（受付開始11：30）
場所：なべくら高原森の家（長野県飯山市瑞穂1571-15）
※JR「飯山駅」から送迎あり（送迎は希望者のみで先着18名まで／申込方法は裏面参照）
EPO中部、飯山市と次の3組のコラボで開催
・SDGsを活用した飯山林福連携事業（環境省同時解決事業）
・NPOわおん（EPO中部・協働コーディネーター）による 森カフェ
・ブナの森の里山が会場 なべくら高原森の家（長野県飯山市）
飯山林福連携事業の「飯山ログファイヤー」づくりで福祉施設の雇用の場づくり
「飯山ログファイヤー」を使って、まったり「森カフェ」体験
ブナの森の里山「なべくら高原森の家」を会場にした森と里山の活用
このフォーラムで地域の資源や炎・里山を使ってみた／考えてみた
里山保全、林業・福祉の地域課題
あなたの地域の未来像は…？
～プログラム～
■講演「多様な協働による事業創造に向けて」
講師：島岡未来子氏（早稲田大学政治経済学術院教授）
■地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業に選定された長野県内団体
1）長野県根羽村：流域は一つ「運命共同体」（矢作川流域）
2）一般社団法人スマート・テロワール協会：
北信スマートテロワール～美しく・個性的で・豊穣な地域自給圏を目指して（北信地域）
■協働事例の紹介
1）飯山林福連携事業と「飯山ログファイヤー」の紹介　…里山ウェルネス研究会
2）協働による里山活用プロジェクト「森カフェ」の紹介
…山田勇氏（NPOわおん／EPO中部・協働コーディネーター）
■「森カフェ」で交流会 & なべくら高原森の家による「木のクラフト」ワークショップ
・「森カフェ」は、森の中で焚火を囲んで語らうイベントです。動きやすい服装でご参加ください。
・講演等は屋内施設で実施しますが、「森カフェ」は屋外での実施となります。
・「森カフェ」は少雨・積雪でも決行いたしますので、雨具等は各自の判断でご準備ください。
・天候によっては「森カフェ」を屋内での別のプログラムに変更する場合がございます。

(3) その他

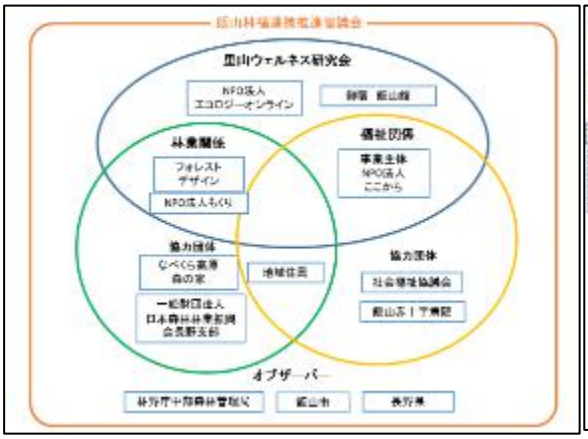
その他の連携においては、協議会のディスカッションで出たアイデアを 2019 年度／2022 年度／（長期）将来目標に分類して整理した。協議会内の毎回最後に、ディスカッションの内容と SDGs との相関性の振り返りを実施するなどの支援を受けた。また、令和元年７月 28 日に開催された製作講座及び交流会、令和２年１月 24 日に開催されたセミナー・報告会においても、積極的に参加いただき、当日の運営サポートなどの支援を受けた。

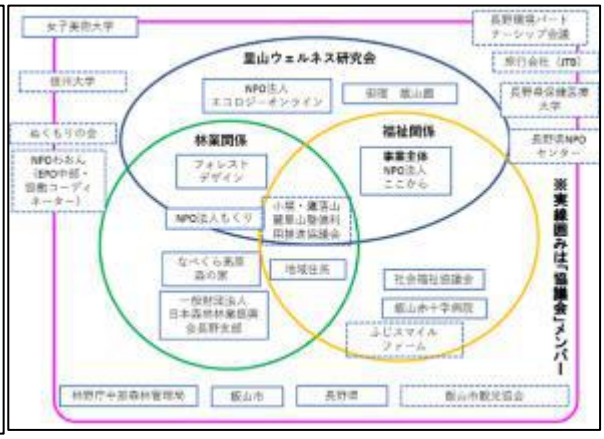
8 総括

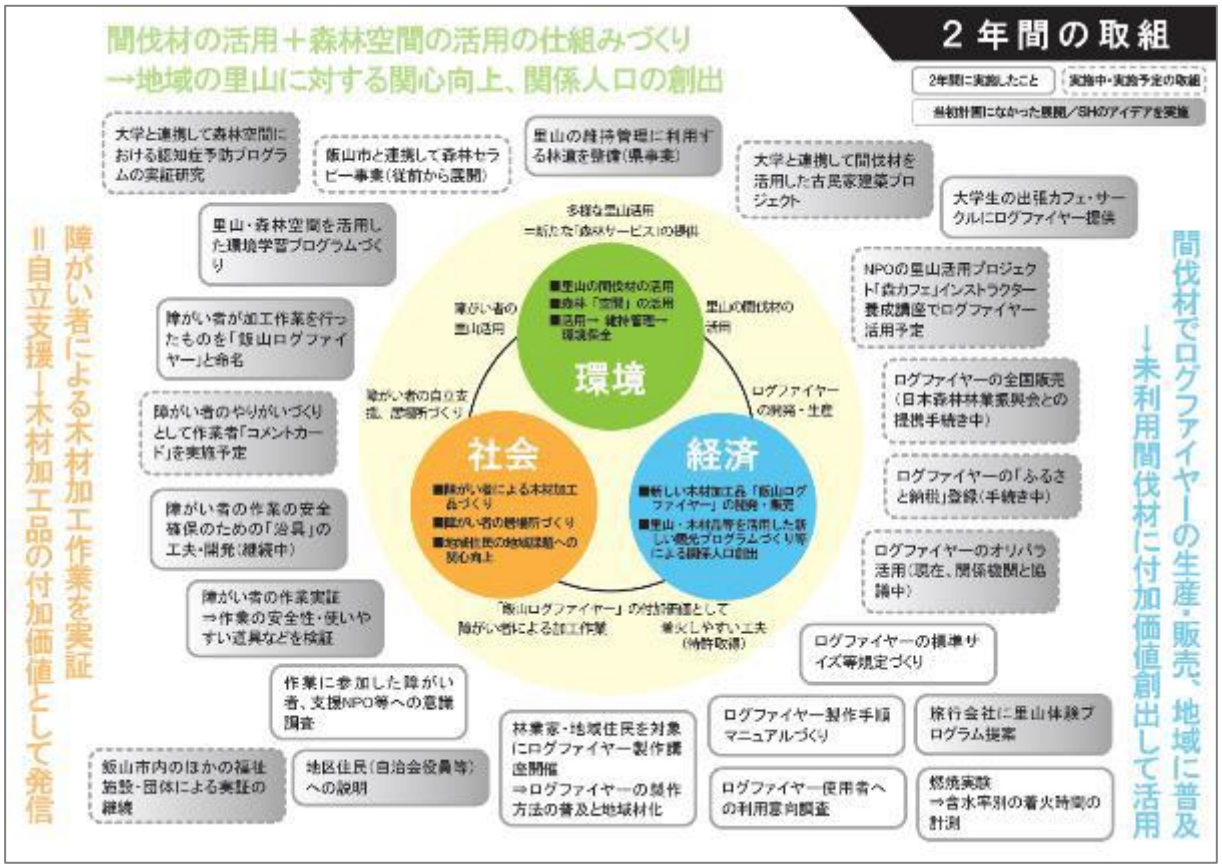
(1) 2ヵ年の事業における事業分析

事業運営に関して、開始当初は多くの方々から事業実施の見通し等について、多くの懸念や否定的な意見も多く見られる中でスタートであった。1年目で地域行政である飯山市との関係も深くなり、行政側からも多くの意見をいただく事ができた点がこの事業が滞りなく展開できた大きな要因のひとつであると考えられる。このことにより、多くのステークホルダーとの関係をもつことが出来たと感じている。

＜ステークホルダーの変化　左：開始当初　右：現在のステークホルダー＞







また、地域内において里山に対する関心が向上し、未利用木材の新たな活用が確立され、森林を活用した事業や新たな林福連携の創出など、多方面での事業展開に繋がっている。さらに、本事業で目指す社会課題の解決「障がい者の雇用支援」については、障害者雇用促進法・自立支援法に関わる就労支援やA型・B型事業所の設立等を本事業で展開することは実質難しいと判断し、就労場所の確保ではなく、「障がい者の自立支援の場・機会の提供」を目指した展開が適当であることが確認された。こうしたこともあり、市の重点施策にもあげられるようになった。

経済の発展

人口対策として活力ある「グローバル＆ローカル」な経済振興を推進します。

▼グローバル（国際的）で先進的な観光地づくり
海外の観光客をターゲットに、一年をとおして飯山市の自然資源を生かした事業を進めます。また、国際レベルのサイクルツーリズムの実施、アウトドアスポーツの聖地化を進めます。

▼公民連携による地域開発
高速交通ハブ機能、宿泊施設、飲食・ショッピング施設、住宅地等を集め、飯山赤十字病院、なちゅら、図書館など文教エリアと隣接、連携した新幹線駅周辺地域の整備を行います。

▼ITオフィス基地の誘致

▼コミュニティ・ビジネス手法の開発と展開
長野県立大学と連携して地域の資源を活用したスモールビジネスや地域課題を持続的に解決する手法を活用します。

▼地域を生かした経済の振興

健康を守る

市民の健康増進のため、予防医療の先進地をつくります。

▼医療体制の充実
飯山赤十字病院の医師確保・運営への連携支援の強化、18歳までの子どもや妊産婦の医療費の無料化を充実します。

▼予防医療の強化
長野保健医療大学と連携し、市民の健康増進、健康寿命の延伸のため事業を行います。また、胃がん撲滅を飯山赤十字病院などの医療機関と連携して進めます。

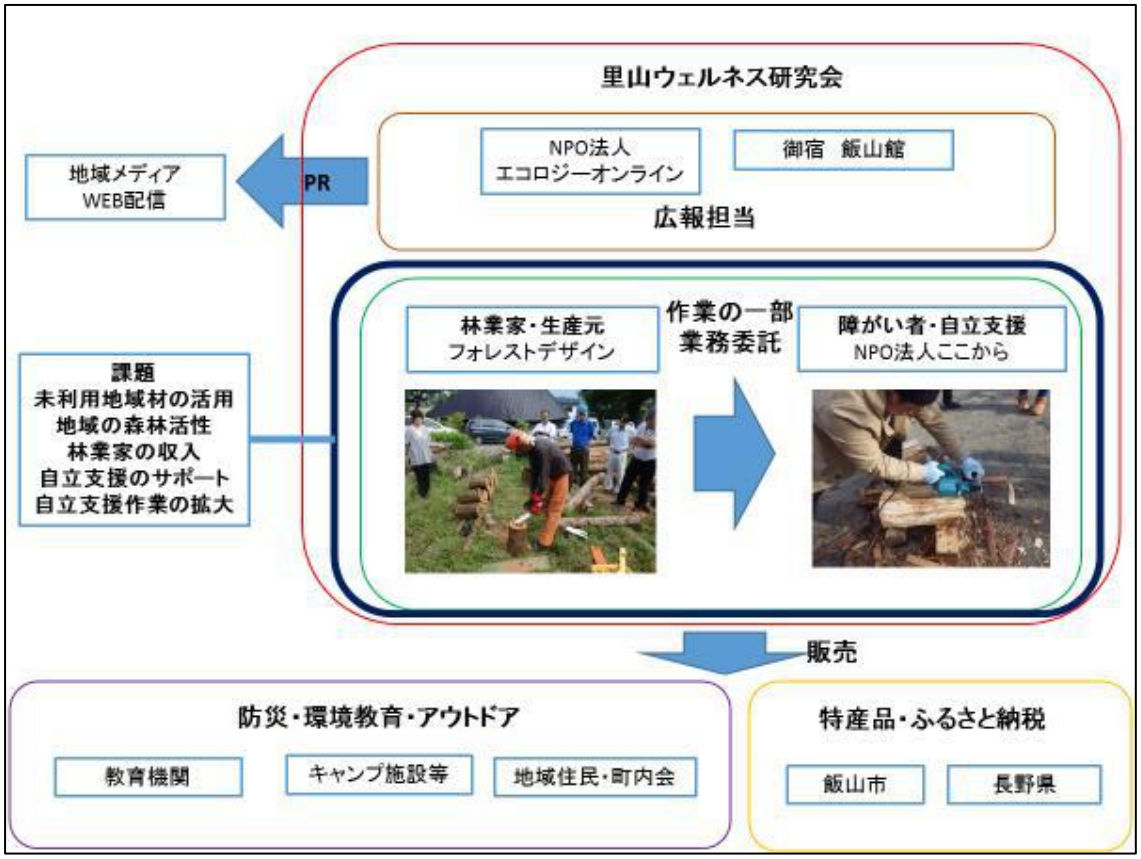
▼就労支援
学生に対して地元への就労情報の提供や就労支援を行います。若者の地元への就労、人材育成、後継者対策等、支援します。障がい者雇用と里山保全とをマッチングした連携事業（林福連携）を推進します。高齢者が持つ知識、経験が生かせ、就業できるビジネスモデルを創出します。

以下に２ヵ年の事業成果のまとめを示す。

(2) 今後に向けての取組

ア　ログファイヤーの生産と普及

まず、今後のログファイヤーを普及するためには、流通先の確保が重要である。現在も一部実施中の案件もあるが、ふるさと納税の返礼品としての展開、販売先（販売協力先）との連携などを行い、少しずつ生産量と流通先を増やしていく。そのためには、林福連携の商品であることを示すために製作に携わった障がい者のメッセージカードの添付を行うなど、付加価値（ブランドの価値化）も必要となる。また、セレモニーや贈答用などの特殊用途への対応などから地域イベントでの継続的な使用も目指していく。さらに、多くの地域でログファイヤーを展開できるよう NPO わおんが実施している「森カフェ養成講座」など他の団体と組んだ製作体験や講座の実施も行っていく予定である。



＜ログファイヤーの価格設定＞

・設定価格

サイズ	直径	長さ　（高さ）	価格（円：税込）	
			皮付き	皮なし
小	12ｃｍ以上 18ｃｍ未満	20ｃｍ～30ｃｍ程度	1,500	1,900
中	18ｃｍ以上 24ｃｍ未満	30ｃｍ～40ｃｍ程度	2,700	3,400
大	24ｃｍ以上 30ｃｍ未満	40ｃｍ～50ｃｍ程度	4,500	5,400
特大	24ｃｍ以上で受注	50ｃｍ以上	要相談	要相談

・算出根拠

材料費（円）		製作費（円）				原価合計（円）	原価率
スギ３m材１㎥で作れる個数	材料１個あたりの価格	加工費	乾燥費	保管費	皮むき費（支援費）		
130 個	90	500	300	100	300	1,290	68%
53 個	210	800	500	200	500	2,210	65%
17 個	650	1,000	700	300	700	3,350	62%

＊中丸太　11,000 円／㎥で算出

イ　東京パラリンピックとの連携の検討

ログファイヤーを PR するにあたり、2020 年７月に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることに向けての活動も行っている。このきっかけとなったのも、協議会内で活用してもらえないのかという意見がでたのがはじまりだった。日本国は環境オリンピック・パラリンピックを掲げていることもあり、あわせて、障がい者とともに製作した物という点も踏まえ、数回、実現に向けてオリンピック・パラリンピック運営事務局や林野庁とも意見交換を実施した。そうした結果、飯山市をはじめとするホストタウン登録しているホストタウンの取組と連動した形を模索することとなった。具体的には、飯山市と協力し、木材を多く活用する国のホストタウンになっている行政に声をかけ、イベント等で活用してもらうということである。例えば、長野県内であれば長野市がデンマーク、安曇野市がオーストリア、関東でいえば栃木県の那須塩原市がオーストリアを、ホストタウンとして登録しており、こういった行政に声をかけ、各地の木材を活用したログファイヤーを製作し、イベント等での活用を目指していく。

ウ　森林を使った認知症予防

本事業の活動をきっかけとして、新たな林福連携事業が生まれた。それは、森林を使った認知症予防である。全国で認知症対策が課題とされる昨今、認知症の治療法は確立されていない中、認知症の非薬物療法の可能性を明らかにすべく取組である。長野県飯山市の森林にて、森林内の空気の成分（森の香り）が認知機能に対しどのような影響を与えるかを調査研究する。内容としては、認知機能変化の違いがわかるように被験者（老健施設に通所されている方を想定）に対し、森林ウォーキング群、森林浴群、室内レクレーションリハビリ（レクリハ）群の３グループに分けて長谷川式などの認知機能テストを行う。調査期間は６～７ヶ月を予定。

併せて、森林内における空気の定性調査（どのような成分が存在するか）、定量調査（その成分がどのくらいの量存在するか）も合わせて調査する。

実施場所は森林セラピー基地（なべくら高原など）や当団体拠点地（いいやま里の家）周辺の山林等で行う予定である。

エ　地域のプラットフォーム団体への発展

近年、特に地方都市では、過疎化・高齢化により、自治会などのコミュニティ機能が低下している現状がある。現在、飯山市内においていくつかのＮＰＯが活動を行っているなか、地域市民や企業、行政が一体となって協働・活動している取組は数少ない。

当団体が活動フィールドとする森林活動においても例外ではない。

このような地域課題の解決に向けて、地域住民と周辺で活動する我々が多く交われるような地域になれるよう、個々の知識、経験等を活かしながら、地域の理想の将来像を実現させるための「地域プラットフォーム」の形成を目指す。

里山ウェルネス研究会プラットフォーム　構成例
里山保全および里山関係人口創出図案

タイプ1：自然・文化保全型

〔団体の要件〕
・自然環境や文化の保護保全に取り組む自立的で主体的な団体
・企画、運営、安全管理ができる

- 北信濃の里山を保全活用する会
- 天然記念物黒岩山保全協議会
- NPO法人フォレスト工房もくり
- 信越トレイルクラブ

など

タイプ2：地域（山道、水路など）保全型

〔団体の要件〕
・自立的で主体的に支援の受入体制を整えられる地区
・企画、運営、安全管理、受入の体制を整えることができる

- 小境区
- その他応援を希望する地区

要望・支援依頼

支援・協働

事務局
＜里山ウェルネス研究会＞
支援組織取りまとめ
協働支援活動
補助金サポート

支援・協働

依頼

＜サポート団体＞

●行政関係

□飯山市　農林課
・自然、文化、地域保全の飯山モデルづくり
・地域おこし協力隊の受入

□飯山市　移住定住推進課
・移住希望者等への情報提供
・実施日の参加者のサポート
・年間スケジュールのとりまとめ（地域保全型）

□飯山市　雇用ビジネス推進課
・関係人口増加の施策の検討
・ボランティアからビジネスモデルへの転化への検討
・企業研修、企業のSDGsの受け皿
・視察ビジネス
・大学のソーシャルビジネスとの連携

□企画財政課
・基金の行政の窓口
・ふるさと納税の活用の検討

□飯山市　教育委員会
・文化財の保護・保全
・年間スケジュールのとりまとめ（自然、文化保全型）
・市内学生の地域学習の実施

□飯山商工会議所
・企業へ情報発信
・寄付を元に保全基金の創設

□長野県
・森林税、元気づくり支援金等でのサポート

□中部森林管理局

●大学など
□信州大学
□法政大学
・キャリヤ教育の場として・ソーシャルビジネス実践の場として

●民間企業・団体・個人
□フォレストデザイン・刈払機等の安全衛生教育
・県内外のNPO等
・個人

今後に向けた活動のまとめ

【ログファイヤーの活用に向けて】

今後の展開	内容
「森カフェ」講座等での飯山ログファイヤー活用	里山空間活用プロジェクト「森カフェ」主宰団体NPOわおんとの連携による森カフェでのログファイヤー活用の定着・ツール化
地域イベント等での飯山ログファイヤーの活用・PR	地域の祭りでの奉納、かまくらまつり等イベントでの定番化、出張カフェ学生サークルとの提携展開など
パラリンピック等障がい者スポーツの場での活用	まず、2020パラリンピックにおけるログファイヤー活用へ
福祉事業研修の場への発展	障がい者だけではなく、引きこもり者や高齢者などのほかの福祉における研修の場への発展。

【新たな森林活用・地域活性化に向けて】

今後の展開	内容
大学等と連携した森林活用プロジェクトの継続と新たな展開	信州大学建築学科学生との間伐材を活用した古民家づくりのプロジェクト、そのほか環境学習プログラムづくり
森林環境を活用した認知症予防の取組の中心拠点づくり	東北医科薬科大と連携した認知症予防における非薬学療法の可能性を探る研究の実施体制作りを開始（今春から開始予定）
SDGs、環境教育、林福連携の研修の場づくり	旅行会社（JTB）販売員向けサイトや教員向けサイト等へのプログラム登録
里山と地域を結ぶの新しいプラットフォームづくり	里山ウェルネス研究会による森林と地域（人）を結ぶソーシャルビジネスプラットフォームへの進化
干し柿を使ったお菓子を開発	地区内にたくさんの柿の木が植えられており、アウトドア等の旅行で来られた方へのカロリー補給やお土産として提供。

参考資料

（参考資料１）H31 年度事業計画書

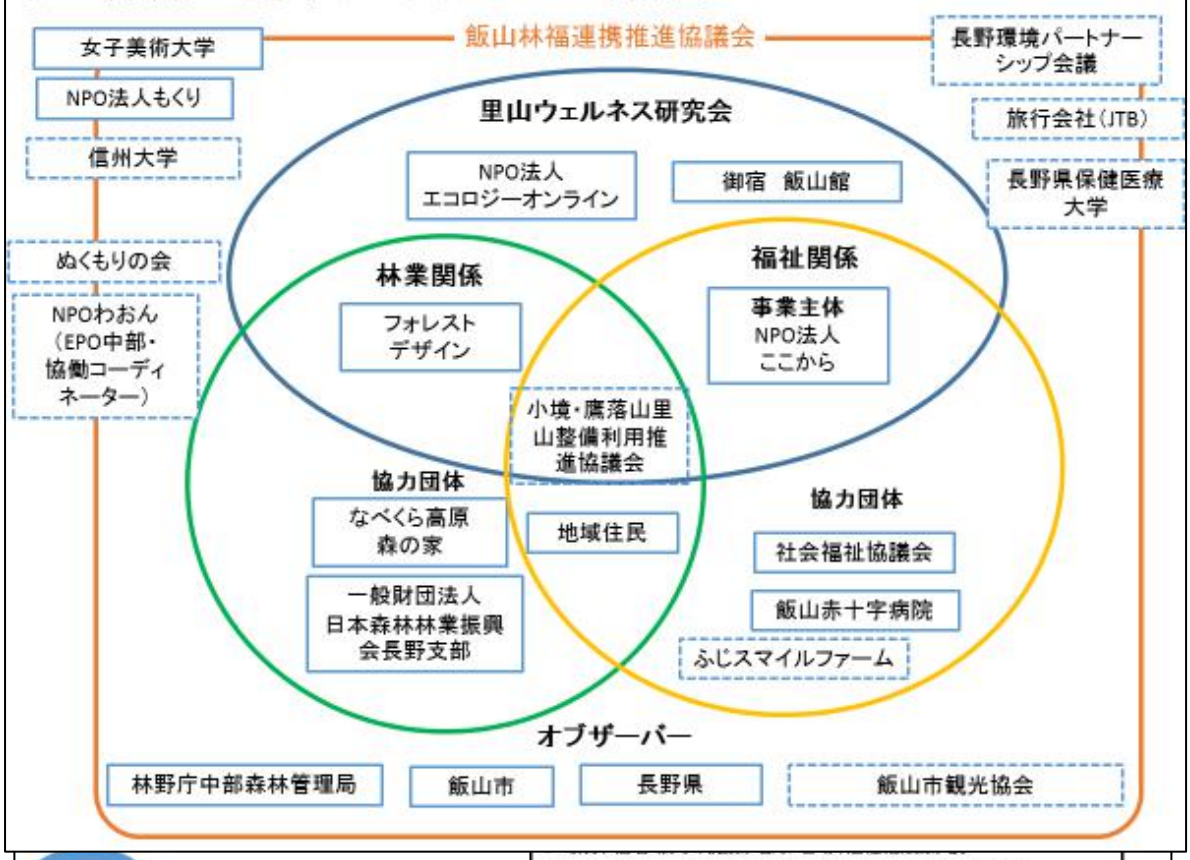
環境省　持続可能な開発目標（SDGs）活用した
地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業
＜令和元年度 事業計画＞

里山保全体験を通した障がい者雇用促進を目指すプログラム事業

里山ウェルネス研究会

2019.05

② 運営体制の整理（ステークホルダーとの関係性）



2022年度末 地域の状態

- 取り上げられた記事や映像を通して、飯山市に移り住む人が増える。
- 地域や世代を超えた交流が生まれ、多くの人々により新しい創造により、新しい事業計画が組み立てられる。
- 里山ウェルネス研究会及び協議会が中心となり、SDGs、林福連携のモデル地域としての研修の場として活動が広がることにより、ツーリズムの面でも需要が増え、定住、企業研修等の場としての活動が増加する。

目指す未来からの逆算

2019年度末 地域の状態

- 木材加工の工程に障がい者が参加する手法が確立するなど、林業と障がい者における林福連携事業が明確になり、市や県などの行政の協働取組の一環として、事業の普及を図る。
  また、ログファイヤーの認知度も向上し、ふるさと納税の返礼品の採用、パラリンピックへの寄贈や各レクレーション団体、施設、旅行会社と連携し、ログファイヤーを活用した環境教育、レジャーなどのプログラムを展開する。
- 「小境・鷹落山里山整備利用推進協議会」との連携をはじめ、地域等で行われている他の環境、福祉活動と連携した啓発活動、協力関係を形成する。

目指す未来からの逆算

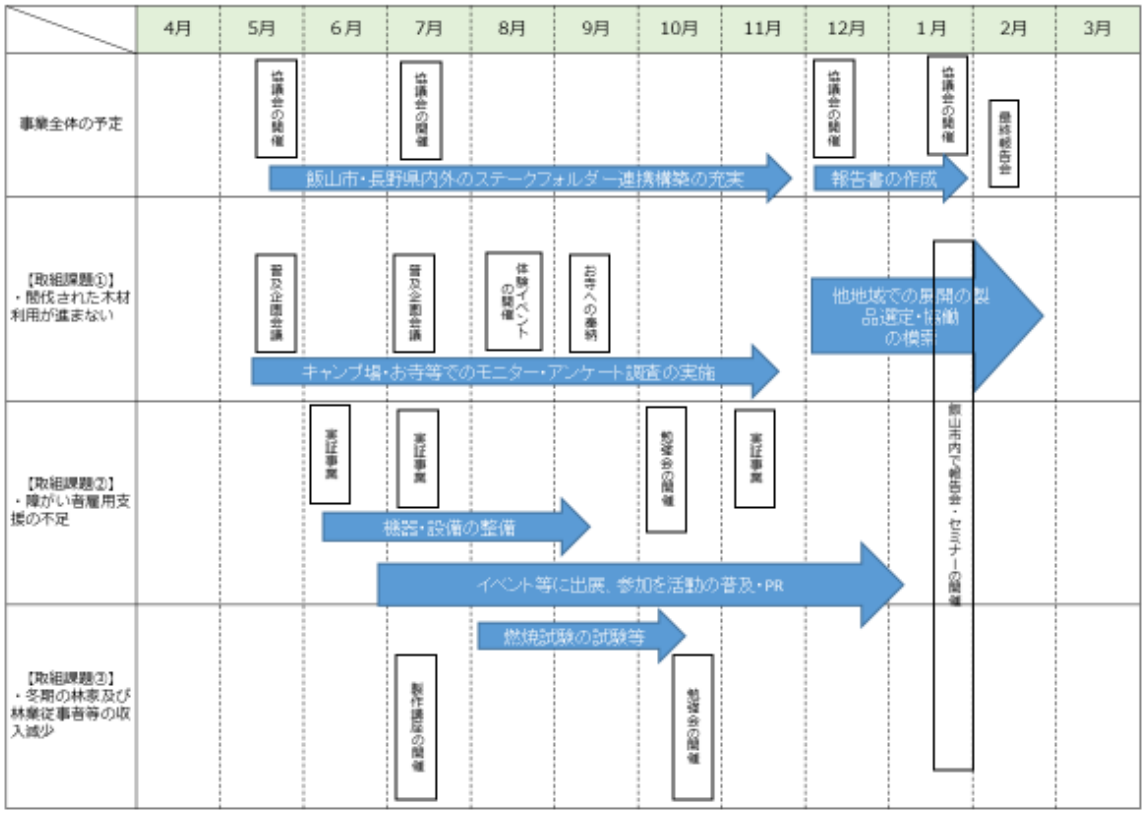
2018年度末 地域の状態

- 本事業の協議会として「飯山林福連携推進協議会」を設立して協議を重ね、今までつながりがなかった行政との関わりや連携もしっかりとれ、事業実施及び林福連携の基盤が整い、事業のスタートを開始することができた。飯山市の政策の中でも林福連携事業を推進する項目が追加された。
- 本事業の協議会とは別に、拠点地域に「小境・鷹落山里山整備利用推進協議会」（長野県ふるさとの森林づくり条例・里山整備利用地域の活動推進主体に2018年12月に認定）も設置され、県による森林づくりのための林道整備や、推進協議会メンバー（本事業協議会メンバーでもある）による認知症予防への里山活用の取組など新たな展開も生まれている。

③ 2019年度末までの到達目標

項目	目標 （課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか）
【取組課題①】 ＜環境課題＞ ・間伐された木材利用が進まない	・間伐材を活用した地域の新しい木材加工品の普及に取り組み、地域や関係者が里山の価値を再認識し、里山の維持管理に対する地域の意識を向上させる。 ・木材加工品の生産を進めることにより、里山における資源循環としての間伐材利用を促進する。 ・地域の未利用間伐材の年間の使用見込み量が数値化する。
【取組課題②】 ＜福祉課題＞ ・障がい者雇用支援の不足	・地域の新しい木材加工品の製作における役割分担（必要人数）や稼動スケジュールを明確にする。 ・地域（市・県）の林業と福祉が連携した林福連携事業のモデル事業の構築に取り組む。 ・障がい者だけではなく、他の福祉事業と連携も模索する。
【取組課題③】 ＜経済課題＞ ・冬期の林家及び林業従事者等の収入減少	＜地域の新しい木材加工品の生産＞ ・市民や市内をはじめとする林業家の方がログファイヤーを製作できる展開を図る。 ・多くの場所で普及拠点ができ、3年後には林業従事者や関係者の人たちの収入の見込みが立てられるようにする。 ＜生産した木材加の活用方法の確保＞ ・ログファイヤーがパラリンピック等の大きなイベント及び旅行会社等での活用・採用が決まる。 ・キャンプ場、ボーイスカウト、お寺等で毎年の使用が3件確定させる。

④課題解決に向けたスケジュール（令和元年度）



⑤ 2ヵ年事業計画（H30.8）からの変更点

計画の変更点（項目）	変更した理由
・平成31年度の到達目標の変更	・本事業では、「里山と障がい者雇用の促進」というテーマの中で林業と福祉の連携において、林福連携としてきたが、異なる様々な分野のステークホルダーを巻き込んだ「協議会」で事業を進めていく上で、障がい者に加えて「里山と高齢者福祉」も事業の中でつなぐこととした。また、キャンプ場や宿泊施設と連携したツアー（観光）において、ログファイヤーの活用を図る追加の目標設定を行った。
・取組のアイディアの変更	・キーアイテムであるログファイヤーを地域経済の資源としていくため、林業家や市民に対するログファイヤーの製作講座の開催、協議会の中で地域資源として活用していくための方策等を検討する。
・取組のアイディアの変更	キーアイテムであるログファイヤーを多くの人に普及する上で、ログファイヤー使用に関するモニター事業の実施。これにより生まれたフィードバックを反映し、多くの人が製作でき、さらによりよいログファイヤーが完成でき普及することが期待できる。
・取組のアイディアの変更	・本事業の共同体性や巻き込み状況に関して、当初はツーリズム（観光）関係との連携は記載をしていなかったが、ツーリズム関係と連携した方が面白いという意見も多々頂き、企業研修等をひとつの候補としたツーリズムとの連携を追加した。

⑥ その他補足事項

■事業を進める上での課題やリスクとその対策

・協働主体をはじめ、複数の県をまたぎ、各ステークホルダーがそれぞれの仕事や他の活動等を抱えていることから、効率的・効果的な会議の運営必要である。そのため、役割分担を明確にし、適宜、事業主任者と各担当者のミーティング（電話ミーティング含む）等を図っていく。

・ログファイヤーを普及することで障がい者の作業促進や地域の未利用木材の利用促進につなげるという事業ではあるが、1つの製品の普及（販売促進）にならないよう多くの方を巻き込みつつ、目標達成に向け努力していく。

・いろんな方々からアドバイスを頂くが、各アドバイザリー及び審査の先生によりご意見に相違があり、困惑してしまうことが多々ある。都度、中部地方環境事務所、EPO中部と相談の上、事業を進めていく。

■その他、留意事項などがあればお書きください

・

（参考資料２）飯山林福連携推進協議会議事録

第１回 飯山林福連携推進協議会議事録

１．日時	令和元年５月 22 日（水）
２．場所	なべくら高原森の家
３．参加者	宮澤　豊　　里山ウェルネス研究会副代表 大和田正勝　　里山ウェルネス研究会事務局長 余頃友康　　里山ウェルネス研究会 有井寿美男　　一般財団法人日本森林林業振興会長野支部 西川遼馬　　飯山市社会福祉協議会 志水善一　　長野県北信地域振興局林務課 岩塚伸人　　林野庁中部森林管理局北信森林管理署 溝手康人　　環境省中部地方環境事務所環境対策課 清本三郎　　EPO 中部 富田夏子　　EPO 中部 原　理史　　EPO 中部 清本三郎　　EPO 中部
４.内容	（１）昨年度の報告、本年度の事業計画及びスケジュールについて （２）同時解決事業についての説明 （３）ワークショップ （４）ログファイヤーの普及企画会議 （ログファイヤーのワークショップ） （５）その他　意見交換

同時解決事業（中部）飯山林福連携事業 2019 年度・第 1 回協議会 WG

○これからの取組のアイデア等

目指す将来／SH や活動・事業の拡がり

・森カフェ（NPO わおん）でログファイヤー活用　恒例イベント化
・販売について、ログファイヤーを全国に販売。当振興会で販売窓口となる
・木材のエネルギー利用
・事業を軌道に乗せることが必要であるため、活用いただける企業との連携
・地域通貨の創設
・雇用促進。安定した収入。働く場、居場所（やりがいのある）
・若い学生との協働
・大学祭への出品
・災害時等でのログファイヤー使用の可能性
・長野市内でのデモンストレーション（街角広場等）

ログファイヤーの地域資材化／地域での活用展開

・ふるさと納税返礼品←障害者の方が加工…アピールポイント！
・バックアップ評価項目３から地域を考えると、ログファイヤーの名前を「ログファイヤーIIYAMA」にしてはどうか
・飯山市主催イベントへの出品
・森の中に入り、森の中で間伐されたログファイヤーの材を運ぶ→里山に下ろして、皮をむく→達成感を与える→体験型AC→アクショントラブルの実行
・学校行事としてのキャンプへのPR
・地元でのPR（ログファイヤーの使用の可能性）
・キャンプ場等のレクリエーション施設での販売による認知
・広葉樹でのログファイヤー
・地酒のカンをログファイヤーでつけながら、地元食材と酒を楽しむ
・資源を大切に使う、ボーイスカウト　ガールスカウトの野外活動やセレモニーに活用する→調理、照明、キャンプファイヤー　雪中キャンプ活用実演
・ふるさと体験セット（山生活）、飯山の産品（アスパラ等）とログファイヤーをセットにして通販
・ログファイヤーの活用事例を広く知らせる
・他のイベント等のだき合わせ提案。認知症＋ログファイヤー（森林セラピー）
・キャラクターの有効活用
・ログファイヤー着火コンテスト、ログファイヤー長時間もやすコンテスト

第２回 飯山林福連携推進協議会議事録

１．日時	令和元年７月４日（木）
２．場所	いいやま里の家
３．参加者	宮澤　豊　　里山ウェルネス研究会副代表 大和田正勝　　里山ウェルネス研究会事務局長 余頃友康　　里山ウェルネス研究会 川中直美　　里山ウェルネス研究会（NPO法人ここから） 鈴木靖史　　飯山市民生部保健福祉課課長 松田一騎　　長野県健康福祉部障がい者支援課 岩塚伸人　　林野庁中部森林管理局北信森林管理署 溝手康人　　環境省中部地方環境事務所環境対策課 西田清紀　　環境省中部地方環境事務所環境対策課 清本三郎　　EPO中部 富田夏子　　EPO中部 原　理史　　EPO中部 江口健介　　GEOC
４.内容	（１）障がい者施設利用者の作業見学 （２）施設職員による利用者の様子等のお話 （３）作業におけるワークショップ （４）第１回協議会の振り返り （５）その他　意見交換　等

191714 飯山林福連携協議会2ワーキングの結果

今後の事業展開の可能性についてのアイデア

	2019年度末(同時解決事業終了)までに	2022年度末までに	さらに長期目標として
生産関連	・ 福祉企業センターに仕事がない→作ってもらう ・ ログファイヤーの規格の設定 ・ ログファイヤー製作・使用マニュアル／ログファイヤー製作のマニュアルづくり	・ 廃材→間伐利用→ログファイヤー販売化へとつなげる ・ 県内の他の障がい者施設への広がり	・ 障がいのある方が通いやすい場所へ拠点施設の移動（駅周辺、空き家の活用） ・ 自立連携協力事業所→就労継続支援施設 ・ 内職化できないか→引きこもり対策 ・ 障がい者以外への広がり
活用方法として	・ 県外市内の団体での活用展開 ・ 教育用プログラムの開発、展開（先生向けの研修）	・ 森カフェ定例イベント化 ・ 海外イベント in 飯山（姉妹都市経由） ・ DS・SS と連携し事件・福祉・観光活動につなげる。2020-13th（8/12-16、12,000人予定）福島県いなわしろ町日本シーナリーに協力・参加	・ 反むき体験、障がい者交流つき ESD ツアー
商品展開／販売ルート関連	・ とにかく販売（PR）ログファイヤー ・ ふるさと納税、商品販売だけではなく体験・宿泊の観光パッケージ ・ 振興会が販売窓口になって全国へ販売	・ アウトドア用具店・ホームセンターに置けるようにしたい ・ ログファイヤー薪切キット ・ 手軽にログファイヤーを扱うことが出来る商品の販売（食卓に設置可能な大きさのもの）	・ 家の中で使えるログファイヤーミニ
PR 啓蒙関連	・ ネーミング／スウェーデントーチーイイヤマトーチ（登録） ・ ここからとの連動 PR（野菜の販売とあわせて） ・ 市・県のイベントでの PR（展示を含む）	・ ログファイヤーのメジャー化→認知を広げる、誰もが知っているワードにする ・ 長野県や飯山市が推奨する商品になる ・ ログファイヤーを地域ブランドの一つに ・ 私が作っていますものがたりブックレットの作成	
プロジェクトとして		・ 自立した取組展開（里山ウェルネス）（無駄 ESD 事業）	・ SDGs プラットフォーム ・ 高付加価値の里山づくり ・ 里山公園

1

福祉施設の人たちによる作業の現場を見て得られたアイデア

	福祉施設の方たちによる作業を見て感じたこと	障がい者の雇用支援について この事業で取り組めると良いと思ったこと	発信していくこと（発信内容・方法など）
安全性 生産体制	■ 安全性（刃物を使うので十分な監視が必要） ■ 刃物の扱いに注意 ■ 見守る側の心構え ■ 2人がかりで固定している ■ 共同作業 ■ 刃物のあつかい方が見ていて安心して見れらた	■ 安全作業 ■ 作業性（作業治具等） ■ 使い方指南ガイド ■ 固定の方法を検討・確立 ■ 作業工程の明示（内容） ■ 作業の様子の見える化 ■ 治具をしっかり作って安全に効率的に ■ 安全に作業を行える教育・環境づくり ■ 作業のお手伝いにボランティアや高齢者にお願いできないかな ■ 他の事業所からも障がい者を受け入れたらどうかな ■ 高校学校の実習を受けてみては？ ■ 作業場、実習先の確保（不足） ■ 市民、行政等が理解し活用するなど支援する体制	
作業現場の付加価値	■ きれいに作業 ■ 作業がていねい ■ 成果が見せやすい（キレイになる） ■ まじめに取り組んでいる ■ いきいきしている ■ 楽しく真剣に作業を行っていた ■ 木の香りをかぎながらの作業変化 ■ 木に触れている姿がにこやか、おだやか ■ 木材を扱った時の心理、どんな気持ちで接しているか	■ 林業家と福祉作業施設が連携したケース ■ 普通の市民と障がい者がペアを組む交流 ■ 健常者とのペア作業 ■ 健常の人も穏やかになれる→ペアを組む ■ 障がい者の方との作業（教育）（高校生）SDGs ■ 楽しさを人に知らせる、体験観光に組み込む	■ 林福連携の可能性 ■ 手作業の良さ ■ 認知症予防の一つのスキル→木の香りをかぎながらの作業

2

	福祉施設の方たちによる作業を見て感じたこと	障がい者の雇用支援について	
		この事業で取り組めると良いと思ったこと	発信していくこと（発信内容・方法など）
やりがい	■ 達成感（やりがい等）	■ 日標は設定、ノルマは設定しない ■ やりがいの維持（継続性）	■ 作業者ひとり一人のサインがわりのマーク・やりがい ■ 作った人のマークを入れる、誰が作っているか物語に ■ ログファイル（ログファイヤー？）を使った人の感想を書ける ■ 障がいをもつ方が製作したという情報発信（障がいをもつ方への励み）
活用・販売		■ 活用が必要（コスト） ■ 皮をむいたログファイヤーの使い道の洗い出し	■ 道の駅や飯山駅で販売できないかな ■ ログファイヤーの活用 ■ ふるさと納税 ■ 災害時に使用→灯り、庭に　ボーイスカウトの隊員に広めたい

3

第 3 回 飯山林福連携推進協議会議事録

１．日時	令和元年 12 月 16 日（月）
２．場所	飯山市社会福祉センター会議室
３．参加者	宮澤　豊　　里山ウェルネス研究会副代表 大和田正勝　　里山ウェルネス研究会事務局長 余頃友康　　里山ウェルネス研究会 鈴木靖史　　飯山市民生部保健福祉課課長 岩塚伸人　　林野庁中部森林管理局北信森林管理署 溝手康人　　環境省中部地方環境事務所環境対策課 清本三郎　　EPO 中部 富田夏子　　EPO 中部 原　理史　　EPO 中部
４.内容	（１）第２回協議会アイデアに対する取組状況報告 （２）協議会メンバーに協力いただきたいことの抽出・確認 （３）PR ツールのアイデア抽出等 （４）事務局からのログファイヤーの事業展開に関する報告 （５）その他意見交換

1．今後の事業展開の可能性についてのアイデア 1/2

	7/4第2回協議会WG	11/1第3回懇談会でヒアリング	12/16第3回協議会WG	
	2019年度末（同時解決終了）までに	【事務局報告】⇒11月末現在の状況	付箋	補足ディスカッション
生産関連	・ログファイヤー製作・使用マニュアル／ログファイヤー製作のマニュアルづくり ・福祉企業センターに仕事がない→作ってもらう ・ログファイヤーの規格の設定	➢ 既にあり→充実化 ➢ 「福祉企業センター」を要確認 ➢ 含水率別の燃焼試験実施済み。規格サイズも明示	・飯山ログファイヤー規格の見える化 ・ログファイヤーのマニュアル化（製作・使用） ・特に製作マニュアルの福祉の方のかかわり方部分の整理 ・実はまた新しい形状を考えました	・福祉企業センター：雑業訓練の実施施設。貿易戦争の影響で仕事が少なくなっている。（しかし「請負」となり、煩雑な手続ありで、本業務向きではない。） ・ログファイヤーは含水率20%以下がよく燃焼。出荷前に要確認。 ・よくある切り出し間伐材のサイズでおおよその規格を明示。
活用方法として	・県・市の団体での活用展開 ・教育用プログラムの開発、展開（先生向けの研修）	➢ 斑尾高原にサンプル提供中（モニター調査） ➢ 信州大学と間伐材を活用した環境学習プログラムづくりの連携の話あり（→コンタクトで停止状態）	・ログファイヤー製作講座の位置付けの明確化（例：マイスター認定） ・飯山ログファイヤーとしての差別化 ・活用事例の紹介 ・森カフェ養成講座との連携 ・地域の祭礼利用・催事 ・宿泊施設でプランを作りモニターを実施する ・ボーイスカウト・ガールスカウトと連携を計る	・信州大の建築学科学生と飯山の古民家建築屋が間伐材（学生が伐採）、古材を活用して建屋を建築するプロジェクトが進行中。 ・信州大のコーヒーサークルにログファイヤーを提供。喜んでいた。 ・11/23EPO主催フォーラムの森カフェ主宰NPOとログファイヤー活用を検討中。
商品展開／販売ルート関連	・振興会が販売窓口になって全国へ販売 ・とにかく販売（PR） ・ふるさと納税、商品販売だけではなく体験・宿泊の観光パッケージ	➢ 様子見？ ➢ ふるさと納税：書類作成中 ➢ JTBに登録予定、パッケージツアーの商談進行中	・間伐材の活用→環境保全の取組としての部分をもっと打ち出す ・数多くの利用・PR（見てもらう）	・森林林業振興会と販売窓口に関する打合せを1月に実施予定。 ・ふるさと納税：書類作ります。進めます。 ・パッケージツアー：森林セラピー＋認知症予防の展開も。

2

1．今後の事業展開の可能性についてのアイデア 2/2

	7/4第2回協議会WG	11/1第3回懇談会でヒアリング	12/16第3回協議会WG	
	2019年度末（同時解決終了）までに	【事務局報告】⇒11月末現在の状況	付箋	補足ディスカッション
PR戦略関連	・ネーミング／スウェーデントーチ→イイヤマトーチ（愛称） ・ここからとの協働PR（野菜の販売とあわせて） ・市・県のイベントでのPR（展示を含む）	➢ 11/23EPOフォーラムでは「飯山ログファイヤー」の呼称で広報。 ➢ 未定（今は既存作業のみで） ➢ 県産業フェアに出展 ➢ オリパラ活用を探り中	・オリパラ活用については障がいを持たれた方でも作成できることをPRしては？ ・ログファイヤーを灯りでPR？（調理もできる？） ・説明用コンテンツパッケージづくり：パネル→ストーリー、PR、使い方、実物、関係備品 ・障がい者とログファイヤーの連携したイメージ図（PRデザイン） ・＋（プラス）コーヒー（学生サークル、森カフェと連携） ・身近なタレントに再度アプローチ ・出前授業に行きデモンストレーション ・障屋クラブにログファイヤーを出展	・飯山市の雪まつりから正式オファーあり（昨年はゲリラ的にログファイヤーを点火していた）。2/8-9かまくらペイントの横で点火のオファー⇒PRのチャンス。 ・昨年、二年参りで特大ログファイヤーの奉納を行った方から、好評だった（話題になった）ため今年も奉納してほしいと奉納先からの寄付依頼があり、今年も大型ログファイヤーを奉納することに。 ・オリパラでの活用：ホストタウンとの連携を検討中。 ・森林管理局もホストタウンとの連携に協力可能。
プロジェクトとして		➢ 国有林を活用したログファイヤーを検討		・国有林活用のログファイヤー等をレクリエーションの森（戸隠等）で活用の可能性を検討中。 ・「国有林プロジェクト」として次年度から取組予定。

3

2．福祉施設の人たちによる作業の現場を見て得られたアイデア 1/2

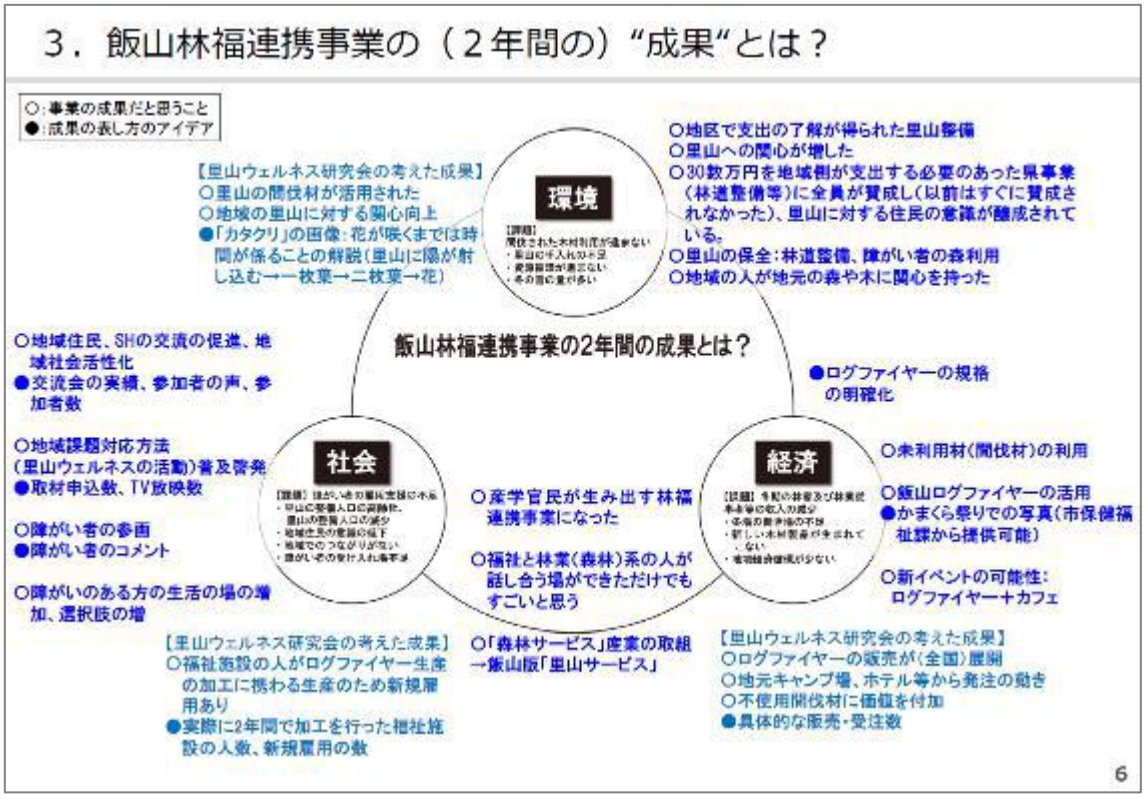
	7/4第2回協議会WG			11/1第3回運営会でヒアリング	12/16第3回協議会WG
	福祉施設の方たちによる作業を見て感じたこと	障がい者の雇用支援として この事業で取り組めると良いと思ったこと	発信していくこと（発信内容・方法など）	【事務局報告】 今後の展開の可能性	付箋
安全性	■ 安全性（刃物を使うので十分な留意が必要） ■ 刃物の扱いに注意 ■ 見守る側の心構え ■ 2人がかりで固定している ■ 共同作業 ■ 刃物のあつかい方が見ていて安心して見られた	■ 安全作業 ■ 作業性（作業治具等） ■ 使い方指南ガイド ■ 固定の方法を検討・確立 ■ 作業工程の明示（内容） ■ 作業の環境の見える化 ■ 治具をしっかり作って安全に効率的に ■ 安全に作業を行える教育・環境づくり		➢ 「治具」の工夫を進めている。	➢ 安全作業・軽減作業で負担とならない作業の検討 ➢ 製作を簡易にする治具をつくりました ➢ 回転（作業しやすい）⇔固定（安全性）で悩ましい。 ➢ 使用道具別の治具についても研究中。
生産体制		■ 作業のお手伝いにボランティアや高齢者にお願いできないかな ■ 他の事業所からも障がい者を受け入れたらどうかな ■ 養護学校の実習を受けてみては？ ■ 作業場、実習先の確保（不足） ■ 市民、行政等が理解し活用するなど支援する体制		➢ 他事業所等との連携…現状ここからの受入のみで生産が間に合っている。 ➢ 学校等との連携…学校の授業での活用展開などに可能性あり。	➢ ひきこもりの方にも来てもらえると良い ➢ 対象を明確に（雇用ではなく）自立支援時 ➢ 作成品の完成度の維持向上 ➢ 養護学校の生徒は刃物作業は難しい。 ➢ 本事業は障がい者の「雇用・職場の確保」でなく「自立支援」と位置付けた方が良い。 ➢ 課題：「NPOここから」以外の団体による実証→「高水福祉会」が協力可能（市保健福祉課）
やりがい	■ 達成感（やりがい等）	■ 目標は設定、ノルマは設定しない ■ やりがいの維持（継続性）	■ 作業者ひとり一人のサインがわりのマーク→やりがい ■ 作った人のマークを入れる、誰が作っているか物語に ■ ログファイヤーを使った人の感想を届ける	➢ 今は作業で手一杯の現状。将来的に考えたい。	➢ 楽しみで来てくれるような工夫をする ➢ 購入者へのメッセージカード（コピーでも） ➢ 作業者コメントカードはやりましょう

4

2．福祉施設の人たちによる作業の現場を見て得られたアイデア 2/2

	7/4第2回協議会WG			11/1第3回運営会でヒアリング	12/16第3回協議会WG
	福祉施設の方たちによる作業を見て感じたこと	障がい者の雇用支援について この事業で取り組めると良いと思ったこと	発信していくこと（発信内容・方法など）	【事務局報告】 今後の展開の可能性	付箋
作業現場の付加価値	■ きれいに作業 ■ 作業がていねい ■ 成果が見せやすい（キレイになる） ■ まじめに取り組んでいる ■ いきいきしている ■ 楽しく真剣に作業を行っていた ■ 木の香りをかぎながらの作業変化 ■ 木に触れている姿がにこやか、おだやか ■ 木材を使った時の心理どんな気持ちで接しているか	■ 林業家と福祉作業施設が連携したケース ■ 普通の市民と障がい者がペアを組む交流 ■ 健常者とのペア作業 ■ 健常の人も穏やかになれる→ペアを組む ■ 障がい者の方との作業（教育）（高校生）SDGs ■ 楽しさを人に知らせる、体験観光に組み込む	■ 林福連携の可能性 ■ 手作業の良さ ■ 認知症予防の一つのスキル→木の香りをかぎながらの作業	作業プロセスで障がい者＋一般市民の交流創出の可能性について ➢ 現状の実績・予定はない。 ➢ キコリと障がい者が一緒に生産→そのことが付加価値 ➢ 環境学習等でフォレストデザインへ来た学生と一緒に皮むきなど、今後の可能性あり。	➢ 林業と福祉、環境保全についての"付加価値"をPRで明示・しっかり発信 ➢ 飯山ログファイヤー規格化←福祉連携のものが「飯山ログファイヤー」と位置付ける？ ➢ 健常者と一緒に作業：精神障がいの方は知らない人が苦手なため難しいであろう。
活用・販売		■ 活用が必要（コスト） ■ 皮をむいたログファイヤーの使い道の洗い出し	■ 障がいをもつ方が製作したという情報発信（障がいをもつ方への励み） ■ 道の駅や飯山駅で販売できないかな ■ ログファイヤーの活用 ■ ふるさと納税 ■ 災害時に使用→灯り種に　ボーイスカウトの隊員に広めたい	販売ルート拡大のために ➢ 事業展開アイデアの実施などを検討。	➢ 障がい者の関わりを強調すべき ➢ 経済効果の割出（価格設定）も明示できるように

5



第４回 飯山林福連携推進協議会議事録

１．日時	２令和２年１月 24 日（金）
２．場所	飯山市文化交流会館なちゅら　多目的ホール１
３．参加者	宮澤　豊　　里山ウェルネス研究会副代表 大和田正勝　　里山ウェルネス研究会事務局長 余頃友康　　里山ウェルネス研究会 江尻浩和　　飯山市経済部農林課課長 城　風人　　長野県林務部信州の木活用課課長 有井寿美男　　一般財団法人日本森林林業振興会長野支部 鈴木靖史　　飯山市民生部保健福祉課課長 岩塚伸人　　林野庁中部森林管理局北信森林管理署 溝手康人　　環境省中部地方環境事務所環境対策課 清本三郎　　EPO 中部 富田夏子　　EPO 中部 原　理史　　EPO 中部
４.内容	（１）本事業の振り返り（一人一人の振り返り） （２）今後の活動について （３）意見交換

（参考資料３）制作したＰＲツール

環境省　SDGｓ同時解決事業とは？

持続可能な開発目標（SDGs）活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業

- 地域において複雑に絡み合う環境課題と社会課題に対して、協働の手法やSDGsを活用し、それら課題を統合的に進める事業
- 各採択事業では、それぞれの課題との関係の深化、ステークホルダーの拡大、課題解決の加速化等を進めるとともに、SDGsへの理解を促していく
- 採択事業を、SDGsを活用した地域での取組モデルとして整理し、社会に広く発信していくことを予定している。

2

里山ウェルネス研究会（2018年3月設立）

所在地：飯山市大字豊田1105 「いいやま里の家」

目　的：本会は、里山体験や森林に関わる事業を通して健康生活を提案し、高齢者支援、障がい者支援等を行うための団体である。里山に関わるライフスタイルから、エネルギー、循環型社会を考慮した地域づくり・街づくりを応援するために行政や企業と連携、意見交換、支援、政策提言を行います。

事　業

（1）森林セラピー等による認知症予防促進事業

（2）里山体験を通した障がい者雇用促進事業（林福連携事業）

（3）里山体験を通した環境教育事業

（4）行政、企業等への政策提言事業

（5）人材育成及び雇用促進サポート事業

（6）地域住民への体験活動やセミナーの企画・開催

3

里山ウェルネス研究会の林福連携事業

森林(もり)づくり(里山保全・林業)と福祉の同時解決

課題① 里山整備等で出た間伐木材の利用が進まない。

課題② 障がい者等の就労就労支援においては、実習先の確保等が課題。

課題③ 冬の期間（積雪期）における林家や林業従事者の収入減少

↓

林業家と障がい者の自立支援NPOが連携した取組

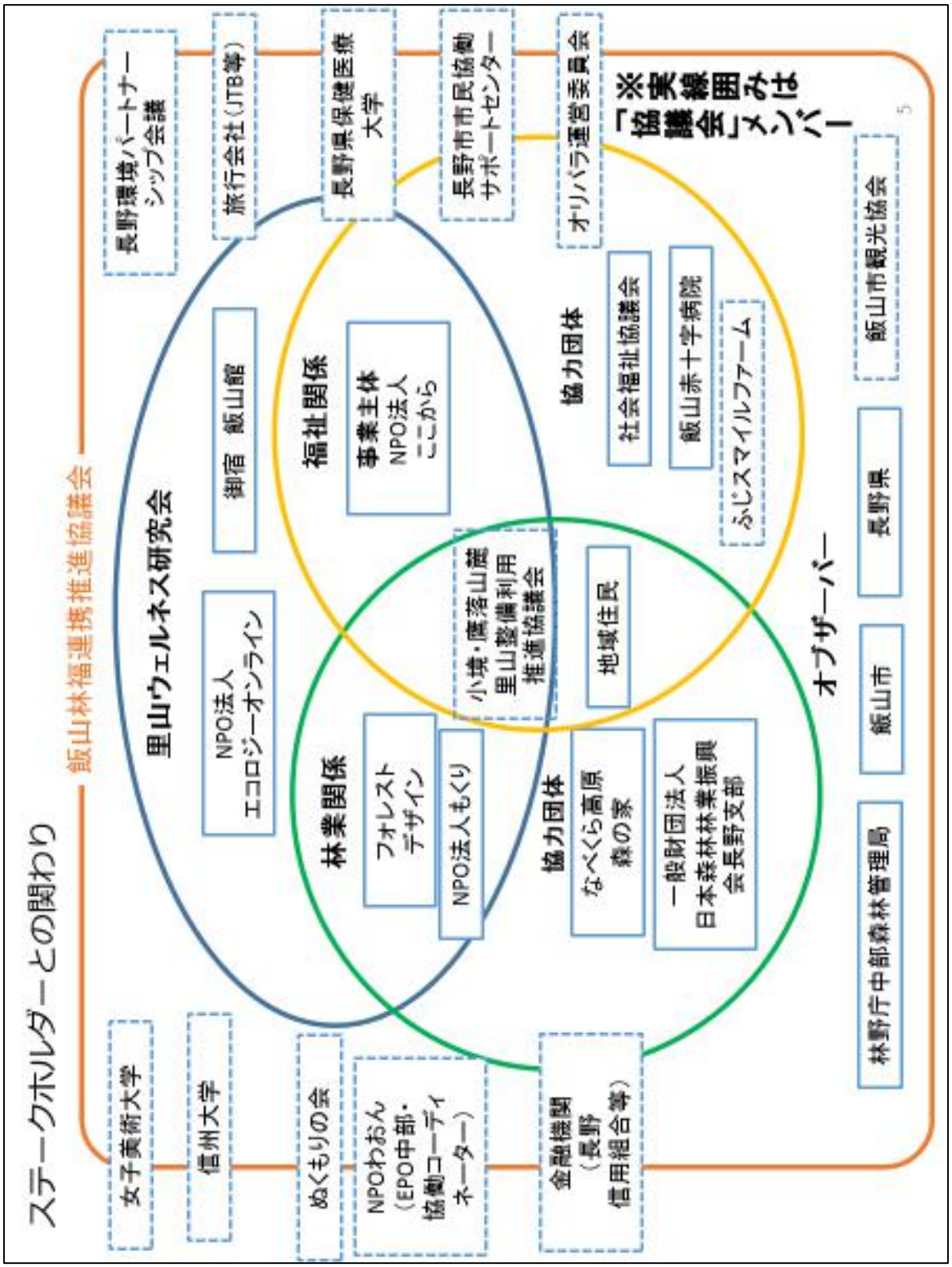
↓

間伐材の未利用木材商品の付加価値と障がい者支援

↓

①未利用木材の新しい活用方法、林業家の新たな収入源の確保
②福祉施設入所者等の新しい支援先、支援方法の開発
③里山への地域の関心向上、里山保全へ

4


ステークホルダーとの関わり
飯山林福連携推進協議会
女子美術大学
信州大学
ぬくもりの会
NPOわおん
（EPO中部・
協働コーディ
ネーター）
金融機関
（長野
信用組合等）
長野環境パートナー
シップ会議
旅行会社（JTB等）
長野県保健医療
大学
長野市市民協働
サポートセンター
オリパラ運営委員会
※事業線囲みは
「協議会」メンバー
飯山市観光協会
長野県
飯山市
林野庁中部森林管理局
オブザーバー
里山ウェルネス研究会
御宿　飯山館
NPO法人
エコロジーオンライン
福祉関係
事業主体
NPO法人
ここから
協力団体
社会福祉協議会
飯山赤十字病院
ふじスマイルファーム
小境・蕎落山麓
里山整備利用
推進協議会
地域住民
林業関係
フォレスト
デザイン
NPO法人もくり
協力団体
なべくら高原
森の家
一般財団法人
日本森林林業振興
会長野支部

飯山ログファイヤー

明かり、コンロ、
暖取り　ひとつで3役

＜ForestGood2018間伐・間伐材利用コンクール審査委員長奨励賞受賞＞

ログファイヤーは、上部を加工して、大幅に着火スピードを向上！（特許取得！）

＜大きさ別の参考価格＞

サイズ	直径	長さ（高さ）	価格(円:税込)	
			皮付き	皮なし
小	12cm以上18cm未満	20cm～30cm程度	1,500	1,900
中	18cm以上24cm未満	30cm～40cm程度	2,700	3,400
大	24cm以上30cm未満	40cm～50cm程度	4,500	5,400
特大	24cm以上	50cm以上	要相談	要相談

燃焼実験等を実施して＜規格基準＞を設定
基本寸法：直径：20～25cm程度・長さ：35～45cm程度・含水率：20%以下

6

2年間の主な活動

協議会と報告会の開催

平成30年7月にNPO、市民、企業、行政等で飯山林福連携協議会を発足させ、平成30年、31年度ともに年間4回協議会を開催。

各年最後には事業の報告会とセミナーを開催。

飯山市内のイベントで活用

小境地区の夏まつり
いいやま雪まつり
いいやまかまくらまつり
などで活用

地域住民等へ製作講座の開催

地域における本事業の活動への理解と新たなログファイヤー製作の担い手の育成を目指した製作講座と交流会を開催

交流会の開催

いいやま里の家にて、地域の人とログファイヤーを囲んだ交流会を開催

7

＜ログファイヤー製作工程の障がい者(精神障害)の作業実証事業＞

作業者や支援施設担当者と相談しながら使用する
工具や安全具の使用などを模索

◎使用した主な道具

・曲面カンナ・ナタ・皮はぎ鎌

・ベルトサンダー・両手皮剥

＜利用者の感想＞

・とてもやりがいがあった。こんな仕事をしてみたい。

・やりやすい道具も作ってくれて良かった。

・腰が痛かったけど、楽しかった。・やりがいがあった。

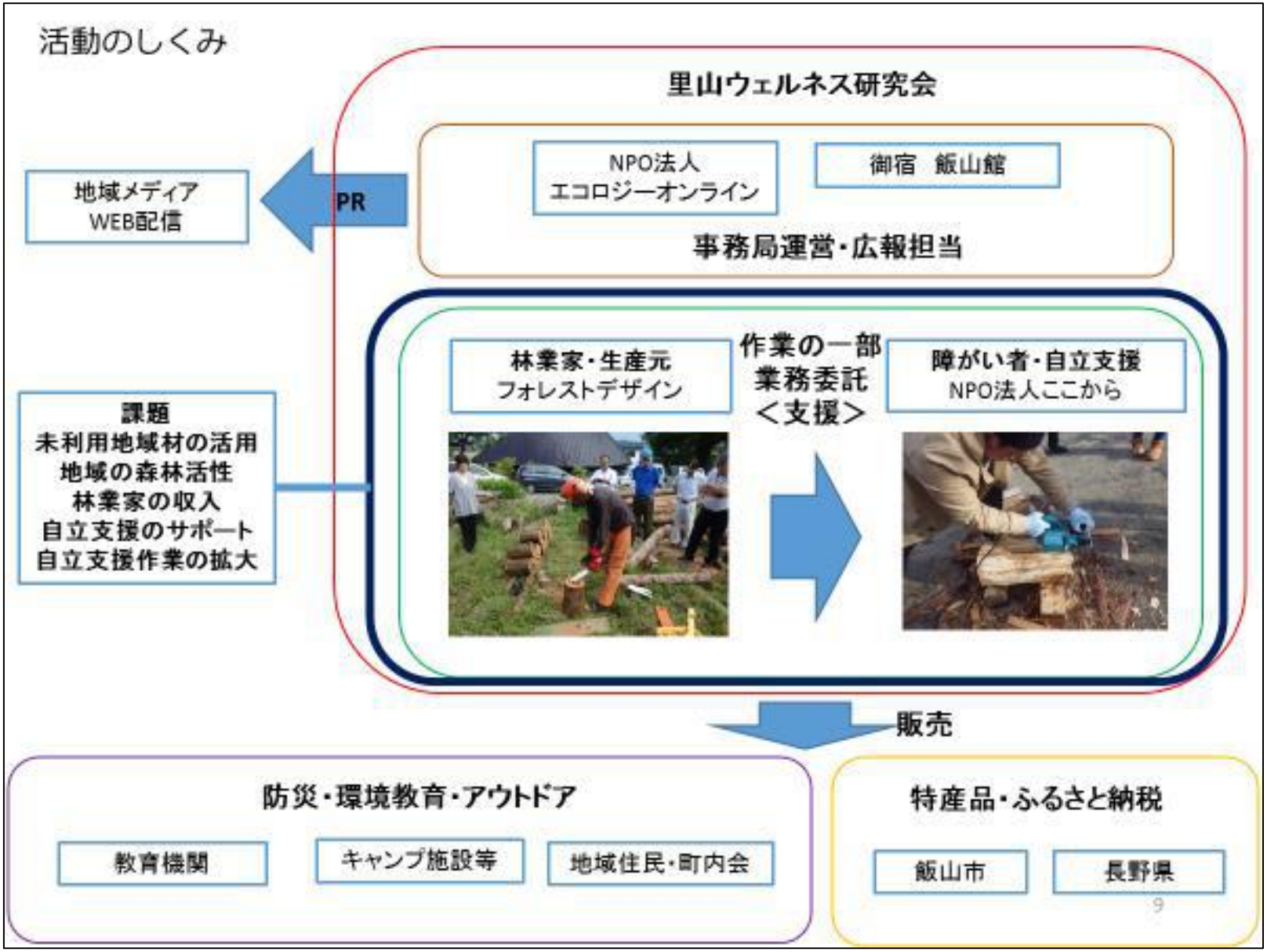
・始めは緊張したけど、少しずつ慣れていった。

まだ、緊張はするけど、楽しかった。(3回参加)

＜支援員の感想＞

皮むき作業の体験と道具の選定ということで活動することができ、利用者の中で作業に対する心構えができたのは良かった

・緊張しやすいという特性の方たちが、作業を通じて他の人と関わり、指導を受けていくにつれて、少しずつご本人が自信をもって活動していく様子が見られた。


活動のしくみ
里山ウェルネス研究会
NPO法人
エコロジーオンライン
御宿　飯山館
事務局運営・広報担当
地域メディア
WEB配信
PR
課題
未利用地域材の活用
地域の森林活性
林業家の収入
自立支援のサポート
自立支援作業の拡大
林業家・生産元
フォレストデザイン
作業の一部
業務委託
＜支援＞
障がい者・自立支援
NPO法人ここから
販売
防災・環境教育・アウトドア
教育機関
キャンプ施設等
地域住民・町内会
特産品・ふるさと納税
飯山市
長野県
9

飯山林福連携事業の（2年間の）成果とは …2019.12.16 協議会でディスカッション

本事業での位置づけ

「飯山ログファイヤー」
障がい者等が加工・生産作業を行ったログファイヤーと位置づけ

「飯山ログファイヤー」の付加価値として発信していくこと
着火しやすい、保存に適しているなどの機能面に加えて、障がい者の方たちが加工・生産作業を行っていること

環境

【課題】間伐された木材利用が進まない
- 里山の手入れの不足
- 資源循環が進まない
- 冬の雪の量が多い

■障がい者の「森の利用」にもつながっている

■地域の人が地元の里山・森・木に関心をもつように：里山の林道整備等(地域側も一部事業費負担あり)にも地域住民の賛成で促進へ

■里山の間伐した場所にカタクリが生育しはじめた

■ログファイヤー販売（全国）展開

■地元キャンプ場、ホテル等から発注の動き

■未利用間伐材に価値を付加

■ログファイヤー製作体験会で地域の林業家や住民にログファイヤーの製作方法を普及（計13人が参加）

■ログファイヤーの規格を明確化

■飯山ログファイヤーの地域イベントでの活用

■産学官民が生み出す林福連携事業になった

■福祉と林業（森林）系の人が話し合う場ができた

■「森林サービス」産業の取組

→新たな飯山版「里山サービス」のスタート

社会

【課題】障がい者の雇用支援の不足
- 里山の整備人口の減少化、里山の整備人口の減少
- 地域住民の意識の低下
- 地域でのつながりがない
- 障がい者の受け入れ場不足

■福祉施設の人がログファイヤー生産の加工に携わる生産のため1人を新規雇用

■福祉施設の人が2年間でのべ約25人が加工作業を行い、飯山ログファイヤー約50本を生産・加工

■障がいのある方の生活の場の増加、選択肢の増加

経済

【課題】冬期の林家及び林業従事者等の収入の減少
- 冬場の働き場の不足
- 新しい木材製品が生まれてこない
- 地域経済循環が少ない

<作業した障がい者・施設スタッフの声(作業体験アンケート結果より)>

■楽しかった。始めは難しかったけど、やりやすい道具も作ってくれて良かった。■はじめは緊張したけど、少しずつ慣れていった。まだ、緊張はするけど、楽しかった。■施設から出ての作業は利用者のモチベーションが上がったように感じた。■作業を通じて他の人（林業家）と関わり、指導を受けていくにつれて、少しずつご本人が自信をもって活動していく様子が見られた。

間伐材の活用＋森林空間の活用
→地域の里山に対する関心向上、関係人口の創出

2年間に実施したこと

これから実施予定のこと

大学と連携して森林空間における認知症予防プログラムの実証研究

飯山市と連携して森林セラピー事業（従前から展開）

里山の維持管理に利用する林道を整備（県事業）

大学と連携して間伐材を活用した古民家建築プロジェクト

NPOの里山活用プロジェクト「森カフェ」インストラクター養成講座でログファイヤー活用予定

里山・森林空間を活用した環境学習プログラムづくり

大学生の出張カフェサークルにログファイヤー提供

障がい者が加工作業を行ったものを「飯山ログファイヤー」と命名

ログファイヤーの全国販売（日本森林林業振興会との提携手続き中）

障がい者のやりがいづくりとして作業者「コメントカード」を実施予定

ログファイヤーの「ふるさと納税」登録（手続き中）

障がい者の作業の安全確保のための「治具」の工夫・開発（継続中）

ログファイヤーのオリパラ活用（現在、関係機関と協議中）

障がい者の作業実証
⇒作業の安全性・使いやすい道具などを検証

ログファイヤーの標準サイズ等規定づくり

作業に参加した障がい者、支援NPO等への意識調査

林業家・地域住民を対象にログファイヤー製作講座開催
⇒ログファイヤーの製作方法の普及と地域材化

ログファイヤー製作手順マニュアルづくり

旅行会社に里山体験プログラム提案

ログファイヤー使用者への利用意向調査

燃焼実験
⇒含水率別の着火時間の計測

飯山市内のほかの福祉施設・団体による実証の継続

多様な里山活用
⇒新たな「森林サービス」の提供

環境
■里山の間伐材の活用
■森林「空間」の活用

障がい者の里山活用

里山の間伐材の活用

社会
■障がい者による木材加工品づくり
■障がい者の居場所づくり
■地域住民の地域課題への関心向上

障がい者の自立支援、居場所づくり

経済
■新しい地域産品「飯山ログファイヤー」の開発・販売
■里山・森林を活用した新しい観光プログラム等関係人口創出

ログファイヤーの開発・生産

「飯山ログファイヤー」の付加価値として
障がい者による加工作業
着火しやすい工夫（特許取得）

障がい者による作業＝自立支援
→付加価値として発信

ログファイヤーの開発・販売
→未利用間伐材の活用と付加価値創出

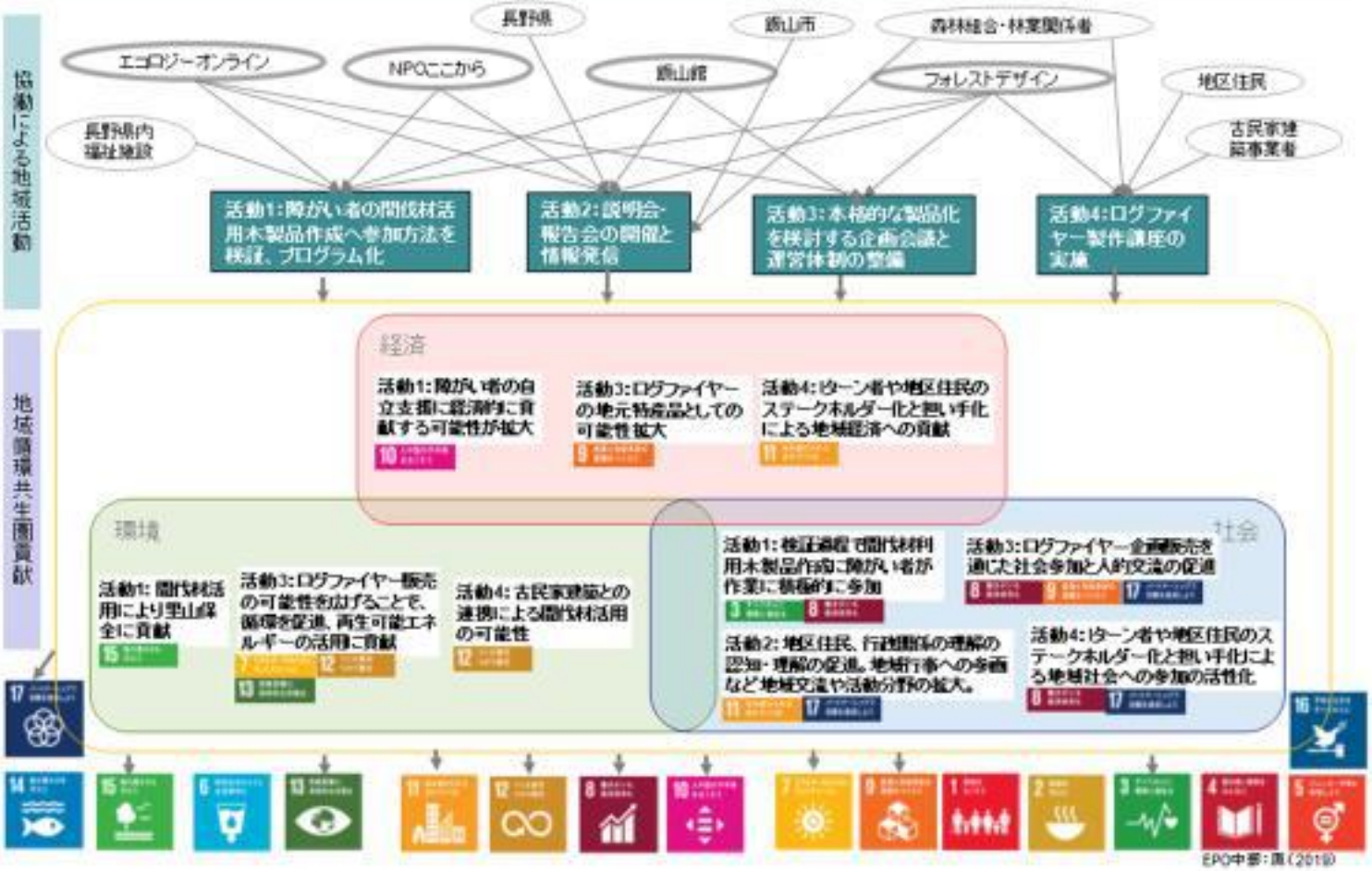
活動の意義(評価)
分析チャート

里山保全体験を通した 障がい者雇用促進を目指すプログラム事業

2018年4月～2019年12月

里山ウェルネス

①森林保全のために間伐された木材利用が進まない②障がい者雇用支援の不足③冬期の林家及び林業従事者等の収入減少)の課題に対し里山ウェルネス研究会設立。環境省「持続可能な開発目標(SDGs)活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定され、関係団体を組織化し、ログファイアー(間伐材活用の木ろうそく)などの間伐材加工に障がい者が参画する林福連携プログラムを開発し里山地方の地域活性化を図るモデルを創出することとした活動を推進。



EPO中部:国(2019)

12

今後の活動にむけて

①ログファイヤーの活用

今後の展開	内容
「森カフェ」講座等での飯山ログファイヤー活用	里山空間活用プロジェクト「森カフェ」主宰団体NPOわおんとの連携による森カフェでのログファイヤー活用の定着・ツール化
地域イベント等での飯山ログファイヤーの活用・PR	地域の祭りでの奉納、かまくらまつり等イベントでの定番化、出張カフェ学生サークルとの提携展開など
全国各地での普及	林野庁と協働で、国有林を活用したログファイヤーを製作・普及を行う
障害スポーツの場での活用	まず、2020パラリンピックにおけるログファイヤー活用へ
福祉事業研修の場への発展	障がい者だけではなく、引きこもり者や高齢者などのほかの福祉における研修の場への発展。

②新たな森林活用・地域活性化に向けて

大学等と連携した森林活用プロジェクトの継続と新たな展開	信州大学建築学科学生との間伐材を活用した古民家づくりのプロジェクト、そのほか環境学習プログラムづくり
森林環境を活用した認知症予防の取組の中心拠点づくり	東北医科薬科大と連携した認知症予防における非薬学療法の可能性を探る研究の実施体制作りを開始（今春から開始予定）
SDGs、環境教育等の研修の場づくり	旅行会社（JTB）販売員向けサイトや教員向けサイト等へのプログラム登録
里山と地域を結ぶの新しいプラットフォームづくり	里山ウェルネス研究会による森林と地域（人）を結ぶソーシャルビジネスプラットフォームへの進化
干し柿を使ったお菓子を開発	地区内にたくさんの柿の木が植えられており、アウトドア等の旅行で来られた方へのカロリー補給やお土産として提供。

→ 山づくりの取組でも一番を目指す組織へ
（飯（米）でも一番、山（森林）でも一番を実現する飯山プラットフォームへ）

（参考資料 ４）皮むき作業におけるヒアリングのまとめ

実施日	出席者数		主な実証内容
	施設利用者	支援員	
５月 22 日	５名	１名	皮むき作業・やすりがけ作業
７月４日	２名	２名	皮むき作業・やすりがけ作業
９月 12 日	３名	１名	皮むき作業・やすりがけ作業
10 月 21 日	４名	１名	皮むき作業・やすりがけ作業
12 月 19 日	４名	１名	皮むき作業・やすりがけ作業

＜利用者の感想＞
・とてもやりがいがあった。こんな仕事をしてみたい。（1 回参加）
・楽しかった。始めは難しかったけど、やりやすい道具も作ってくれて良かった。（全参加）
・腰が痛かったけど、楽しかった。夢中になって作業できた。だんだんと仕上がっていく数が増えていって、やりがいがあった。（全参加）
・始めは緊張したけど、少しずつ慣れていった。まだ、緊張はするけど、楽しかった。（3 回参加）
・難しかったけど、少ししたら慣れた。また、やりたい。（1 回参加）
・疲れたけど、楽しかった。（2 回参加）

＜支援員の感想＞
・去年、皮むき作業の体験と道具の選定ということで活動することができ、利用者の中で作業に対する心構えができたのは良かった。
・施設から出て、皮むき作業をするという雰囲気の場所で作業できたことは、利用者のモチベーションが上がったように感じた。また、毎回、丁寧に指導していただけて良かった。
・皮むきの作業に関して、始めは体験の続きの気持ちだったようだが、指導者（余頃さん）からの用途別の利用方法などを聞いていくうちに、仕事としての活動という気持ちが芽生えていったように感じた。
・緊張しやすいという特性の方たちが、作業を通じて他の人と関わり、指導を受けていくにつれて、少しずつご本人が自信をもって活動していく様子が見られました。すぐに緊張は解けなくても、「作業をする」「仕事をする」ということがご本人達に大きな変化をもたらしたと思います。
・自立訓練施設は 2 年間あるいは 3 年間での受け入れ施設なので、ずっと同じ利用者がいることはないが、グリーンシーズンに 1 か月に 1～２度くらいのスパンでこのような活動があると気分転換にもなるのでありがたい。

（参考資料 ５）ログファイヤー使用におけるアンケート用紙と結果

ログファイヤーアンケート

＊当てはまるものすべてに○をつけてください。

A. 性別

男　・　女

B. 年代

10 代・20 代・30 代・40 代・50 代・60 代・70 代以上

C. ログファイヤーまたは木ろうそくをご存知ですか？

１．しっている　２．聞いたことはある　３．しらない（聞いたことない）

３の人はＥにお進みください

D. Ｃで１と２の方にお聞きします。何で知りましたか？

１．テレビ　２．新　聞　３．雑　誌　４．どこかの催し物　５.知人を通じて

６．どこかのサイト（具体的にわかれば　　）

７．その他（　　）

E. 今まで、木材を使った生活用品（お箸、スプーン、茶碗、コップなど）を使用したことはありますか？または使ってみたいと思っていますか？

１．使ったことがある　２．使っていないが使ってみたい意欲はある

３．木材ではないが地球環境に配慮したものを選ぶようにしている　４．考えたことがない

F. 今回、実際にログファイヤーを使用してよかった、楽しかったですか？

また、その理由も教えてください。

１．良かった（楽しかった）２．普通　３．良くなかった

理由（例：着火が楽しかった、料理がよかった、難しかった　など）

G. ログファイヤーはどんな場所・用途で使用した方が良いと思いますか？（複数回答可）

１．レジャー（キャンプ場）　２．学校教育（環境教育）　３．家庭（普段使い）

４．お寺（奉納）　５．防災備蓄品など　６．灯としての利用　７．調理器具

８．オブジェ　９．特にない

１０．その他（　　）

H. 今回使用したログファイヤーを購入するとしたら、希望価格はどのくらいですか。

１．3,000 円くらい　２．5,000 円くらい　３.10,000 円くらい　４．10,000 円以上

５．その他（　　）

I. ご意見・ご感想があればご自由にお書きください。

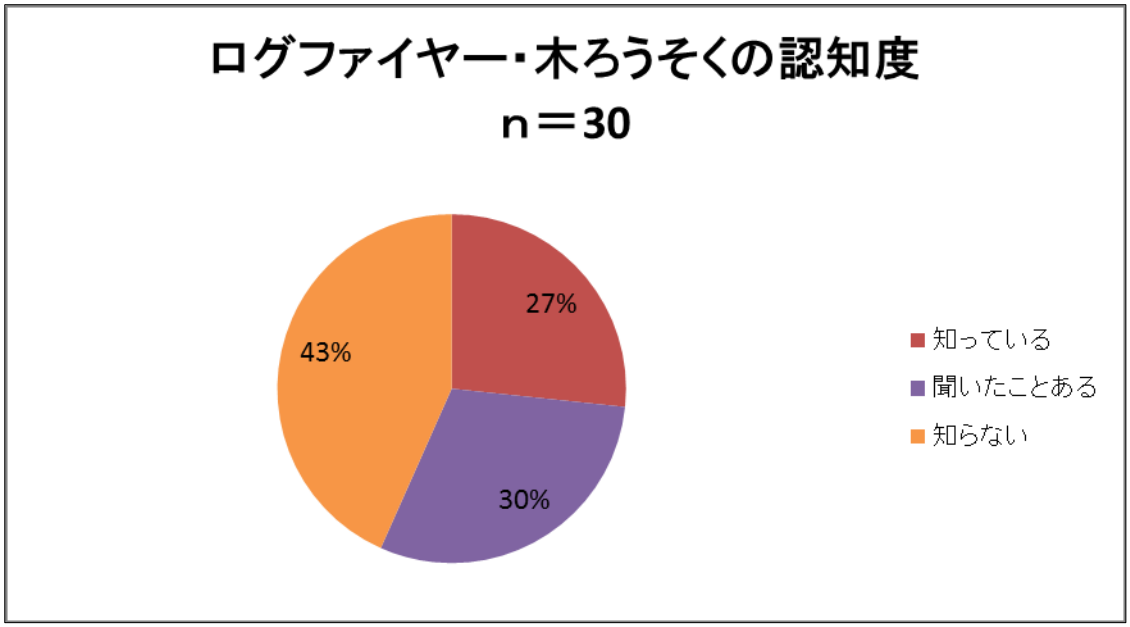
＊着火体験をされた方は着火までの時間をご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

＜アンケート結果＞

C. ログファイヤーまたは木ろうそくをご存知ですか？

１．しっている　　２．聞いたことはある　３．しらない（聞いたことない）

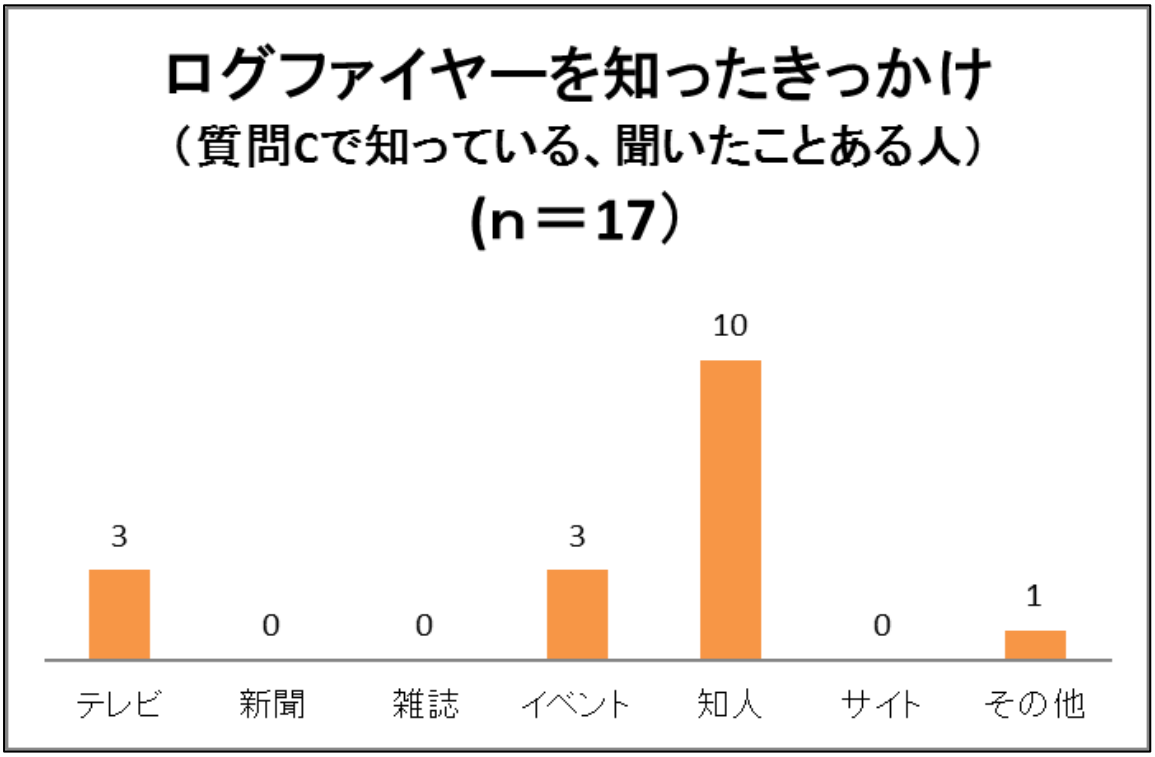


D. Ｃで１と２の方にお聞きします。何で知りましたか？

１．テレビ　２．新　聞　３．雑　誌　４．どこかの催し物　５.知人を通じて

６．どこかのサイト（具体的にわかれば　　）

７．その他（　　）



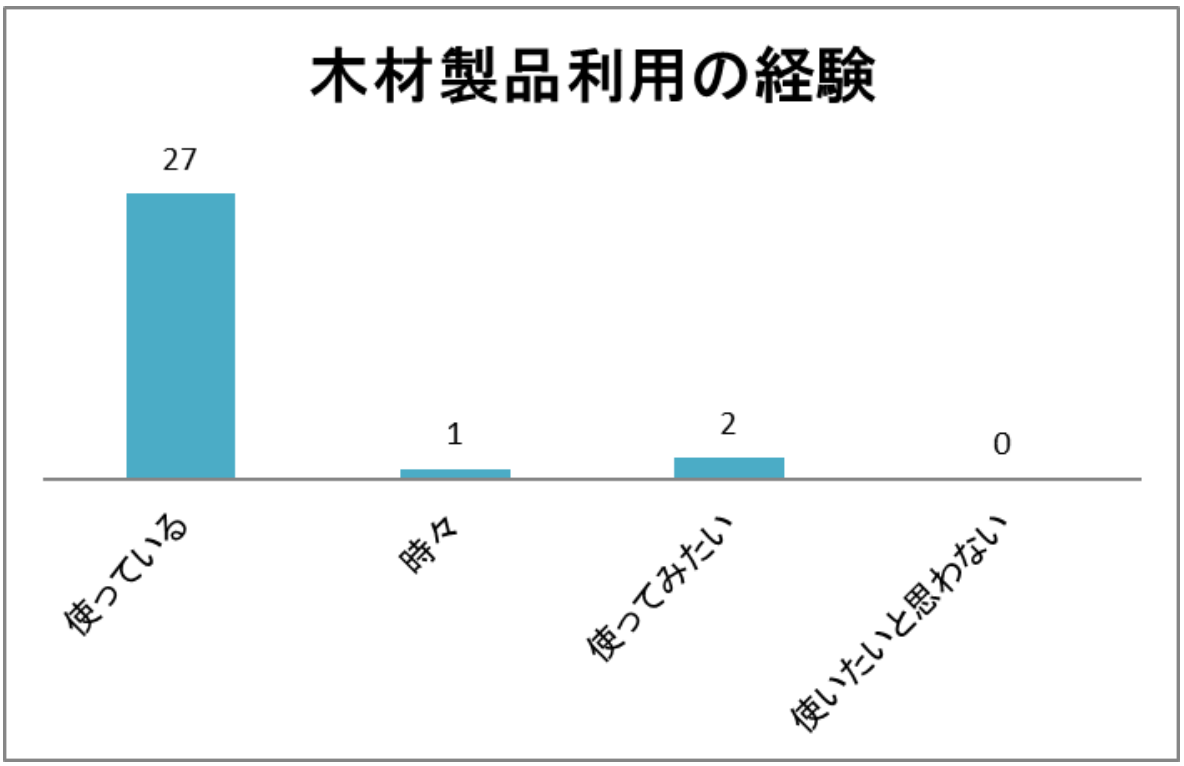
＊その他の回答：学校

E. 今まで、木材を使った生活用品（お箸、スプーン、茶碗、コップなど）を使用したことはあ

りますか？または使ってみたいと思っていますか？

1．使ったことがある　2．使っていないが使ってみたい意欲はある

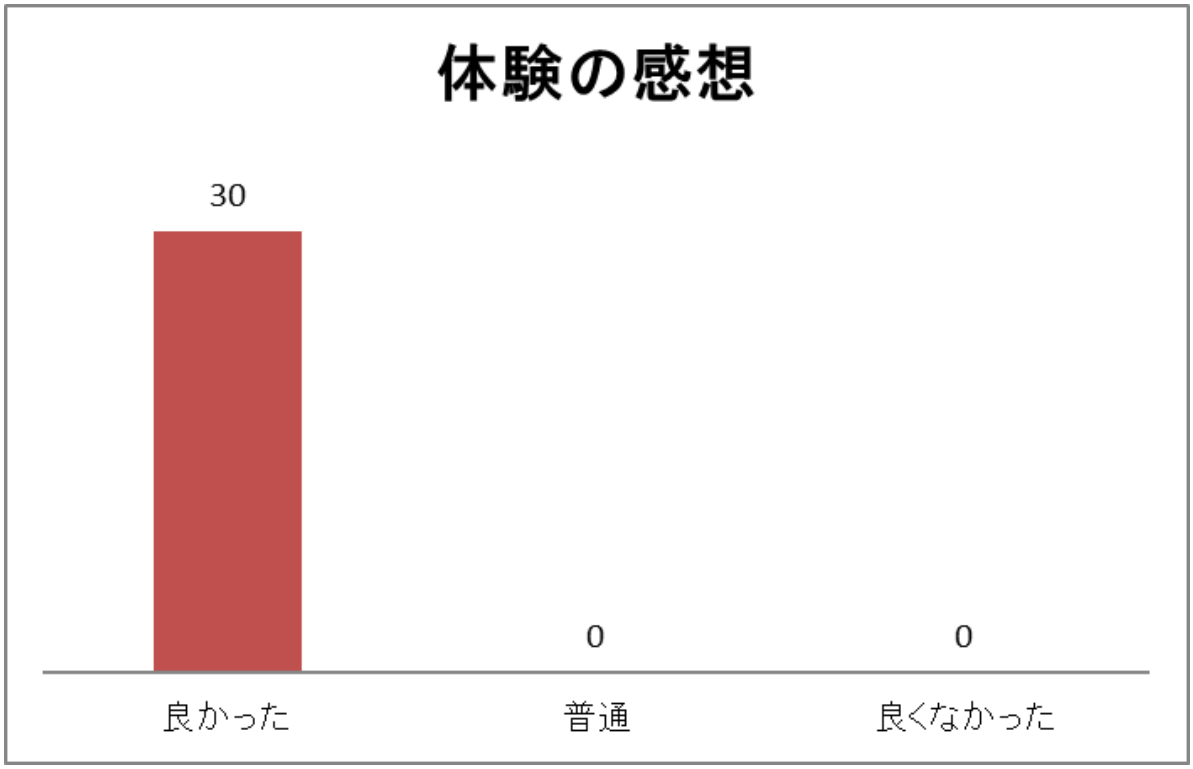
3．木材ではないが地球環境に配慮したものを選ぶようにしている　4．考えたことがない



F. 今回、実際にログファイヤーを使用してよかった、楽しかったですか？

また、その理由も教えてください。

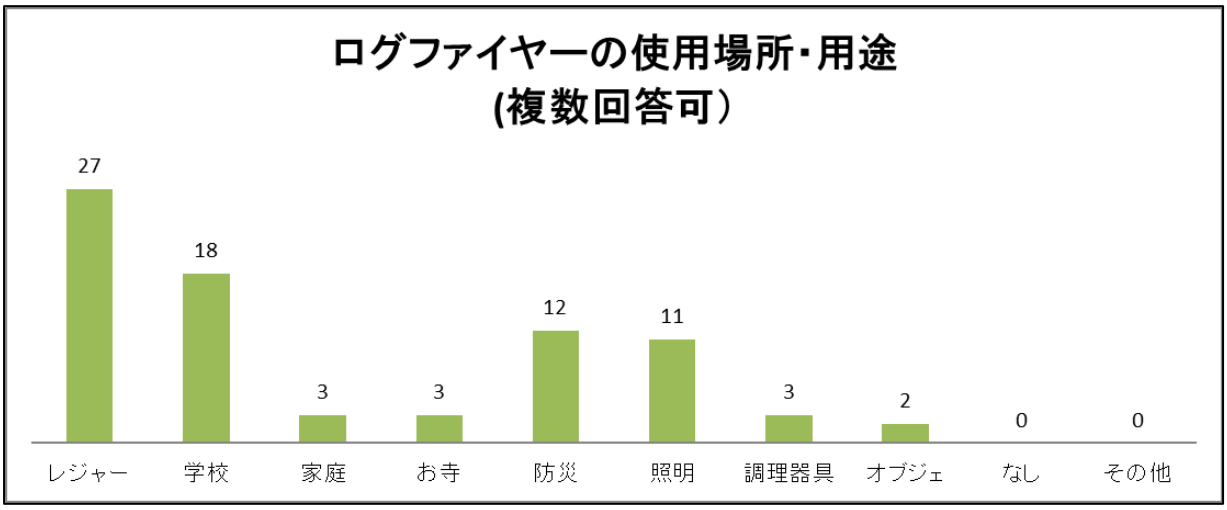
1．良かった（楽しかった）2．普通　3．良くなかった



＊コメントとして：焼きマシュマロがおいしかったという意見が多数複数あり

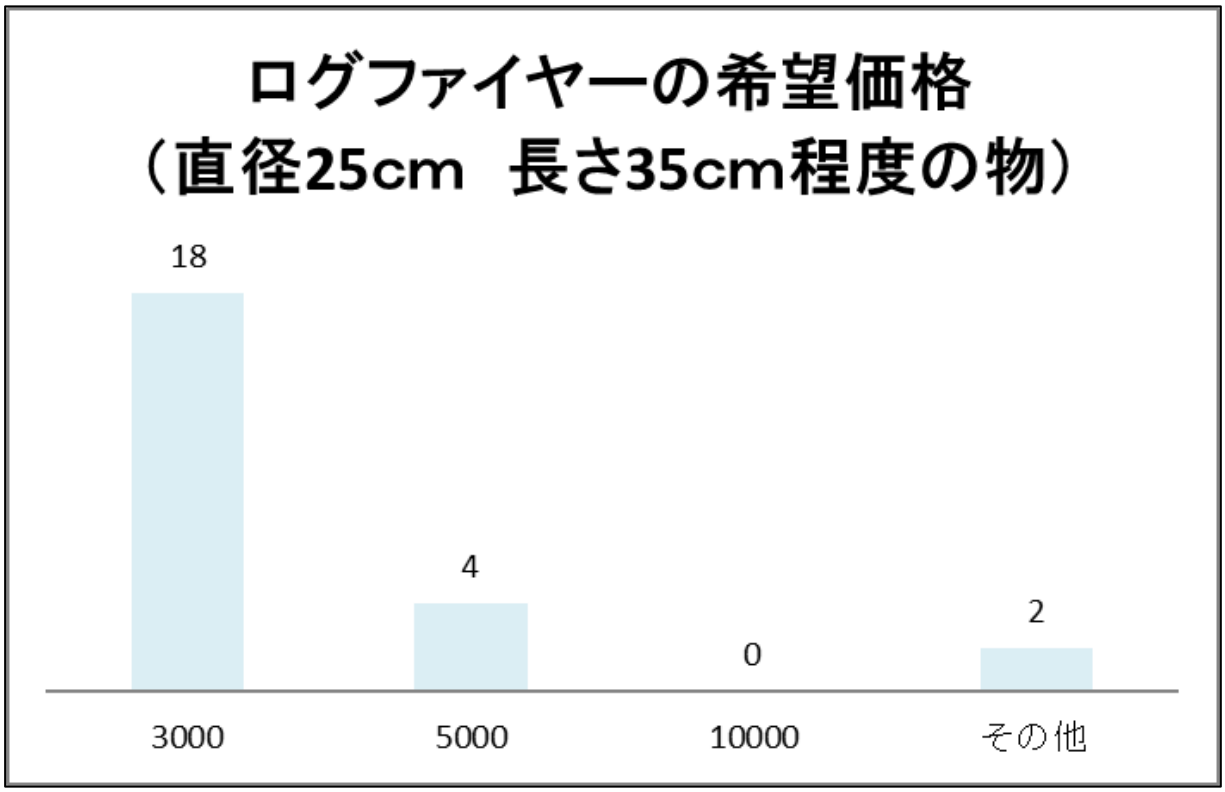
G. ログファイヤーはどんな場所・用途で使用した方が良いと思いますか？（複数回答可）

１．レジャー（キャンプ場）　２．学校教育（環境教育）　３．家庭（普段使い）
４．お寺（奉納）　５．防災備蓄品など　６．灯としての利用　７．調理器具
８．オブジェ　９．特にない
１０．その他（　　）



H. 今回使用したログファイヤーを購入するとしたら、希望価格はどのくらいですか。

１．3,000 円くらい　２．5,000 円くらい　３.10,000 円くらい　４．10,000 円以上
５．その他（　　）



＊その他の回答：1,500 円（2 名）

ログファイヤー®の使い方

●着火前に

・ログファイヤーは、雨のあたらない風通しの良い場所で保管し、乾燥したものをお使いください。日当たりが良いところですとなお良いです。

・木のトゲや火から手を保護するため、軍手などを着用して使用してください。

・安定した場所にログファイヤーを設置してください。長いログファイヤーは、底に幅の広い板をビス留めするなどして、安定させてください。

・安全確保のため、バケツ等に十分な水を準備してください。

・割れ防止および隙間確保のため、切り込みに枝や板を挟んである場合があります。取り除いてお使いください。取り除いた枝や板は焚きつけとしてお使いいただけます。ただし、枝や板を取り除くことによって切り込みが閉じるようでしたら隙間確保のため、そのまま挟んでおいてください。

●着火

・ログファイヤーの上部のくぼみに、火のついた炭を置くか、固形の着火剤または小枝や割り箸に新聞などの紙を焚きつけにしてライター等で火をつけてください。うちわ等で煽ぐと、ログファイヤー本体への着火が早まります。

・着火剤を使用する場合は、ゼリー状のものや着火後溶けてしまうものは避けて、固形のものを使用してください。通常は 1 時間半程度燃えていますが、溶けやすい着火剤をお使いになり、火が切り込みの底部に早く届いてしまいますと、早く燃え終わります。

・一度ログファイヤー本体に着火すると、あとは自然に切れ込みに沿って火が下がりながら燃えていきます。

●燃焼中

・ログファイヤーに完全に火がついた後、ログファイヤーの上部にヤカンや鍋などをのせると、お湯を沸かしたり調理したりすることができますが、燃焼するに従い上部が薄くなっていきます。さらに燃焼させると、重量に耐えられず折れますので、適当なタイミングで上部にのせた物は下ろしてください。

・風が一定方向から吹いている場合は、燃焼に偏りができます（側面の燃え方に差がでます）ので、回転させながら使用してください。

・火が強すぎる場合は、水をかけて火力を落としてください。完全に消火しなければ再度火力は回復してきます。
逆に火が弱まりましたら、ウチワ等で煽いでください。ただし、ログファイヤーは上部から燃えていき、切り込みの下部にいくほど、火が弱まりますので、火が下部に届く辺りでは、煽いでも炎は出ません（おき火の状態で燃えています）。

●消火・終了

・切れ込みの下端まで火が届いたら、自然に火が弱まり消えていきます。
ログファイヤーの底部と側面の一部は燃え残ります。

・確実に鎮火させるため、水をかけて煙が出なくなるのを確認してください。また、温度が下がったことを確認してください。

・焼け残った部分は、行政区のルールに従って適切に処分しましょう。

●免責事項

・本製品によって生じるいかなる傷害や損害等についても一切責任を負いません。

（参考資料　7）機関紙に掲載されたログファイヤーの記事

長野市協働サポートセンター　機関紙まんまる　「まんまる 20 号 2019 春」に掲載

里山わくわく研究会

協働でいくつもの課題を同時に解決

里山わくわく研究会は、昨年3月に立ち上がりました。飯山市を拠点に森づくりや里山体験と福祉の連携によって、地域の暮らしと健康を守る活動をしようというものです。

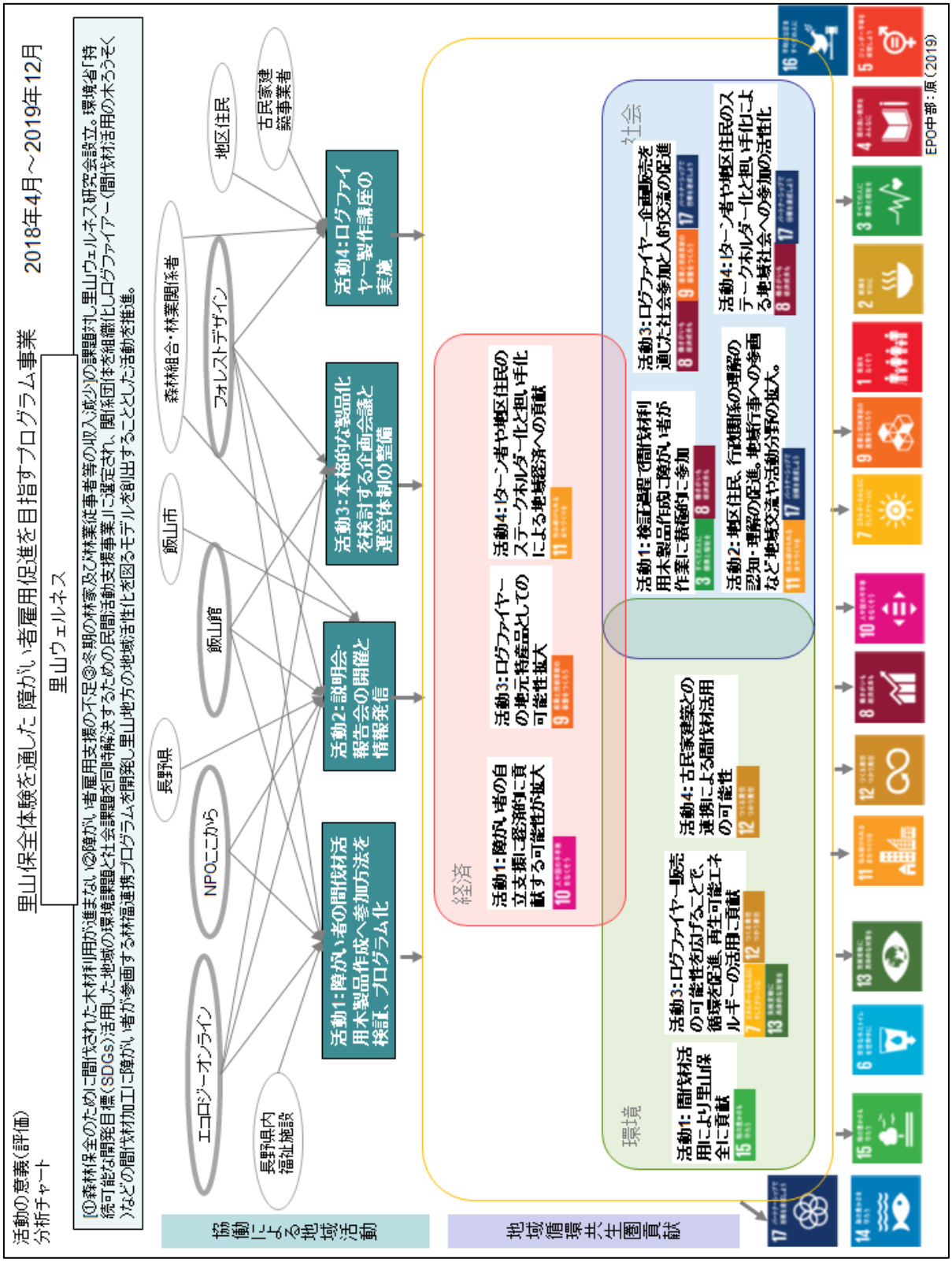
昨年秋から、地域の間伐材を活用した「ログファイヤー」作りに取り組んでいます。丸太の皮をむき、切れ目を入れたもので、着火して暖を取ったり、料理をしたりと使い方はいろいろ。その工程の一部を就労支援施設の精神障害者が担っています。

ログファイヤー用丸太の皮をはがしています

この事業は、環境省の「平成30年度持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」を活用して実施しています。扱う材木は人工林のもので、良質の材木が出にくく、活用の方法が限定されてしまったもの。一方福祉施設側は、男性利用者の活動の場を必要としていました。活動はスタートしたばかりですが、うまく進めば、森を守り、資源を活かし、障害者の働く場を確保するという複数の課題解決が実現します。

会のメンバー余頃友康さんは、「今後も今までにない視点で福祉との連携を模索していきたい」と話しました。

（参考資料　８）SDGs 評価シート



この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料［Aランク］のみを用いて作成しています。